公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団
令和６年度事業報告

（令和６年４月１日から令和７年３月３１日まで）

はじめに

令和６年度も引き続き、各施設において積極的な調査研究、普及啓発を行うとともに、施設間や他団体と連携した事業に意欲的に取り組みました。コロナ禍以降に定着した博物館資料のデジタル化や講演会のオンライン配信、ＳＮＳを活用した情報発信等のデジタル関連事業を引き続き推進し、動画再生回数やフォロワーの獲得、効果的な広報につなげる等、一定の成果を収めることができました。

第７期の協約目標については、様々な取組の結果、５項目すべてで「達成」または「順調」となっています。

令和７年１月に開館 30 周年を迎えた歴史博物館では、開館以来の研究成果に関する特別講演会を実施したほか、新動画コンテンツの制作や過去の企画展ポスターを紹介した「ポスター展」の開催、開館 30 周年記念特別展示開催に向けた準備を進めました。また、寄付・会員制度を通じて歴史博物館をご支援いただく事業として「横浜レキハク・パートナーズ」を立ち上げました。今後、さらに市民や社会のニーズに沿った事業を展開していくための新たな仕組みとして活用していく予定です。

４年目となる開港資料館の文化観光拠点計画では、デジタルアーカイブを作成し、約 20 万点の資料情報を一元的に閲覧することが可能となりました。旧館整備工事としては、新館と旧館をつなぐバリアフリーの連絡通路付け替え工事等を実施しました。オリジナルグッズの開発等により、ミュージアムショップの売り上げも大きく伸びています。

都市発展記念館・ユーラシア文化館では、空調設備更新工事のため４月～７月の間、休館となりましたが、休館期間を利用して展示室の環境を整備し、都市発展記念館では「河川運河」をテーマとした企画展や関連アウトリーチ展、ユーラシア文化館では横浜市・仁川市パートナー都市協定 15 周年を記念した韓国服飾関係の特別展を開催しました。

埋蔵文化財センターでは、継続して横浜市等からの発掘調査事業を複数受託し、調査報告書を刊行する等の学術的な成果を挙げるだけでなく、事業収入面でも財団の安定的な経営基盤に大きく寄与しました。

文化庁をはじめとした国庫補助金や協賛金の確保に加え、開港資料館の「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備や「横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム」等の一部事業へはクラウドファンディングを導入する等、外部資金の確保にも積極的に取り組んでいます。

今後も経営環境の整備とともに、各施設の連携を一層促進することで組織力を強化し、財団一体となってその使命を達成していきます。

Ⅰ　財団本部事業

１　財団本部事業（定款第４条第１項第３号）

諸会議の運営や事業調整を実施し、円滑な組織の運営を図るとともに、公益財団法人として、理事会・評議員会の開催、神奈川県への報告等を適切に実施しました。

	事業区分	事　業　内　容
1	円滑な組織運営	（１）人材育成を図るための研修 ・内部研修 個人情報保護研修の実施 ・外部研修 公益法人協会の会計研修、人事労務研修、役員向け研修への参加 年末調整、定額減税、算定基礎に関する説明会への参加 メンタルヘルス研修、横浜市主催の各研修にオンライン参加 （２）職員が自らのキャリアパスを意識できる申告制度の実施 職員自己申告の実施 （３）役員会議等の諸会議の開催、規則整備 役員会議（第１部、第２部）　月２回 課長会議　月２回程度 担当係長会議　月１回程度 ＜主な内容＞ ・人材採用・育成計画について ・協約目標（令和６年度～８年度）について ・文化庁補助事業について ・収支状況について
2	人事労務・財務の管理	（１）職員の採用、異動等雇用管理 （２）就業規則ほか諸規則の整備及び運用 （３）給与、社会保険、税金関係等 （４）定期健康診断の実施等による安全・衛生管理、福利厚生施策 （５）職員メンタルヘルスの支援 （６）寄附金・協賛金・クラウドファンディングによる資金獲得の企画調整
3	予算編成と執行管理	（１）予算要求制度の継続実施 （２）予算編成、執行管理、決算の実施
4	災害対応	（１）各施設の危機管理マニュアルの見直し （２）各施設での防災訓練の実施
5	理事会・評議員会の開催	（１）理事会の開催　年５回（リモートを併用） （２）評議員会の開催　年３回（書面開催）

		（３）神奈川県への報告
6	所管局への報告・調整	（１）指定管理・委託事業の報告提出(月次、四半期、年度) （２）事業報告・決算書に基づく報告 （３）課題の共有と迅速な対応を図るための意見交換の実施（毎月）
7	共同広報の実施	（１）財団ホームページの管理（情報公開項目の更新等） （２）財団メルマガ「よこはま歴史かわら版」発行 （３）提供ラジオ番組「横濱1歴史のタイムマシーン」（マリンFM）の放送 （４）プレスリリース配信システム「PRTIMES」の利用
8	情報システムの管理	（１）情報システム機器（ソフトウェア等を含む）の更新および保守・管理 （２）情報セキュリティに関する啓発・研修 （３）財団内システムの円滑な運用
9	事業推進	（１）事業戦略に係る共通認識の形成 課長会議、管理運営担当係長会議を通じた共通認識の形成 （２）財団の役割や事業を伝える効果的な広報戦略の実施 （３）市民協働の推進
10	エデュケーター事業	（１）学校連携による財団各施設の利用促進 （２）教職員研修の企画・調整・運営 横浜市教委、小・中社会科研究会、財団が主催する研修 （３）社会科を中心とした授業改善に向けての協力・連携・支援 （４）学校から要請のあった訪問授業への対応 ・実施校 183 校、対象児童 15,178 人 （５）授業コンテンツ動画の制作 ・制作本数６本　・再生回数 134,755 回 （６）博物館来館校の対応 （７）子どもの学びのための資料作成

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
本部事業	公益財団法人として、諸届の事務、業務の調整、諸会議の運営、予算執行管理や人事労務事務等を適切に実施することができました。 エデュケーター事業では、学校への訪問授業を積極的に実施し、協約目標である 120 校を大きく上回る 183 校に対応しました。また、授業コンテンツ動画についても、視聴時に活用できる専用リーフレットを配布する等の工夫により再生回数を 13 万回超まで伸ばすことができました。	A

Ⅱ　指定管理事業

1　財団全体としての取組及び事業

令和６年度も様々な組織との連携により、幅広い事業を効果的に実施することができました。

都筑区、青葉区の区制 30 周年を記念して企画展を開催したほか、各区が実施する事業へ講師派遣等の協力を行いました。

横浜美術館のリニューアルオープン記念展への企画協力やワークショップ共同開催、シルク博物館、関東学院大学との協定締結による横浜スカーフ展の企画・監修等、他施設や大学との連携も活発になっています。

企業との取組としては、社屋移転したボッシュ株式会社と関係を構築したほか、「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングに横浜を代表する多数の企業に協力いただき成果をあげることができました。

今後も職員の知識、経験、行動力を集結し、多様な組織と連携しながら、取組を進めていきます。

【多様な組織との連携および地域への貢献】

連携	連携先		中心となる施設	内　容
区・地域との連携	全区		全管理運営施設	・各管理運営施設の所在区をはじめとして、各区の要請等により、歴史文化に関する助言や執筆活動等による支援を実施
	特定テーマや事業を通じた連携	中区	開港資料館 都市発展記念館	・「広報よこはま なか区版」の連載記事「なか区歴史の散歩道」に執筆 ・中区職員向け講座への講師派遣
		保土ケ谷区	埋文センター 歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・「広報よこはま ほどがや区版」の連載コラム「保土ケ谷区のあゆみ ～区制 100 周年に向けて～」に執筆
		金沢区	歴史博物館	・「むかし体験」訪問歴史授業を実施
		港北区	歴史博物館 埋文センター	・横浜の遺跡展「発掘された小机城」及び関連イベントの企画・実施で連携 ・「お城 EXPO2024」への参加、小机城発掘成果をパネル展示・動画により紹介 ・小机城跡発掘調査映像の編集 ・区内小学校における小机城址普及業務、小机小学校・城郷小学校の学習成果の掲示 ・区内小学校での出張授業実施
		青葉区	歴史博物館 埋文センター	・青葉区制 30 周年記念事業の史跡ガイドブック制作事業に協力 ・青葉区制 30 周年記念事業への講師等派遣協力および企画展の実施、区役所パネル展の実施 ・勾玉作り教室、遺跡巡りを開催（青葉台コミュニ

				ティハウス、美しが丘西地区センター)
		都筑区	歴史博物館	・広報よこはま都筑区版への連載記事掲載 ・都筑区制 30 周年記念事業への協力および企画展実施 ・和楽器ワークショップ共催実施 ・都筑図書館・都筑区役所地域振興課と連携し、「丘のよこはま　都筑の谷戸とくらし」と題した都筑区郷土講演会および関連展示を都筑図書館で開催
		栄区	埋文センター	・栄区地域振興課　横穴墓見学会・勾玉づくり教室等を協働開催 ・栄区郷土資料室入室・受付・案内
市との連携	研修会等		開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館 市史資料室	・市職員向け講座等の実施 ・区局主催の研修会への協力 ・市新採用職員研修での講話
	市民局		全施設	・広報よこはま全市版の連載原稿「よこはま彩発見」の執筆 ・広報番組 TVK「ハマナビ」、FM ヨコハマ「YOKOHAMA My Choice!」、ニッポン放送「ようこそ横浜」等への出演
			歴史博物館	・ニッポン放送「Happy Voice! from YOKOHAMA」内「ハッピーイチ押し情報等への出演
			開港資料館 都市発展記念館	・「横浜市開港記念会館保存活用計画検討懇談会」への職員派遣
	賑わいスポーツ文化局		歴史博物館 ユーラシア文化館	・ヨコハマアートサイト助成事業への協力 ・Live ＠横浜にスタチューミュージアムで参加
	環境創造局		開港資料館 都市発展記念館	・「歴史的建造物（旧太田家住宅）整備に関する有識者懇談会」への職員派遣
	国際局		ユーラシア文化館	・友好都市、パートナシップ都市などの関連事業で協力。 ・「仁川・横浜交流写真展」開催。
	保土ケ谷土木事務所		埋文センター	・保土ケ谷区「公園愛護会のつどい」への講師派遣
教育委員会との連携	小中学校企画課 方面教育事務所		全施設	・教材研究資料として財団作成資料等を発信 ・歴史博物館「博物館活用研修」の実施 ・教職員研修への協力
	教職員育成課		全施設	・新採用教員への施設年間無料パスを配布

	生涯学習文化財課	全施設	・歴史博物館「令和 6 年度横浜市指定登録文化財展」の共同開催 ・文化財総合調査への協力 ・文化財調査への協力（小机城跡埋蔵文化財試掘調査の整理作業および報告書作成・発送業務支援） ・文化財修理協議会への協力 ・遺跡現地説明会への協力（小机城跡発掘調査成果報告会の運営等支援） ・関家住宅公開事業の共催 ・横浜市文化財保存活用地域計画に係る文化庁視察対応 ・小学生向け「昔のくらし」動画の配信 ・歴史博物館「子どもアドベンチャーカレッジ2024」への参加
	都筑図書館	歴史博物館	・都筑図書館・都筑区役所地域振興課と連携し、「丘のよこはま　都筑の谷戸とくらし」と題した都筑区郷土講演会および関連展示を都筑図書館で開催
	中図書館	ユーラシア文化館	・「中区ブックフェスタ」に参加
	栄図書館	埋文センター	・展示「いたち川流域の横穴墓」で共催
市・区研究会との連携	社会科研究会（市・区）	全施設	・教員研修講師、施設見学、教材研究用資料案内 ・小学校博物館利用研究会の運営支援 ・中学校教材開発研究会の運営支援
学校との連携	小学校	全施設	・歴史学習、社会見学、展示見学の受入 ・学芸員、エデュケーターによる訪問授業
	小学校	埋文センター	・栄区・金沢区の小学校を対象に出前授業の実施。
	近隣小学校	三殿台考古館	・小学校の地域交流クラブに講師を派遣 ・総合的な学習の時間等への支援
	小学校	歴史博物館	・学校資料室の資料整理及び活用支援
	中学校	歴史博物館 埋文センター 三殿台考古館	・職場体験の受け入れ
	神奈川県立高校	歴史博物館	・県立高校インターンシップの受け入れ
	神奈川県高等学校文化連盟	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・神奈川県高等学校文化連盟との共催で社会科研究発表大会を開催し審査員を派遣
他館等との連携	神奈川県博物館協会	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・部会への職員派遣 ・川崎市市民ミュージアムの資料レスキューのため職員を派遣 ・研修会「デジタルアーカイブズの運用と課題」の開催 ・シンポジウム「博物館と学校連携について～博物館の使い方～」の開催

	神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会	歴史博物館	・定例会に職員を派遣
	県立歴史博物館	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・展覧会への資料の貸出 ・展覧会準備や調査研究を目的とした資料熟覧対応 ・都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業の連携（開港） ・調査および講座への協力（間口洞穴調査） ・長期休館に伴う資料の長期借用および共同研究の実施
	横浜市技能文化会館	歴史博物館	「横浜芝山漆器―技を伝え、美をつなぐー」展および関連事業実施
	横浜美術館	歴史博物館	・展覧会「おかえり、ヨコハマ」への企画協力、図録等執筆、資料の貸出、ワークショップの共同開催
	都筑民家園	歴史博物館	・ボッシュホールとの 3 施設で、今後の連携を図るべく定期的に情報交換会を実施
	(公財)かながわ考古学財団	埋文センター	・講座への講師派遣
	シルク博物館	歴史博物館	関東学院大学及びシルク博物館と協定を締結し、横浜スカーフ展「私の、推しスカ」を、企画・監修：ＫＧＵ横浜スカーフ研究プロジェクト、会場：シルク博物館、共催:横浜市歴史博物館・関東学院大学で実施した。
	古代オリエント博物館・岡山オリエント博物館	ユーラシア文化館	・Bun Card の共同制作
	仁川広域市立博物館	ユーラシア文化館	・「思い出のチマ・チョゴリ」での調査協力、資料出陳
	国立民族学博物館	ユーラシア文化館	・企画展開催に向けてのモンゴル関係資料の調査研究
大学との連携	東京大学史料編纂所画像史料解析センター	開港資料館	・幕末期に撮影されたガラス板写真の高精細撮影と内容分析および報告書の発行
	関東学院大学	歴史博物館	・関東学院大学及びシルク博物館と協定を締結し、横浜スカーフ展「私の、推しスカ」を、企画・監修：ＫＧＵ横浜スカーフ研究プロジェクト、会場：シルク博物館、共催:横浜市歴史博物館・関東学院大学で実施した。
	東海大学	歴史博物館 開港資料館	・東海大学「地域史演習」への協力 ・東海大学と協定を締結し、文化財資料の教育活用事業による博物館実習を実施 ・企画展「君も今日から考古学者」にて所蔵資料展

			示。解説およびワークショップを協働で実施。
	昭和女子大学	開港資料館	・生活文化研究専攻によるアーカイブズ実習の受け入れ
	神奈川大学	都市発展記念館 埋文センター	・神奈川大学非文字資料研究センターとの連携で河川運河に関する展示を双方で開催 ・エクステンション講座への講師派遣
	日本大学	埋文センター	・市内遺跡から出土した動物骨の古 DNA 分析に関する研究について連携
	山形大学	埋文センター	・市内遺跡から出土した遺物の脂質分析による食性解析に関する研究について連携
	横浜国立大学	埋文センター 歴史博物館	・大学キャンパスに所在する遺跡及び所蔵遺物に関しての助言及び協力 ・シンポジウムへの講師派遣 ・横浜市域北部の地域文化遺産の調査研究及び教育普及活動に関する覚書を都市イノベーション研究院と締結し、以下の事業を実施 〇関家住宅公開事業での展示解説 〇「丘のよこはま」展での模型展示及び講演会の実施
	北海道大学	ユーラシア文化館	・オホーツク文化資料の連携調査研究・報告書刊行
	学外見学の受け入れ	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・大学の博物館課程等、カリキュラムに即した学外見学・実習の受け入れ
市民・関連団体との協働	市民ボランティア	歴史博物館 都市発展記念館 ユーラシア文化館 三殿台考古館	＜展示解説ボランティア＞ ・大塚遺跡等の野外施設及び常設展示室の解説を実施 ・学校団体（6 年生）への野外施設 1 クラス 1 名でのガイド実施 ・学校団体（3 年生）への都筑民家園のガイド実施 ＜活動支援ボランティア＞ ・「当日参加型れきし工房」の実施 ・「都ユ開館祭」での衣装試着体験の実施 ・企画展の関連イベントの補助 ・「センター北まつり」等地域行事のイベント補助 ＜ガイドボランティア＞ ・土・日・祝日に遺跡・展示室のガイド実施 ＜出土品整理作業ボランティア＞ ・三殿台遺跡出土品の整理作業を実施
	横浜郷土史団体連絡協議会	歴史博物館 開港資料館	・研修会、記念講演会の開催協力 ・年 1 回の総会の開催協力 ・協議会 News 及び会報の発行協力

	横浜歴博もりあげ隊との協働	歴史博物館	・講演会の共催・コンサートの共催 ・会報、「つづき人交流フェスタ」等への活動支援
	横浜縄文土器づくりの会	歴史博物館	・博物館の調査研究活動に協力 ・実験考古学講座の指導委託
	横浜古文書を読む会	歴史博物館	・原則として月 2 回の講座の開催支援 ・有志による調査研究活動の実施 ・特別講座の共催
	横浜古代史料を読む会	歴史博物館	・古代史料購読会の開催支援 ・創立 20 周年講演会の共催
	横浜さいかちの会	歴史博物館 埋文センター	・史料購読講座の開催支援 ・史蹟見学会の開催支援 ・歴史講演会への共催 ・考古学関係研修への協力・講師派遣
	スタチューパフォーマンス協会	ユーラシア文化館 開港資料館 都市発展記念館	・「横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム」を実施し、集客と地域の賑わいを創出
	遺跡ガイドボランティア及び遺跡整理ボランティア	三殿台考古館 埋文センター	・遺跡ガイドボランティアによる常設展示、遺跡ガイドを実施 ・ボランティアの協力を得て出土資料や写真の再整理を実施
	よこはま縁むすび講中	歴史博物館	・北部 4 区の(公財)大倉精神文化研究所、小机城のあるまちを愛する会、みどりアートパーク、横浜市民ギャラリーあざみ野と連携し、実行委員会を組織して実施 ・地域再生大賞優秀賞受賞
	よこはま地域文化遺産デビュー・活用実行委員会	歴史博物館	・文化庁ミュージアムＤＸ助成金を申請
	センター中央文化祭	歴史博物館	・「センター中央文化祭」への協力
	みなきたマルシェ実行委員会	歴史博物館	・「みなきたマルシェ」への協力 ・「歴史未来フェス」の実施委託
	横浜シティガイド協会	開港資料館 都市発展記念館	・連携ガイドツアーの実施 ・ガイド研修への講師派遣
	都筑文化芸術協会	歴史博物館	・「つづきジュニアストリングス」への協力 ・「横浜北部 de レジェンドトーク」への協力
	きたやまた落語倶楽部	歴史博物館	・「つづき寄席 in 歴博」への共催
	紙芝居文化推進協議会	歴史博物館	・「手づくり紙芝居コンクール」に協力 ・「手づくり紙芝居ライブ」共催 ※ヨコハマアートサイト助成事業
	ロジウラート実行委員会・都筑民家園	歴史博物館	・「ロジウラート 2024」に後援 ※ヨコハマアートサイト助成事業

	つづき地域活動ホームくさぶえ・つづきアート&ミュージック・ネクスト実行委員会	歴史博物館	・「つづきアート&ミュージック・ネクスト」（テーマ：みんなのまち）共催
	ヨコハマアートサイト事務局	歴史博物館	・ヨコハマアートサイト助成事業への協力
	区や地域の郷土史団体	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・講座、講演会に講師を派遣
	横浜商工会議所	開港資料館	・機関誌「Yokohama 商工季報」への寄稿
	横浜港振興協会	開港資料館	・機関誌「よこはま港」への寄稿
	横浜市防火防災協会	開港資料館 都市発展記念館	・機関誌「よこはま都市消防」への寄稿
	鶴見川流域水協議会	歴史博物館	・「バクの流域スタンプラリー」開催協力 ・「鶴見川流域学習支援プロジェクト 夢交流会」共催
	日本樹木医会神奈川県支部（かながわ樹木医会）	開港資料館	・協定にもとづく「たまくすの木」の維持管理に関する連携（土壌改良等） ・「たまくすの木」バリアフリーデッキの整備
	中区区民利用施設等	ユーラシア文化館	・「なか区ブックフェスタ」に参加
	横浜中華街発展会	開港資料館 ユーラシア文化館	・「横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム」での連携 ・中華街での出張展示の実施
	地元商業団体	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・「ハマフェス Y165」に参加し、地域の賑わい創出に寄与
	日本大通りエリアマネジメント協議会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・開港資料館文化観光拠点計画で連携 ・日本大通り周辺の事業所が連携した活性化企画の実施 ・「横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム」の実施 ・「ウィンターイルミネーション」への参加
	山下公園通り会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・開港資料館文化観光拠点計画で連携 ・文化観光ウェブサイト「こい旅横浜」の公開 ・加盟事業者によるイベント等への参加、協力 ・「ハマフェス」実施等についての連絡調整
	磯子区館長連絡会	三殿台考古館	・区内市民利用施設の連携・情報交換 ・「いそっぴＧW2024 スタンプラリー」の開催
	栄区施設交流会	埋文センター	・区内市民利用施設の連携・情報交換

	青葉区郷土史の会	歴史博物館 埋文センター	・歴史講座・遺跡探訪の講師派遣
	上郷ネオポリス自治会	埋文センター	・上郷ネオポリス夏祭り模擬店出店協力(土器パズル)
	NPO 法人さかえ区民活動支援協会	埋文センター	・上郷地区センターで「埋蔵文化財センター収蔵品紹介展」を開催
企業との連携	横浜マリンFM	全施設	・財団冠番組「横濱 歴史のタイムマシーン」の制作・放送（毎週金曜日放送） ・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力（開港）
	株式会社三陽物産	開港資料館	・第１回ミュージアムグッズデザインコンテストのミュージアムスイーツ部門大賞作品「ロイヤルミルクティーのミルフィーユ」の商品化協力 ・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへの協賛およびリターン商品の協力
	株式会社ありあけ	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへの協賛およびリターン商品の協力
	崎陽軒	開港資料館 都市発展記念館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力 ・企画展「運河に生きる」への協賛
	株式会社 AQUA	開港資料館 都市発展記念館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力 ・企画展「運河に生きる」への協賛
	ホテルニューグランド	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
	横浜マリンタワー	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
	横浜エクセレンス	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
	重慶飯店	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
	霧笛楼	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力

	タカラダ	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
	キャラバンコーヒー	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
	タカナシ乳業	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
	横浜ビール	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
	HARE-TABI SAUNA & INN	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
	横濱ハイカラきもの館	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
	大川印刷	開港資料館	・「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備に向けたクラウドファンディングへのリターン商品の協力
	横浜メディアビジネス総合研究所	歴史博物館 都市発展記念館	・企画展前売券の販売協力 ・企業協賛事務局
	ボッシュ株式会社	歴史博物館	・新社屋市民利用スペースの活用にむけた検討に協力、所蔵資料の展示
	ボッシュホール	歴史博物館	・都筑民家園との3施設で、今後の連携を図るべく定期的に情報交換会を実施 ・「よこはま縁結び講中」パネル展実施
	NHKエデュケーショナル	開港資料館 都市発展記念館	・関東大震災パノラマ写真の彩色復元プロジェクトの共同実施
	ローズホテル横浜	ユーラシア文化館	・「ホテルdeミュージアム　横浜中華街歴史回廊」を実施
	コーエーテクモゲームス	埋文センター	・埋文センター製作動画「いざ、小机城へ―発掘された調査地をたどる―」への楽曲提供
	JR東日本	三殿台考古館	・JR東が主催する「駅からハイキング」（共催：磯子区役所）のコースポイントとして協力
その他	相模民俗学会	歴史博物館	・特別講演会「循環型社会と景観保全を考える-文化的景観と農業用水の民俗-」（講師:中山正典氏）を共催
	神奈川県考古学会	歴史博物館	・神奈川県遺跡調査・研究発表会を共催
	中能登町教育員会	都市発展記念館	・令和6年能登半島地震に関する銭湯経営者寄進物の被害状況の共同調査

	トルコ大使館	ユーラシア文化館	・トルコ細密画展を共催。
	駐横浜大韓民国総領事館	ユーラシア文化館	・企画展「思い出のチマ・チョゴリ」展への開催協力
	神奈川韓国綜合教育院	ユーラシア文化館	・企画展「思い出のチマ・チョゴリ」展への開催協力、衣装体験協力
	在日大韓民国居留民団	ユーラシア文化館	・企画展「思い出のチマ・チョゴリ」展への開催協力、衣装体験協力
	在日本大韓民国婦人会神奈川県地方本部	ユーラシア文化館	・企画展「思い出のチマ・チョゴリ」展への開催協力、衣装体験協力
	在日大韓民国基督教団横浜教会	ユーラシア文化館	・企画展「思い出のチマ・チョゴリ」展への開催協力
	弥生時代関連 35 遺跡・38 施設	歴史博物館	・「弥生の御朱印巡り〈全国版〉」への参加協力
	中山恒三郎家	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・「中山恒三郎家」公開事業に共催
	綾瀬市市民環境部生涯学習課	埋文センター	歴史講演会への講師派遣
	三浦一族研究会	埋文センター	史跡めぐりへの講師派遣

２　歴史博物館事業

令和６年度は、前年度に引き続き、利用者の多くを占める学校や団体の利用を促すとともに、講座のアーカイブ配信などコロナ後のニューノーマルを意識した試みを行いました。また、近隣に新たに展開したボッシュ株式会社や都筑区民文化センターなどをはじめ、地域や市民が組織するさまざまな団体と連携して多彩な事業を展開し、地域の活性化や多様性、社会的包摂などの役割を果たす取り組みを進めました。

資料収集では、戸塚区の實方講関係資料、黒須田の豆念仏講資料など、12 件を受け入れました。調査研究事業では、基礎資料研究や連携調査研究 15 本を進め、成果の一部は「仏像入門展」などの企画展や『資料目録』、『紀要』等出版物に反映し、出版物については web で公開しました。

常設展事業では、30 周年事業の一環として、従来の歴史劇場番組に代わる、横浜の通史と常設展示室の導入となる新たな番組を制作しました。次年度初めより公開し、小学校 6 年生の団体見学をはじめ、一般の利用者にもひろく周知につとめていきます。一方で、30 年を経過して発生している歴史劇場や展示室内での不具合への対応、設備更新は、引き続き課題として、所管局と共有していきます。

企画展事業は、小学校 6 年生の歴史の学習に合わせ、アクティブラーニングの手法を取り入れた

企画展「君も今日から考古学者　横浜発掘物語 2024」、ペリー横浜上陸 170 年に関連して、海防にあたった武士に着目した企画展「サムライ Meets ペリーWith 黒船―海を守った武士たち」、横浜に胎動した近世禅林にフォーカスし、「寶林寺 東輝庵」を中心に醸成された地域文化を紹介した「寶林寺 東輝庵展」、都筑・青葉両区の 30 周年を記念し、区域の近代の村々の産業、生産物や農政・教育・衛生などを紹介した企画展「丘のよこはま―近代の村の歴史と暮らし―」、同展を引継ぎ、港北ニュータウン開発とそれに伴って実施された大規模発掘調査に焦点を当てた企画展「港北ニュータウン開発と発掘調査」（神奈川県教育委員会との共同主催「かながわの遺跡展 縄文ムラの繁栄―かながわ縄文中期の輝き―」と同時開催）。当館所蔵資料をもとに “仏像”の見かたをわかりやすく解説する企画展「仏像入門展」と「令和 6 年度横浜市指定・登録文化財展」を開催しました。関連事業は、展示を深めるギャラリートークや講演会など、市民の多様な生涯学習のニーズに応える取り組みを進めました。低年齢層の親子でも参加できる「ペリーの似顔絵をかこう・ぬろう」（ペリー展）、寶林寺と協力開催した坐禅ワークショップ（寶林寺展）などの新しい関連事業も試み、好評を得ました。

企画普及事業は、さまざまな団体や市民と連携して、講座・講演会やワークショップのほか、賑わいの創出や多様性、社会的包摂に対応する多彩な自主事業・共催事業を実施しました。昨年度から、みなきたマルシェ実行委員会と協働し、実施している「歴史未来フェス」は 2 日間で約 6,200 人の参加者を得ました。また、1 か月に 1 回、学芸員全員が講座を行う「学芸員講座」、開館 30 年を記念し、これまで博物館に関わった OB がこれまでの研究成果とこれからを展望した特別講演会「横浜 3 万年の歴史の軌跡」を実施しました。学校連携では金沢区小学校のむかし体験の訪問授業、高文連県大会の行動での実施、東海大と連携してのワークショップ開催など、小学校から大学まで多様な連携事業を展開しました。

施設の管理運営では、有料駐車場内の泡消火設備改修工事や、令和 7 年度に実施予定の ESCO 事業（LED 化工事）や ITV 改修工事の準備にあたって、所管局や施工会社と細やかな調整を図り、適切な施工管理に取り組みました。収益事業のうち、ミュージアムショップでは新商品の「はらでぐちくん」ぬいぐるみの販売を開始し、複数のメディアにも取り上げられ、好評を得ているほか、企画展関連のオリジナル商品の開発も行いました。

１　資料収集保管事業（定款第４条第１項第１号①）

展示・教育・普及・閲覧公開等の博物館活動に活用する資料を寄贈・寄託等の方法で収集し、燻蒸を行って分類・整理するとともに、収蔵庫や展示室を適切な温湿度に保ち、保管しました。

本年度の資料収集では、旧家の古文書や民俗資料に加え、「アメリカ舟入着内評書（写）」など企画展をきっかけとした資料受贈の例もありました。實方講資料や豆念仏講資料など、市内の民俗行事にかかわる資料の寄贈も受け、一部を開館 30 周年記念特別展で展示する予定です。

（１）資料の収集・管理

項　　目	点　　数	事　業　内　容
資料の寄贈・寄託	寄贈 11 件　　1,447 点	主な収集資料：笠木治郎吉画「明治期庶民風俗図」

	購入 2 件　　2 点	實方講資料 アメリカ舟入着内評書（写） 黒須田豆念仏講資料 並木家資料（古文書）
資料の整理活用（収集資料のデータ入力）	1,918 件	図書文献資料のデータ入力を行った。
資料の整理活用（収集資料の貸出）	13 件 293 点	他機関における展覧会を目的に資料の貸出を行った。 ①横須賀美術館企画展「驚異の細密表現展―江戸・明治の工芸から現代アートまで―」令和 6 年 4 月 20 日～6 月 23 日　横浜彫刻家具 計 4 点 ②市原歴史博物館特別展「旅する埴輪―房総の埴輪にみる地域間交流―」令和 6 年 8 月 20 日～令和 7 年 1 月 17 日　北門一号墳出土筒袖表現の人物埴輪全身像 計 1 点 ③品川区立品川歴史館リニューアル特別記念展「品川の海に御台場ができるまで―日記でひも解く 170 年前の大工事―」令和 6 年 9 月 15 日～12 月 15 日　公郷村永嶋家文書、最戸村笠原家文書 計 3 点 ④KAAT 神奈川芸術劇場美術展覧会「KAAT EXHIBITION 南条嘉毅展｜地中の渦」 令和 6 年 9 月 23 日～10 月 20 日 計 26 点 ⑤真田宝物館特別展示「象山　何者？！」令和 6 年 9 月 25 日～12 月 16 日　佐久間象山関係資料 計 38 点 ⑥大田区立郷土博物館特別展「矢を放て！」令和 6 年 10 月 8 日～12 月 1 日 花見山遺跡出土 槍 など 計 79 点 ⑦あつぎ郷土博物館特別展「ドグウ集まれ！」令和 6 年 10 月 12 日～12 月 8 日　大熊中町遺跡出土土偶、原出口遺跡出土土偶 計 4 点 ⑧横浜スカーフ展「私の、推しスカ」（共催事業、会場はシルク博物館）令和 6 年 11 月 30 日～令和 7 年 1 月 13 日　「横浜輸出スカーフ」計 25 点 ⑨岩宿博物館企画展「縄文時代の始まりと洞窟遺跡」令和 7 年 1 月 25 日～3 月 9 日 花見山遺跡出土 隆起線文土器など 計 44 点 ⑩横浜美術館リニューアルオープン記念展「おかえり、ヨコハマ」令和 7 年 2 月 8 日～6 月 2 日 原出口遺跡出土筒型土偶、拝み絵馬など 計 25 点 ⑪茨城県立歴史館特別展「雪村―常陸に生まれし遊歴の画僧―」令和 7 年 2 月 15 日～4 月 6 日　「龍虎図」計

		2 点（保管資料） ⑫水子貝塚資料館企画展「縄文文化のはじまり～八ヶ上遺跡全部見せます」令和 7 年 3 月 15 日～6 月 15 日 花見山遺跡出土 隆線文土器など 計 36 点 ⑬神奈川新聞社創業 135 周年記念「昭和 100 年　これで、今日からあなたもヨコハマ通！」令和 7 年 4 月 16 日～4 月 29 日（令和 6 年度に貸出） カラーテレビ、電気洗濯機など 計 6 点
資料の整理活用（収集資料の特別利用）	14 件	他機関における展覧会のための貸出、および調査研究を目的とした資料の熟覧、撮影等特別利用に対応した。14 件の内訳は考古資料 228 点、絵画 6 点、典籍 13 点、古文書 7 点、歴史資料 102 点、民俗資料 18 点、横浜スカーフ 42 点、小宮山文庫 1 点。
資料の整理活用（スカーフ資料の閲覧公開）	4 件 16 点	令和 4 年度に移管された横浜スカーフ資料を閲覧公開し、本年度は 4 件 16 点の画像利用に対応した。
図書資料の公開	3,906 件	図書閲覧室で、文献資料の公開及びレファレンスを行った。
写真資料の撮影・整理	撮影数 815 カット 他、行事記録撮影、出張先にても撮影	常設展示や企画展・特別展に関する資料及び収蔵資料の撮影と RAW 現像、画像補正などを行った。
画像資料の貸出	貸出件数 64 件 175 点	他の博物館や公共機関、出版社、放送局などへの写真資料の貸出を行った。

（２）資料収集内訳（R5.4～R6.3）　　※（　）内は、前年度点数

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
絵　画 （点）	1 (—)	(—)	(—)	(—)	(—)	1,987 (1,986)
工芸品 （点）	(—)	(—)	4 (58)	(—)	4 (58)	194 (190)
彫　刻 （点）	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	21 (21)
書　跡 （点）	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	54 (54)
典　籍 （点）	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	4,709 (4,709)
古文書 （点）	1 (—)	(—)	202 (501)	(2, ⁻1)	203 (502)	37,060 (36,857)
古記録 （点）	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	55 (55)
絵　図 （点）	(—)	(—)	(—)	(1)	(1)	173 (173)
歴史資料 （点）	(—)	(—)	68 (112)	(—)	68 (112)	19,084 (19,016)

考古資料 （点）	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	24,572 (24,572)
民俗資料 （点）	(—)	(—)	1,173 (321)	(—)	1,173 (321)	24,332 (23,159)
図書文献資料 （点）	88 (87)	(—)	1,228 (824)	(—)	1,316 (911)	80,704 (79,388)
合　計	90 (87)	(—)	2,675 (1,816)	(2)	2,764 (1,904)	192,945 (190,180)

（３）図書閲覧室利用状況

項　　目	令和６年度	令和５年度	令和４年度
閲覧室利用者数（人）	5,968	3,927	7,421
複写申込件数（件）	262	169	314
複写枚数（枚）	3,185	1,680	3,486
レファレンス件数（件）	311	246	317

※令和５年 10/2～令和６年 2/2　工事休館のため休室

（４）資料の保管

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
文化財害虫への対応	新規収蔵資料はすべて燻蒸を実施の上、収蔵庫に搬入したほか、収蔵庫から出した資料は、資料の種別や利用場所等に応じて点検を行い、必要のある資料は再度燻蒸して入庫する措置をとった。
保存燻蒸処理	二酸化炭素燻蒸を５月と１月に行なった。
環境検査	館の環境を把握するため、定期的に昆虫類モニタリング、菌類測定、塵埃測定、光学的測定を行った。

（５）資料保管施設の管理

保管施設	保　管　資　料
歴史博物館収蔵庫（1,901 ㎡）	原始・古代から近現代までの各資料を保管する考古収蔵庫・歴史収蔵庫・特別収蔵庫・民俗収蔵庫の管理を行った。庫内および前室の環境を見直し、清掃方法を確認し、防塵マットの設置・交換を行った。

笠木治郎吉《明治初期風俗図》

２　調査研究事業（定款第４条第１項第１号①）

博物館活動の原資となる調査研究は、（１）基礎資料研究、（２）他施設と連携して行なう連携調査研究、（３）次年度以降の企画展開催に向けた調査研究、（４）資料の基礎整理について、次の通り実施しました。

（１）基礎資料研究

項　　目	目的・意図
基礎研究	
市域所在の中世資料の調査（２／２年次）	本調査研究では、引き続き市域に所在する中世資料の再確認を実施した。R7 年度の企画展「小机城展」(仮)にかかわり、港北区小机小学校所在の考古遺物[中世]の確認を行った。
市内旧家所蔵資料調査（２／２年次）	市域に所在するおもに近世地方文書の調査・整理を行う。今年度は都筑区の並木家文書、信田家文書の整理を行い、成果を『資料目録』（PDF版）として刊行した。また同じく緑区の苅谷家文書の整理を行った。苅谷家文書については、次年度も整理を継続する予定である。
横浜市域の美術史の基礎的研究（２／２年次）	当館及び財団諸施設また市域の旧家には多くの絵画資料が存在するが、当館では歴史資料としてのみ扱われてきたため見過ごされてきた。これらを美術史の文脈として捉え基礎的データを作成する。本年度は、悉皆調査の終了した浮世絵作品のデータ、屏風、彫刻について新規管理用データベースへ移行を行った。また、館蔵絵画資料の基本情報の追加・修正を行った。
八聖殿資料調査（２／２年次）	横浜市教育委員会からの依頼により、横浜市八聖殿郷土資料館所蔵の民俗資料の整理調査を実施した。
横浜市域の古墳時代資料の研究（２／２年次）	上矢部町富士山古墳出土資料の台帳整理を行った。 また、令和 7 年度春実施の 30 周年記念特別展において成果を展示するにあたって図録原稿の作成など準備を行った。
テーマ研究	
大塚遺跡の水田・食糧に関する研究（２／２年次）	水田稲作技術比較研究プロジェクトの構成団体のひとつとして、戸塚区舞岡の水田運営に参加、12 月 13 日に収穫したコメの炊飯実験を実施した。 宮崎県で 1 月 12・13 日に実施した、第 5 回弥生・古墳の水田復元研究会公開シンポジウム『九州における稲作の開始と展開』に参画した。
市内彫刻文化財の研究（２／２年次）	当館所蔵彫刻資料の調書作成を進めた。また、港北区・蓮勝寺諸像のうち、江戸時代の作の調査を行った。
学校内歴史資料室に関する研究（２／２年次）	これまで実施してきた学校内歴史資料室の資料整理の成果を活用し、資料所在状況等を明らかにするとともに、資料館運営の助言等を行った。
都筑区川和町中山家に関する研究（２／２年次）	中山恒三郎家資料にある「営業簿」について調査研究を行い、内容の検討を進めた。
武州金沢藩米倉家文	令和 3 年度に実施した企画展「横浜の大名」を契機とし、横浜市域に陣屋を構

書に関する研究（２／２年次）	えた唯一の大名である米倉家に伝来する古文書の整理・調査を開始した。今年度は、『横浜市史料所在目録』未掲載文書の整理を継続した。
近世横浜の領主支配に関する研究（１／２年次）	市内に残る関連資料の所在調査を実施し、未整理文書の整理を行った。その成果を講座で報告した。
市民協働調査研究	
土器の製作・使用に関する実験考古学的研究（２／２年次）	山形大学の白石哲也准教授・神奈川県立歴史博物館の佐藤兼理学芸員とともに水田稲作技術比較研究プロジェクトの事業として 12 月 13 日に舞岡水田で収穫したコメの炊飯実験を実施した。
市民協働古文書整理解読（２／２年次）	昨年度に寄贈となった緑区長津田の河原家文書の解読を実施した。昨年度に引き続き、オンライン会議システムを利用してリモートで輪読を行った。解読の成果の一部は、博物館紀要に利用した。
市民協働民俗調査（２／２年次）	民俗に親しむ会とともに、鶴見川の支流である恩田川流域のフィールドワークを実施したほか、これまでの FW の内容を深める勉強会を 2 回実施した。　5/4 緑区中山町 FW 、9/22FW 雨天中止・勉強会「鶴見川流域の生業について」於十日市場地区センター、3/30 打合せ会　於横浜市歴史博物館

（２）連携調査研究

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団の諸施設や他の研究機関と連携して調査研究を実施した。

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
小机城・小机地域にかかわる総合的研究（４／５年次）	今年度は横浜市教育委員会による小机城発掘調査の成果報告書に、文献資料からみた小机城について執筆した。来年度は学習院大学輔仁会史学部による調査にかかわり、第三京浜道路工事に伴う当時の埋蔵文化財調査について、県の台帳等を調査する。
ユーラシア概念をめぐる研究（４／５年次）	横浜ユーラシア文化館と適宜研究状況を共有したが、初期の目的はそれぞれの展覧会や普及活動で達成したため本年度をもって終了とした。

（３）企画展関係にともなう調査研究：企画展・特別展の開催に向けての調査研究

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
特別展「横浜の文化財　まもり伝える地域の記憶 part1 修復」	展示計画を検討し、広報印刷物の作成に着手した。関連イベントの計画および講師等への依頼を行った。具体的な出陳資料、出陳交渉、輸送計画、展示造作、展示図面との準備を進めた。
特別展「横浜の文化財　まもり伝える地域の記憶 part2 伝承」	特別展 part1 と連携して、展示計画を検討し、広報印刷物の制作に着手した。

企画展「北条幻庵展」（仮）	展示計画を検討し、箱根神社や小田原城天守閣などへ出陳交渉を行った。また関連事業についてもパシフィコ横浜や小田原市文化課と打合せを行った。
令和８年度以降企画展調査	令和８年度以降の企画展について、基礎調査を行った。

（４）資料の基礎整理

資料収集や調査研究に係わる資料について整理を行った。

	資料群	点数	備考
1	都筑区旧家古文書	198	完了
2	緑区旧家古文書	2,440	継続
3	都筑区旧家古文書	140	完了
4	海野コレクション	2,280	継続

このほか、東海大との協働による文化財資料の教育活用事業による博物館実習との連携を行った〔５－（９）参照〕。

（５）紀要の刊行

『横浜市歴史博物館紀要第 29 号』を刊行した。今号は以下を掲載した。なお、紀要は令和４年度よりデジタル化し、博物館ホームページにて PDF データを公開している。

論　　文　続々・朝光寺原式土器の根源的研究　―横浜市青葉区大場町稲荷前弥生集落址について―

研究ノート　近世後期、旗本知行所における村政運営と村役人―武蔵国都筑郡長津田村を事例に―

横浜市栄区・證菩提寺阿弥陀如来及び両脇侍像考

資 料 紹 介　横浜市出土の縄文時代中期土器の顔面装飾　―泉日向遺跡・阿久和宮腰遺跡・青ヶ台貝塚・C17 遺跡例を中心に―

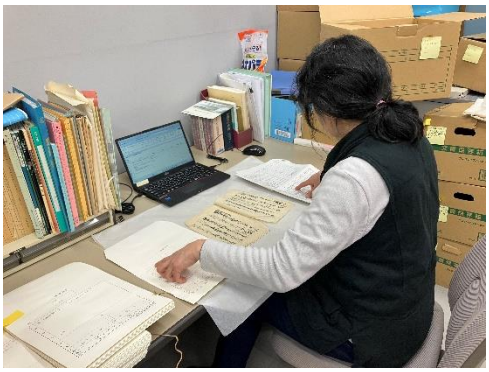
（６）資料目録の刊行

『横浜市歴史博物館資料目録第 34 集』を刊行した。今号は、武蔵国都筑郡佐江戸村（現在の横浜市都筑区）の並木家文書・武蔵国都筑郡川和村（現在の横浜市都筑区）の信田家文書の目録を掲載した。資料目録は令和４年度よりデジタル化し、博物館ホームページにて PDF データを公開している。

（７）調査等への職員派遣

文化財調査等に職員を派遣した。

名称・日程	派遣人数	内　容
横浜市文化財総合調査	２名	横浜市教育委員会による文化財の総合調査 6/19(水)　宗教法人總持寺(磯子区) 6/26(水)　宗教法人總持寺(磯子区)



市内旧家所蔵資料調査　資料整理のようす

３　常設展事業（定款第４条第１項第１号②）

今年度上半期は、企画展「君も今日から考古学者！」の関連事業として、スタディサロンと原始Ⅰ・Ⅱ・古代ブースに体験型の展示を設置しました。下半期は学校への対応として、吉田新田の展示およびむかしのくらしの展示も実施しました。

吉田新田については、コロナ明けの学校来館を見越して、ボランティアによる吉田新田の学校団体向け解説を再開しました。

歴史劇場については昨年度末に横浜市により既存の映像・舞台装置・音響設備等の撤去を行いました。今年度はこれまでビデオライブラリーで流していた動画を中心に、平日の小学校向け、土・日・祝日の一般向けプログラムを編成し、放映しました。また、既存の映像に代わる新たな動画作成を企画し、横浜の通史と常設展示室のガイダンスを兼ねる約 15 分間の番組を制作しました。令和 7 年度から放映プログラムに組み込んで放映する予定です。今後も来館者のニーズをふまえつつ、コンテンツの充実を目指していきます。

（１）保守点検・維持管理

展示資料･ジオラマ類･映像機器類の保守点検は、近世桜屋模型の照明交換、六浦地形復元装置模型、鶴見寺尾郷装置模型のランプ交換および各装置の動作確認等全体調整 1 回を実施した。日常の展示資料の清掃は、職員が月 2 回の頻度で行った。

また小学校団体の公式解説アプリ利用をはたらきかけ、環境整備のため Wi-Fi を増設した。

（２）常設展示室の構造と特色を生かして、来館者の満足度を高めるための事業を行った。

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
デジタルサイネージの運用	常設展示室で活用しているデジタルサイネージの運用を拡大し､企画展示室での笛吹ボトルと土鈴の音の聴き比べや体験学習室での都筑･青葉 30 周年記念映像などを上映した。
多言語化解説のコンテンツ（公式解説アプリ）運用	日本語、英語、中国語(繁体字・簡体字)、韓国語、ドイツ語での多言語解説アプリ「ミューズナビ」を、常設展示室にて運用した。 学校の団体見学での利用を目指して所管課と調整､任意の来館校に依頼して試行したうえで利用可能となった。
常設展示室内の展示解説映像	常設展示室で､スタンドアロンで提供していた展示解説映像を解説アプ

のアプリでの運用	リに格納し、来館者各自のスマホやタブレットから視聴できるようにした。
「横浜市歴史博物館クイズ＆ムービー」の提供	スタディサロンでは、来館者のスマホやタブレットで歴史クイズやオリジナルビデオが視聴できる「横浜市歴史博物館クイズ＆ムービー」をアプリにて提供した。
常設展ロビーの活用	常設展ロビーを活用して、11 月から小学校 4 年生の学習単元に合わせたミニ展示「吉田新田」を、1 月から小学校 3 年生の学習単元に合わせたミニ展示「ちょっと昔のくらし」を開催した（ともに 3 月 20 日まで）。

（３）常設展示室観覧者の推移

	有料観覧者（人）					無料観覧者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	シニア	高大	小中	計					
６年度	13,333	4,003	1,519	2,839	21,694	30,511	52,205	151.6%	301 日	173
５年度	7,598	3,008	804	2,770	14,180	20,248	34,428	63.6%	208 日	166
４年度	19,349	4,288	1,295	4,335	29,418	24,681	54,099	152.9%	306 日	176

※令和 5 年度はチラー更新工事のため、10/2～2/2 まで休館

４　企画展事業（定款第４条第１項第１号②）

時機に応じた様々な横浜の歴史を取り上げ、また調査研究の成果を踏まえた企画展示を開催しました。ぬりえや坐禅ワークショップなど、展覧会開催時期や展覧会内容に合わせたさまざまな関連事業を実施しました。

（１）企画展・特別展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	観覧者数	目的・意図　及び　内容・成果
企画展「君も今日から考古学者！-横浜発掘物語 2024-」 令和 6 年 3 月 30 日（土） ～6 月 23 日（日） 会期 86 日 開館日数 74 日	一般　500 円 高校・大学生　200 円 小・中学生/横浜市内在住 65 歳以上 100 円	16,074 人 会期 86 日 開館日数 74 日 1 日あたり 217 人	本展は主な観覧者を学校見学に来館する 6 年生としつつ、展示内容のパッケージ化を目標とし、昨年に引き続き開催した。今回は東海大学との連携により、古代アンデスの笛吹ボトルを展示することで考古学好きの市民の来館促進も目指した。 開館日数 74 日間で 16,074 人の観覧者に恵まれた(1 日平均 217 人)。これは 5 月 25 日・26 日の 2 日間にかけて実施した「歴史未来フェス」によるところが大きく(期間中来館者 6,228 人)、地域住民に対しても発掘調査や考古学についてアピールする機会ができた。 今年度は昨年度より多く、体験・WS を行うことを目指した。企画展示室内では発掘調査疑似体験ブースの設置、3D モデル化した人面付土器の観察、土鈴・笛吹

			ボトルの音の聴き比べといった視覚・聴覚・触覚を刺激するプログラムを追加した。昨年度、常設展示室内で展示した「kids 考古学新聞コンクール」は考古資料とより近くなるように企画展示室内に移動した。 　今年度はガイドブック「弥生人に質問だ！」、ワークブック「冒険の記録」を作成した。ガイドブックは本展第 2 章を再構成した内容とし、ワークブックはこれまで使用しているワークシートの有料版としてデザインした。さらにワークブックは企画展終了後も使用できるように、常設展示室内に資料を追加して対応した。 　体験学習室では大塚・歳勝土遺跡と常設展示室原始Ⅱの案内動画を流す会場に加えて、実物の土器片や石器に触る体験・れきし工房の会場とすることで、館内の多くの場所で考古学や発掘調査について見学・学習できるようにした。 　関連イベント・WS は筒形土偶作り・かやぶき屋根プロジェクト・銅鏡チョコやドッキー(考古スイーツ)といったこれまで実施してきた事業に加えて、復元竪穴住居モンブラン作り・たたら製鉄実験・歴史未来フェスでの土器炊飯と試食という新たな取り組みもできた。 　会期中活動支援ボランティアを募集し、発掘調査疑似体験や体験学習室での土器・石器に触る体験・れきし工房の補助をお願いすることができた。 関連事業 (1)れきし工房「まがたま・あじろ編み作り」 日時:４月・５月・６月の土日祝日（5/25・26、6/2・23の午後を除く）各日 10:00～12:00、13:30～15:30 会場：体験学習室 参加費：無料（別途「勾玉キット（かっ石)」・「あじろ編みキット（小物入れ)」を購入） 参加者計:233 人 (2)発掘調査体験（遺跡を掘ろう！） 日時:4/13（土)、4/14（日)、4/27（土)、4/28（日)、4/29（月祝)、5/3（金祝)、5/4（土)、5/5（日)、5/6（月祝)、5/18（土)、5/19（日)、6/1（土)、6/2（日)、6/8（土)、6/9（日)、6/15（土)、6/16（日）各日 10:00～12:00、13:00～15:00 会場：常設展示室

			参加費：無料（ただし、企画展入場券が必要） 参加者計:569 名 (3)れきし工房「土偶作り」 日時:〔成形〕4/20（土）午前の部：9:30～12:00(9 人)、午後の部：13:30～16:00(6 人) 〔野焼き〕5/4（土） 会場：大塚・歳勝土遺跡公園内 工房 参加費：1,500 円 (4)スイーツ特集①　春の竪穴住居モンブラン作り 日時:5/18（土）13:30～16:00(9 名) 会場：大塚・歳勝土遺跡公園内 工房 参加費：3,000 円 (5)スイーツ特集② 銅鏡チョコを作ろう！ 日時:6/8（土）9:30～12:00(3 名) 会場：大塚・歳勝土遺跡公園内 工房 参加費：2,000 円 (6)スイーツ特集③ ドッキーを作ろう！ 日時:6/8（土）13:30～16:00(4 名) 会場：大塚・歳勝土遺跡公園内 工房 参加費：1,000 円 (7)展示解説フロアレクチャー 日時:4/21（日）、5/26（日）、6/2（日）各日 11:00～、14:00～(10 名、45 名、58 名) 会場：企画展示室 参加費：無料（ただし 4/21 は企画展入場券が必要） (8)大昔のくらしにせまる① 竪穴住居を直してみよう―かやぶき屋根プロジェクト― 日時:〔講習会〕5/11（土）13:30～15:00(全 3 名) 〔実習〕5/12（日）9:30～15:30 会場:〔講習会〕大塚・歳勝土遺跡公園内 工房、〔実習〕大塚遺跡 参加費：5,000 円 (9)大昔のくらしにせまる② たたら製鉄実験 日時:6/15（土）9:00～15:30 会場：大塚・歳勝土遺跡公園 体験広場 付近 参加費：無料 参加者:自由参加のため計測せず (10)土器でごはん(土器で炊飯したお米の試食体験)

			日時:5/25（土）10:00～13:00 会場：大塚・歳勝土遺跡公園 体験広場 付近 参加費：無料 参加者:自由参加のため計測せず (11)大学生と一緒に展示を楽しもう！(東海大学との協働) 日時:①5/31（金）10:00～14:00、②6/2（日）13:00～16:00、③6/21（金）10:00～14:00、④6/23（日）13:00～16:00 会場：体験学習室 参加費：無料 参加者:自由参加のため計測せず (12)古代アンデスの笛吹きボトル展示解説 日時:6/23（日）①11:00～(19 名)、②14:00～(33 名)（各回 30 分程度） 会場：企画展示室 参加費：無料（ただし企画展入場券が必要）
企画展「サムライ Meets ペリーWith 黒船―海を守った武士たち」 令和 6 年 7 月 13 日（土） ～9 月 1 日（日） 会期 51 日 開館日数 44 日	一般 1,000 円 高大 500 円 小中学生、市在住 65 歳以上 200 円	7,004 人 会期 51 日 開館日数 44 日 1 日あたり 159 人	本展は、ペリー来航に際して、現場で警備を担った武士の視点から新たなペリー来航の様子を紹介する展示であった。ペリー来航に関する展示は、これまで多くの博物館でなされてきたが、本展示では、「海防」を担った武士一人一人に視点を当てた展示構成とした。ペリーを前面に出さずに、あくまでも現場で動いていた日本の武士が体験したペリー来航を紹介する内容としたことで、来館者の感情移入を誘い、ペリー来航に親しみを持たせるように心掛けた。とりわけ、文献資料を中心に構成されるため、絵画資料を多く用いたり、日記や手紙を現代語訳に直したサムライパネルを作るなどして、一般向けに分かりやすくなるように工夫した。また、展示内容をより詳しく知りたい方に向けて、特別講演会（1 回）・連続講座（3 回）を実施した。各回 100 名近くの参加があり、関心の高さがうかがえた。 展示の主なターゲットは一般向けに構成したが、会期中は夏休み期間と重なることもあり、親子連れの来館者にも楽しめるように工夫した。例えば、ワークシート「よく・みて・さがそう！」はペリー来航について学習をしていない小学校低学年向けに用意したもの

			である。学びの面を重視しつつゲーム性を持たせたワークシートは親子連れの来館者からはおおむね好評であった。また、エントランスホールで実施した「ペリーの似顔絵をかこう・ぬろう～博物館をペリーの顔でうめつくそう！」は、来館した小・中学生（土曜日を除く）の 86.8%が参加し、想定を超える数の似顔絵が集まった。同イベントに参加した小・中学生の観覧料を無料に設定し、親子連れの来館者がお得に見学できる仕組みを構築した。このほか、夜の博物館を懐中電灯を持って見学する親子向けナイトミュージアムを実施し、参加者から好評を賜った。 　例年以上に猛暑を記録した年であったが、展示観覧者は 7,004 人（うち有料 3,818 人・54.5%、無料 3,186 人・45.5%）、関連イベント参加者は 1,962 人となり、幅広い年齢層が来館する結果となった。図録は、40 頁/800 円（税込み）と、手に取りやすいものを作成し、690 冊を売り上げおおむね好評であった。 関連事業 (1) 特別講演会「日本を開国せよ―アメリカの対日開国戦略」8/31（土）14:00～15:30 講師：小風秀雅 氏（お茶の水女子大名誉教授、立正大学人文科学研究所研究員） 会場：横浜市歴史博物館 講堂 参加費：1,000 円（※ただし、当日参加者は 1.300 円） 参加者：125 人 (2)連続講座「海を守った武士たち」 A「横浜・金沢を守った武士たち―小倉藩・松代藩・金沢藩士の記録を読む―」7/28（日）14:00～15:30 講師：小林紀子（横浜市歴史博物館 主任学芸員） 会場：横浜市歴史博物館 講堂 参加費：500 円 参加者：99 人 B「本牧を守った武士たち―鳥取藩・松江藩士の記録を読む―」8/4（日）14:00～15:30 講師：仲泉剛（横浜市歴史博物館 学芸員） 会場：横浜市歴史博物館 講堂 参加費：500 円（※ただし、当日参加者は 800 円）

			参加者：89 人 C「絵図から読み解く海防と開港」8/25（日）14:00～15:30 講師：神谷大介（横浜開港資料館 調査研究員） 会場：横浜市歴史博物館 講堂 参加費：500 円（※ただし、当日参加者は 800 円） 参加者：114 人 (3)展示解説（フロアレクチャー） ①7/27（土）、②8/10（土）、③8/24（土）　各日 14:00 より 30 分程度 会場：横浜市歴史博物館 企画展示室 参加費：無料 ※企画展入場券が必要 参加者：①37 人、②34 人、③37 人 （4）親子向けナイトミュージアム　8/17（土）17:30～19:00 会場：横浜市歴史博物館 参加費：一般 1,000 円、中学生以下 600 円 参加者：7 組、21 名 （5）ペリーの似顔絵をかこう・ぬろう 受付期間：7/13（土）～8/31（土） 会場：横浜市歴史博物館 ※当イベント参加の小・中学生は企画展・常設展観覧料無料 参加者：1,352 名（小中無料適用者：1,038 名） （6）関連企画「ペリー来航以前の異文化とのであい『絵本　朝鮮通信使』原画展」 企画展と同時開催（7/13～9/1） 会場：横浜市歴史博物館 常設展示室 9/1（日）に以下の関連イベントを実施 ・「ペリー展に登場するむかしの道具を描こう」 参加費：300 円 参加者：2 人 ・「『絵本 朝鮮通信使』原画展　展示解説」 参加費：無料　※ただし、企画展・常設展示室の共通券が必要 参加者：37 人
特別展「寶林寺 東輝庵展」	一般 1,000 円	4,504 人 会期 57 日	本特別展は、南区永田北に位置する臨済宗円覚寺派、寶林寺の歴史を所蔵の宝物を中心に紹介する展覧会で

令和 6 年 9 月 14 日（土） ～11 月 10 日（日） 会期 57 日 開館日数 50 日	高大 700 円 小中、市在住 65 歳以上　500 円	開催日数 50 日 1 日あたり 90 人	ある。寶林寺の本庵は鎌倉円覚寺内の龍隠庵であり、円覚寺第 102 世大雅省音（応永 26 年（1419）寂）の塔頭として開創され、寶林寺は大雅を開山として、15 世紀頃までには開創された寺院であった。歴住は円覚寺前住が兼ねることが多く寶林寺を隠居寺とし、室町時代に荒廃し一時期無住となるものの、永田村（現・南区）名主服部家の玄庵が開基として堂宇を立て直すものの再び無住となる。 その後、18 世紀中頃、近世禅宗史上欠くことのできない「鎌倉禅」の祖といわれる月船禅慧が寶林寺内に東輝庵を営むこととなる。そこには、鎌倉・円覚寺中興の祖といわれる誠拙周樗や仙厓義梵、峨山慈棹、物先海旭といった名だたる禅僧たちが集い、永田村は東輝庵を中心に地域との交流が生まれ、文化的土壌が醸成されていった。永田の地は月船の号にちなみ「武渓」と呼ばれ、この地の文化を「武渓文化」といい近接の保土ヶ谷宿周辺をふくめた文化・文芸を牽引する場となっていった。本展では、横浜・永田の地に華開いた禅文化にふれるとともに近世禅林の源流を作品とともにたどるものとした。 展覧会で説明しきれない内容については、図録を作成し図版と共に担当者による論考を掲載し二次的な理解を誘導するようにした。 関連事業では、①特別講演会、②連続講演会、③ギャラリートーク、④ワークショップ、⑤歴史さんぽを実施した。 ①　は会期初日に臨済宗円覚寺派管長、横田南嶺氏を招き、基調講演をしていただいた。②は禅画、頂相絵画、彫刻と各会にテーマを設け実施した。③は土曜日に展覧会全体の見どころ、平日に作品の一点解説を行った。④は展覧会出陳の水墨画で描かれた禅画に親しみを持ってもらうため、水墨画の日本画ワークショップを行なった。そして講演会日に合わせて、「東輝庵」特別御朱印を寶林寺の協力のもと受け付けた。また寶林寺を会場に座禅ワークショップを実施した。⑤は保土ヶ谷宿から宝林寺まであるき、地域の歴史文化を再発見してもらう歴史さんぽを実施した。 ３．　関連イベント

			①　　特別講演会　「鎌倉の禅」 登壇者： 臨済宗円覚寺派管長　横田南嶺 老師 日時： 9/14(土)　14 時～15 時 30 分(開場 13:30) 会場： 横浜市歴史博物館　講堂 参加費：　1,000 円 参加人数 94 名 ②　　連続講演会 （1）　「かわいい禅画」 講師： 矢島新(跡見学園女子大学教授) 日程:　10/5（土） 参加人数 49 名 （2）　「円覚寺の仏像と寶林寺」 講師： 花澤明優美(横浜市歴史博物館 学芸員) 日程:　10/19（土） 参加人数 55 名 （3）　「近世禅林の祖師像―描かれた祖師のすがた―」 講師：　志水一行(妙心寺派宗務本所特別研究員) 日程：　10/26(土) 参加人数 26 名 ＊【各回共通】 時間：　14：30～16：00(開場:14：00) 会場:　横浜市歴史博物館 講堂 定員:　各回 170 名 参加費:　各回 600 円 ③　　ギャラリートーク❶（担当学芸員による展覧会の見どころを解説） 日時：　9/21(土)22 名、10/12(土)21 名、10/20(日)32 名　　14 時～　40 分程度 会場：　横浜市歴史博物館　企画展示室 参加費：　無料　*要特別展入場券 ギャラリートーク❷（出品作品 1 点をじっくり解説します。 日時： 9/27(金)13 名、10/18(金)23 名、11/1(金)16 名 14 時～　40 分程度 会場： 横浜市歴史博物館　企画展示室 参加費： 無料　*要特別展入場券 合計 127 名

			④　　ワークショップ ❶「日本画ワークショップ」 墨と胡粉を使って、日本画を描いてみよう 講師：　今西彩子(鎌倉市鏑木清方記念美術館　学芸員) 日程:　10/14(月・祝) 時間:　(1)10:30～12:00　15 名　(2)14:00～15:30 17 名 場所：　体験学習室 参加費:　900 円 ❷坐禅ワークショップ 　寶林寺住職による禅トークと坐禅を体験 日程:　(1)9/28(土)　18 名、(2)10/13(日)　17 名、(3)10/31(木)　14 名 時間:　各回：13:30～　2 時間程度(開場 13：30) 場所：　寶林寺 参禅費:　1,500 円(企画展招待券付き) ⑤　　歴史さんぽ「保土ヶ谷宿と寶林寺をあるく」 講師：　小林紀子・(横浜市歴史博物館 主任学芸員)、仲泉剛(同 学芸員) 日時：　(1)11/2(土)　19 名、(2)11/8(金)　19 名 　参加費：　500 円
企画展「青葉・都筑区制 30th 丘のよこはま—近代の村の歴史とくらし」 令和 6 年 11 月 23 日（土） ～12 月 15 日（日） 会期 23 日 開館日数 20 日	一般 　500 円 高大 　300 円 小中、市在住 65 歳以上　100 円	2,853 人 会期 23 日 開館日数 20 日 一日平均 143 人	青葉区・都筑区の区制 30 周年を記念し、明治 22 年(1889)より両区域に誕生した近代の村について資料をもとに紹介した。両区域には田奈村・中里村・山内村・中川村・都田村のおもに 5 ヶ村があり、それぞれ江戸時代までの複数村を合わせて成立していた。村名はたとえば恩田と長津田の「田」と、奈良の「奈」をとって「田奈村」としたように創作したもので、現在も駅名や町名・学校名等につながっている。 　これら近代の村では、戸籍作成や地租改正などを行うとともに、郡農会や村農会を通じて農作物の品種改良や栽培法の改良に取り組んで産業を興し、耕地整理を行って増産や効率化に務め、総じて地域を豊かにして貯蓄を増やし、また学校を整備して就学率を上げ、さらに地域の防疫や防災に務めるなど、およそ近代に行われた事業や改革のほとんどを担っていった。なかで

			も野菜や果物の栽培は盛んで、もともと横浜開港以後に西洋野菜の需要に対応したことをきっかけに、東京近郊の宅地化で都市部に近いこの地域の野菜や果物が都市部へ販売されるようになっていった。中川村のタケノコ、都田村のイチゴやメロン、モモ、山内村のビール麦、田奈村や中里村の甘柿など、村々は競い合って特産品を生み出していった。本展ではこれら近代の村の誕生と、各村の農会による農産物の生産や出荷、ビール会社との契約や他地域への共同販売などについて、資料を紹介し解説した。 〈関連事業〉 ①講演会 1)11 月 30 日(土)　横浜の茅葺建築　　参加者 42 人 講師 ： 大野敏氏(横浜国立大学教授) 2)12 月 7 日(土)　都筑の丘の農業前史-聖農から農会へ-　参加者　57 人 講師 ： 相澤雅雄氏(地域史研究家) ※1)・2)共　会場 ： 博物館講堂、参加費：600 円 ②横浜国立大学大野敏教授ゼミナール制作・国指定重要文化財「関家住宅」(都筑区)の「主屋軸組模型」の公開および解説 ・実施日 ： 11 月 30 日(土)13:00～　参加費　無料 参加者　17 人、会場 ： 博物館体験学習室 ③フロアレクチャー(展示解説) 実施日 ：a)12 月 1 日(日)14:00、b)12 月 8 日(日)11:00、c)12 月 14 日 14:00 会場 ： 博物館企画展示室　参加費　無料 参加者 ： a)12 月 1 日(日)・29 人、b)12 月 8 日(日)・37 人、c)12 月 14 日・35 人 ④展示図録の制作 A4 版、28 頁、フルカラー、中綴じ、400 部刊行　会期中販売数 ： 305 冊 ⑤その他　:内覧会には青葉・都筑両区長、区連長を招き、総勢 26 人が参加した。
企画展「港北ニュータウン開発と発掘調査」 令和 6 年 12 月 24 日	一般・大学 300 円 高校生以	4,635 人 会期 34 日 開館日数 23 日	本展は都筑区・青葉区 30 周年記念「丘のよこはま」展から一部引き継ぐ形で実施し、港北ニュータウン開発とそれに伴って実施された大規模発掘調査(港北ニュータウン遺跡群)に焦点を当てた。

（火）～令和 7 年 1 月 26 日（日） 会期 34 日 開館日数 23 日	下・市内在住 65 歳以下は無料	一日平均 201 人	また、令和 7 年 1 月 31 日が横浜市歴史博物館開館 30 周年となっていることから、こちらについても言及する展示構成とした。 同時開催として、神奈川県教育委員会と共同主催のかながわの遺跡展「縄文ムラの繁栄 - かながわ縄文中期の輝き - 」を実施した。かながわの遺跡展では神奈川県内の縄文時代中期遺跡から出土した優品を展示したため、同時開催を強く押し出すために、本展でも港北ニュータウン遺跡群の縄文時代中期遺跡とその出土遺物の中でも優品を中心に展示した。 本展は港北ニュータウン遺跡出土の縄文時代中期の優品を見学できるだけではなく、発掘調査の経緯について展示ができた。また、横浜北部地域および港北ニュータウンの開発に関わる書類や資料、今とは様子が異なる景観写真を合わせて展示したことで、観覧者が展示資料の来歴や開発行為と発掘調査の関係をとおして文化財保護について考える機会を作ることができた。 関連事業 (1)展示解説フロアレクチャー 日時:1/19（日）、1/26（日）各日 11:00～、14:00～ 1/19AM57 人、PM41 人　1/26AM95 人、PM131 人 会場：企画展示室 参加費：無料（ただし企画展入場券が必要）
企画展「仏像入門展」 令和 7 年 2 月 8 日（土）～3 月 16 日（日） 会期 36 日 開館日数 32 日	一般 500 円 高大 400 円 小中、市在住 65 歳以上　300 円	5,193 人 会期 36 日 開館日数 32 日 一日平均 162 人	「令和 6 年度 横浜市指定・登録文化財展」の開催にあわせて、当館所蔵資料をもとに、近年新指定がつづく“仏像”の見かたを小学 6 年生以上向けに解説した。本展では仏像を鑑賞するポイントのひとつとして、「尊種」と「材質・構造」を取り上げた。第一、二章では基本的な尊種と、広く”仏像”と呼ばれる彫刻作品の種類を紹介し、第三章では仏像の大半を占める木彫を例に、どのように造られているのか解説したうえで、実際の修理事例を紹介した。 また、展示内容をベースに、寺院にも手軽に持っていけるサイズの「横浜市歴史博物館仏像鑑賞ガイド」を作成した。 関連事業 1　ワークショップ：仏像パズルで学ぼう！仏像はど

			うやってできているの？ 日時：①2/16（日）②2/24（月振）③3/9（日）、各日 13:30～14:30　会場：体験学習室・企画展示室 参加費：無料（ただし企画展入場券が必要）　参加人数：①20 人②24 人③14 人 ２　ギャラリートーク 日時:①2/22（土）②3/2（日）、各日 14:00～　会場：企画展示室　参加費：無料（ただし企画展入場券が必要）　参加人数：①40 人②77 人
令和 6 年度横浜市指定・登録文化財展 令和 7 年 2 月 8 日（土） ～3 月 16 日（日） 会期 36 日 開館日数 32 日	一般 500 円 高大 400 円 小中、市在住 65 歳以上　300 円	5,193 人 会期 36 日 開館日数 32 日 一日平均 162 人	令和 6 年度横浜市指定・登録文化財展では、新指定文化財の紹介ともに、本年度認定された横浜市文化財保存活用地域計画について紹介した。新指定の「木造釈迦如来および右脇侍像」（東漸寺）は静謐な空間に、また「仏遺教経」（大本山総持寺）は全紙を展示した。プレ展示とし、横浜市役所 1 階展示スペース B を会場に 1/22～1/28 までパネル展を開催した。 （1）講演会 ①「文化財はどのように守られているのか―修復・保存の実例をもとに―」 講師：星野玲子氏（横浜市文化財保護審議会委員、鶴見大学教授） 開催日 3/1（土）　参加者：61 名 ②「寺院資料から読み解く横浜の歴史」 講師：西岡芳文氏（横浜市文化財保護審議会委員、上智大学特任教授） 開催日 3/8（土）　参加者：91 名 ※各回共通　時間：　14:00～15：30 会場：横浜市歴史博物館講堂
「横浜市歴史博物館展覧会ポスター展」 令和 7 年 1 月 31 日（金）～9 月 7 日（日）	観覧無料		開館 30 周年を記念し、開館以来の企画展・特別展のポスターを展示した。 会場：2 階廊下

企画展「君も今日から考古学者」東海大連携笛吹ボトル WS

企画展「サムライ Meets ペリーWith 黒船」ペリー似顔絵

特別展「寶林寺東輝庵展」坐禅 WS

企画展「仏像入門展」ギャラリートーク

（２）企画展示室観覧者の推移

	有料観覧者（人）					無料観覧者（人）	合計（人）	前年比	開催日数	1日平均入館者(人)
	大人	シニア	高大	小中	計					
６年度	9,520	3,748	756	954	14,978	25,075	40,053	150.0%	240 日	167
５年度	4,813	3,218	375	465	8,871	17,818	26,689	62,3%	166 日	161
４年度	14,142	3,227	732	1,918	20,159	22,669	42,828	154,2%	269 日	159

５　企画普及事業（定款第４条第１項第１号②）

横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらう各種の歴史講座やワークショップ、またコンサートやアートイベントなどの事業を、市民や地域のさまざまな団体と連携して実施しました。ボランティアへの研修プログラムの充実を図り、展示関係のレクチャーや教養講座などに取り組みました。また都筑区と協力し、都筑区制 30 周年記念事業を実施しました。

（１）歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事　業　内　容
民俗学講演会（共催） 5/19（日）	41 人	相模民俗学会に共催し、景観と生業をテーマとした講演会を開催した

		演題：「循環型社会と景観保全を考える―文化的景観と農業用水の民俗―」 講師：中山　正典氏（静岡県立農林環境専門職大学客員教授・静岡県民俗学会会長） 会場：講堂　参加料：無料
街頭紙芝居デビュー講座 6/15, 29, 7/6, 20, 27, 8/3, 24, 25	５人	街頭紙芝居の歴史や魅力を伝え、その文化を継承する担い手を育成する、座学と実演による講座を実施した。会場：研修室他　参加料：5,000 円
横浜古代史料を読む会 20 周年記念講演会（共催） 7/7（日）、8/18（日）	7/7　128 人 8/18　105 人	横浜古代史料を読む会に共催して、創立 20 周年記念講演会を開催した。 7/7　演題「蝦夷と古代国家」　講師：佐藤信（当館館長） 8/18 演題「古代の王権国家と出雲」　講師：平野卓治（日本大学教授） 会場：講堂　参加料：500 円
横浜さいかちの会 中世史講座（共催） 9/4（水）	50 人	横浜さいかちの会に共催して、中世史講座を開催した。 演題「中世経塚と信仰」 講師：青木豊氏（鎌倉歴史文化交流館館長） 会場：講堂　参加料：500 円
横浜歴博もりあげ隊 歴史講演会（共催） 12/8（日）	136 人	横浜歴博もりあげ隊に共催して、歴史講演会を開催した。 演題「一帝二后～平安朝のおキサキ事情？！」 講師：仁藤智子氏（国士館大学教授） 会場：講堂　参加料：600 円
横浜古文書を読む会 特別講座（共催） 8/2（金）	86 人	横浜古文書を読む会に共催して、特別講座を開催した。 演題：「伊勢参宮道中日記にみえる庶民の旅」 講師：石山秀和氏（立正大が鵜文学部教授） 会場：講堂　参加料：会員無料、一般 500 円
横浜北部 de レジェンドトーク（協力） 1/12（日）	60 人	NPO 法人都筑文化芸術協会に協力して、講演会「横浜北部 de レジェンドトーク」を開催した。 演題「横浜から見た渋沢栄一の人生」 講師：木村昌人氏（渋沢栄一記念財団研究部長） 会場：講堂　参加料：1000 円
はじめての古文書 1/24(金)～3/14(金) 毎週金曜日　全 8 回	各回 33 人	横浜市域の資料を用いた、初心者向けの古文書入門講座を開催した。また録画した映像によるアーカイブ配信を実施した。受講生 21 名が、「横浜古文書を読む会」に加入した 参加料：5,000 円
実験考古学講座 「縄文土器づくり」	14 人	実験考古学的な視点から港北ニュータウン出土の縄文土器をモデルとし、都筑区内で採取した粘土と砂を材料にして、土練

2/2(日)～3/15(土) 全4回		り、成形、施文、野焼きの4工程を経て縄文土器を制作した。 2/2・15・16、3/15 実施　14名　参加料：5,000円 会場：工房・遺跡公園体験広場
バレンタインデー特別企画　銅鏡チョコを作ろう！ 2/9（日）	4人	日吉矢上遺跡出土青銅鏡の雌型を食用シリコンで作成し、チョコレートを錫と見立てて、青銅鏡の踏み返し技法について学ぶ講座を開催した。 会場：工房　参加料：2,000円
開館30周年記念講演会 2/1（土）	178人	博物館の開館30周年を記念し、リレー形式で5名の講師による講演と、2名のコメンテーターを交えたディスカッションからなる講演会を開催した。
ホワイトデー特別企画ドッキーを作ろう！ 3/9（日）	8人	横浜市内出土の本物の縄文土器片を観察して作り方を学んだ上で本物そっくりに作る土器片クッキー(ドッキー)を作る講座を開催した。 会場：工房　参加料：1,000円
第47回神奈川県遺跡調査・研究発表会 1/19（日）	95人	神奈川県考古学会に共催し、神奈川県の遺跡調査・研究発表会を開催した。 会場：講堂　参加料：無料
講師等派遣		各区や地域の郷土史団体等の講座・講演会等に職員を派遣した。 4/27(土)「弥生時代の稲作について」柿生郷土資料館 6/20(木)「太田道灌と両上杉氏の抗争」玉縄城址まちづくり会議 6/24(月)「江戸の暮らしについて」NHK学園 7/25(火)「2023年横濱シニア大学」都筑区老人クラブ連合会 7/31(月)「青葉のあゆみ歴史講演会2024」青葉区郷土史の会 9/18(水)「私たちの住む街都筑」シニア楽農園の会 9/21(土)「鶴見の寺院」鶴見歴史の会 9/10(火)「江戸時代の古文書を読む」金沢区生涯学習「うみねこ」 10/12(土)「鶴見川の水運」鶴見歴史の会 11/10(日)「橘樹に隣接する都筑の古代」宮前市民館 11/28(火)「ペリー来航と横浜の大名」品川歴史館 12/2(土)「神奈川の浦島伝説」横浜市立大学 12/10(火)「創造される歴史と人々が紡ぐ歴史」明星大学 12/12(木)「博物館の情報発信をめぐり」成城大学 2/8 (土)「博物館と学校連携について～博物館の使い方～」神奈川県博物館協会 2/22(土)「鎌倉末から室町時代の港南区」港南歴史協議会

		2/26(水)「かがやきクラブ都筑第 16 回歴史講座　谷戸にくらす」都筑区老人クラブ連合会 3/1(土)「博物館と教育現場との連携」小田原市郷土文化館

・このほか、神奈川県博物館協会、神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会、横浜郷土史団体連絡協議会に職員を派遣し、定例の会議への参加、研修会等の開催などに協力した。

実験考古学講座「縄文土器づくり」成形

「街頭紙芝居デビュー講座」

（２）体験学習の実施

会場/開催日	参加者数	参加料	事　業　内　容
当日参加型れきし工房 まがたま（滑石） あじろ編み （7 日 14 回）	58 人	滑石 白 500 円 滑石 ピンク 550 円 あじろ編み 小物入れ 500 円	ミュージアムショップでオリジナルキットを購入し、活動支援ボランティアのサポートを受けながら、まがたまづくり・あじろ編み小物入れの体験ができる事業。7 月以降、原則最終土曜日に実施。 7/27（土）　5 人　8/31（土）　7 人 9/22（土）　13 人　10/26 （土）　3 人 1/25（土）　18 人　2/22（土）　6 人 3/29（土）　6 人　参加者合計　58 人 会場：体験学習室、工房
事前申込れきし工房 （年度通算 2 日 3 回）	8 人	3,500 円	小学生から大人を対象に、楽しみながら歴史に触れるワークショップを遺跡公園内の工房にて開催した。今年度は万祝染を実施した。 万祝染 8/2（土）、8/3（日） 8 人
体験広場　野焼き		無料	横浜縄文土器づくりの会と協働で、会が制作した土器等の野焼きを行い、市民に公開した。 5/4(土)、11/16（土）、3/15（土）

（３）集客イベント等

項　　目	開催日	参加者数	事　業　内　容

ラストサタデープログラム　おもしろいぞ！紙芝居	毎月最終土曜日及び5/27・28（計13日）	1,762人	当館が管理している横浜市指定有形民俗文化財の街頭紙芝居を活用し、毎月最終土曜日と歴史未来フェスにおいて複製紙芝居の実演を実施した（1日当たり5～6回） 会場：歴史劇場・エントランスホール・ノースポートモールなど
バックヤードツアー	2/22（土）（1日1回）	8人	学芸員の案内で博物館のバックヤードを見学するとともに、実物資料を間近で見たり触れたりするツアーを開催した。 2/22（土）　8人

（4）地域や多様な組織との連携（共催事業、協力事業、後援事業、受託事業等）

項　　目	開催日	事　業　内　容
みなきたマルシェ	毎月最終土曜日	みなきたマルシェ実行委員会に協力し、毎月最終土曜日（ラストサタデー）に、シンボルロードと博物館コロネードで「みなきたマルシェ」を開催した。
バクの流域ワンダーランド・学習スタンプラリー2024	4/27（土）～10/31（木）	鶴見川流域ネットワーキングに協力し、鶴見川流域に所在する生涯学習施設等をめぐるスタンプラリーに参加した
金沢区委託 「むかし体験」歴史授業		「むかし体験」歴史授業　合計868人 資料館授業5校　266人　訪問授業　8校　602人 ※詳細は５（９）参照
港北区委託 小机城址教育普及業務		小机城址映像制作及び城郷小への訪問授業並びに小机小・城郷小の学習成果物の展示 ※詳細は５（９）参照
つづき寄席in歴博	6/9（日） 11/4（月祝）	きたやまた落語倶楽部に共催し、都筑区が後援、北山田地区センター・北山田町内会が協力する「つづき寄席in歴博」を当館講堂で実施した。参加者6/9：174名、11/4：151名。
つづきジュニアストリングス	7/24（水）・25（木）・26（金）31（水）・8/1（木）	NPO法人都筑文化芸術協会に協力し、都筑区内の児童生徒を対象にした弦楽オーケストラ講座を開催した。 参加料5,000円　参加者42人　※子どもゆめ基金助成事業
子どもアドベンチャーカレッジ	8/6（火）	横浜市教育委員会が主催する「子どもアドベンチャーカレッジ2024」に参加し、小学生向けにバックヤードの見学や博物館資料を見学するワークショップを実施した。 参加料：無料　参加者：８人
手作り紙芝居コンクー	8/10（土）～1/26	紙芝居文化推進協議会が開催する「手作り紙芝居コンク

ル	（日）	ール」に協力し、特別賞として歴史博物館賞を設けたほか、広報の連携を行った。※ヨコハマアートサイト 2024 助成事業
センター中央文化祭	10/19（土）	センター中央文化祭実行委員会に協力し、センター中央文化祭の実施に協力した
横浜歴博もりあげ隊バロックコンサート	11/17（日）	横浜歴博もりあげ隊に共催して､｢バロックコンサート in 歴博 2024」を開催した。 演奏：湘南バロック・アンサンブル 参加料：300円　参加者：132人
ロジウラート 2024	12/1（日）	都筑民家園を会場にしたアートプログラム「ロジウラート2024」（ロジウラート実行委員会・都筑民家園主催）に協力した。※ヨコハマアートサイト2024助成事業　参加者620名
手作り紙芝居ライブ	1/26（日）	紙芝居文化推進協議会に共催し、手作り紙芝居コンクールの受賞作を中心とした「手作り紙芝居ライブ」を当館エントランスホールで開催した。参加者 83 名。
鶴見川流域夢交流会・鶴見川流域水循環系健全化貢献者表彰式の開催	2/11(火祝)13:30～16:00	鶴見川流域水協議会及び鶴見川流域ネットワーキングに共催・連携し、鶴見川流域の学習成果を発表する「鶴見川流域夢交流会」と、鶴見川流域水循環系健全化貢献者表彰式を開催した。参加者 60 名。
都筑図書館及び都筑区役所共催展示及び講座	2/26（火）～3/16（日）	都筑図書館・都筑区役所地域振興課と連携し､「丘のよこはまー都筑の地名と近代の村ー」と題した展示及び 3/16（日）に「丘のよこはまー谷戸とくらしー」をテーマに都筑区郷土講演会を都筑図書館で開催した。講演会には 48 名が参加した。
つづきアート＆ミュージック・ネクスト第８章　ずぅーっとつながれみんなのまち	3/1～4(土～火)	つづき地域活動ホームくさぶえ・つづきアート＆ミュージック・ネクスト実行委員会に共催し、「子どもも大人も障害のある人もアートとミュージックでつながっていこう！」をコンセプトとした「つづきアート＆ミュージック・ネクスト」を当館エントランスホール及び講堂で開催した。延べ来場者534名

（５）歴史未来フェス

センター北の開港記念日前後の中心となるイベントとして、地域で活動する諸団体による「街の文化祭」と位置づけ、5 月 24・25 日（土日）に入館無料で開催した。2 日間で 6 千人以上の来館者があり、新たに定着させるべき催しとなった。

来館者合計 6,228 人

5/25（土）2,767 人、5/26（日）3,461 人

開催場所	プログラム
歴史劇場	・劇団かかし座による影絵上演（6/2・3）
エントランスホール外 （コロネード）	・つづきブックカフェ
常設展示室	・スポーツ土器パズル ・展示室 de 間違い探し
エントランスホール	・横浜ビー・コルセアーズ選手パネル展示 ・ライブペイント　・DJ タイム　・ストリートピアノ ・PR（みなきたグッズ、つづきたいちゃん、BOSCH） ・物販・ワークショップ（かたるべ会） ・パネル展示（未来へ残したい格言、都筑区制 30 周年） ・参加型ゴスペル　・お囃子 ・B-ROSE ユースパフォーマンス　・ボールペン絵画教室 ・参加型ダブルダッチ　・ピアノライブ演奏
スロープ	・都筑の街の歴史パネル
休憩室	モヤキラ CAFE
企画展示室	・君も今日から考古学者 2024
２F ろう下パネル展	・デザインフェス
講堂	・ダンスコンテスト ・音楽パフォーマンス ・ミュージカル「君も今日から考古学者！」
体験学習室	・あじろあみワークショップ
大塚・歳勝土遺跡公園	・みなきたマルシェ ・土器ごはん
工房	・ワークショップ（みんなのバザール、メイドインつづき）
都筑民家園	・着物体験（まち biz 着物同好会） ・笛のコンサート ・竹細工

歴史未来フェス　みなきたマルシェ

歴史未来フェス　エントランスのようす

（６）アウトリーチ

本年度は、これまで行ってきたアウトリーチ事業に加え、他施設の展示監修など新たな事業を実施した。

講座名称/開催日	参加者数	事　業　内　容
関家住宅の公開（共催） 11/23（土）	157 人	横浜市教育委員会に共催し、重要文化財「関家住宅」の内部公開を行った。当館と開港資料館の財団専門職員が解説を行ったほか、今年度より横浜国立大学の協力を得、同大学の学生による解説も行った。
中山恒三郎家の公開 10/27（日）	556 人	（有）松林圃に共催し、横浜市認定歴史的建造物「中山恒三郎家」の公開を行った。開港資料館・都市発展記念館の財団施設のほか「都筑をガイドする会」・「川和小学校ふれあい郷土館」・「川和町内会」等と連携して、書院、諸味蔵、店蔵、麹室、八号機を公開し、書院については内部見学、諸味蔵では民俗資料と整理作業の見学を実施した。
横浜スカーフ資料の展示会開催	11/30（土）～ 1/13（月祝）	関東学院大学及びシルク博物館と協定を締結し、横浜輸出スカーフ展「私の推しスカ」を実施した。 企画・監修：ＫＧＵ横浜スカーフ研究プロジェクト 会場：シルク博物館 共催：横浜市歴史博物館・関東学院大学
お城EXPO2024への参加 12/21（土）～22（日）		お城エキスポ実行委員会が主催する「お城 EXPO2024」に港北区役所及び埋蔵文化財センターと協力して出展し、横浜市域の中世城郭の普及・啓発、及び御城印の販売などを行った。
令和 6 年度横浜市指定・登録文化財パネル展 1/22（水）～1/28（火）		横浜市役所 1 階展示スペース B を会場に 1/22～1/28 まで開催した。2/8 から当館で行う文化財展のプレ展示とし、大型バナーを用いて、本年度指定の文化財や近年修理が行われた文化財を紹介した。

横浜技能文化会館収蔵品展「横浜芝山漆器―技を伝え、美をつなぐ―」の監修		横浜技能文化会館から委託を受け、収蔵品展の監修を行った。 会期：令和 7 年 1 月 25 日～2 月 22 日 また会期中の講演「横浜芝山漆器―技を伝え、美をつなぐ―」にて講師もつとめた。 監修・講師：小林光一郎（当館学芸員）

関家住宅公開　横国大連携　事前見学

お城 EXPO　2024

（7）かやぶき屋根プロジェクト

大塚・歳勝土遺跡公園内にある竪穴住居について、定期的・長期的なメンテナンスを行うため、「材料である茅の確保から自分たちでできる修繕まで」を目標として平成 29 年度から事業を継続している。

令和 6 年度は、5/11(土)に企画展「君も今日から考古学者！-横浜発掘物語 2024-」の関連事業として実施した（４－（１）を参照)。また横浜市のクラウドファンディング型ふるさと納税に関してかやぶき屋根プロジェクトで作成した絵本を返礼品として提供し協力した。

（8）ボランティアの活動支援

項　　目	事　業　内　容
展示解説ボランティア	市民ボランティアによる小中学校団体及び一般来館者への、常設展示室、大塚・歳勝土遺跡公園、旧長沢家住宅の無料解説ガイドは、8 月の屋外ガイド中止（猛暑対策）としたが、屋内の常設展示室で毎日 2 回のワンポイント解説を開始し、好評を得た。 ①　ガイド登録者数：86 人 ②　基本ガイド時間　遺跡公園　　小学校 6 年団体　約 45 分間 常設展　見学者の要望に応じて実施 ワンポイント解説 11：00 と 13：30 の 2 回実施 ※活動実績は後述
活動支援ボランティア	昨年度に引き続き、感染対策をしつつ安全に実施する当日参加型れきし工房の補助のほか、「君も今日から考古学者」展の関連事業やセンター北まつりにもご協力いただいた。

	①登録者数：32 人 ②活動実績 ・れきし工房　まがたま（滑石）・あじろ編み小物入れ 4～6 月 毎週土日祝日　計 27 日　活動 55 人 7～3 月　原則最終土曜日　計 6 日　活動 21 人 ・土器や石器にさわろう！ 4 月　12 日間　活動 26 人　　5 月　17 日間　活動 26 人 6 月　11 日間　活動 17 人　　7 月　8 日間　活動 11 人 ・発掘体験 4 月 6 日(土)、13 日(土)、14 日（日)、27 日（土)、28 日（日)、29 日（月） 5 月 3 日（金)、4 日（土)、5 日（日)、6 日（月)、18 日（土)、19 日（日） 6 月 1 日（土)、2 日（日)、8 日（土)、9 日（日)、15 日（土)、16 日（日） 計 18 日　活動 32 人 ・歴史未来フェス 5/25～26：活動 9 人 ・センター北まつり 3/22・23：活動 11 人 合計 208 人 ・ほか、ユーラシア文化館「思い出のチマ・チョゴリ」展の衣装体験、都市発展記念館・ユーラシア文化館開館祭のサポートを行った。
ボランティア総会の実施	展示解説ボランティアおよび活動支援ボランティアの合同のボランティア総会を、上半期分として 9 月 5 日に実施し、下半期分として 3 月 15 日に実施した。
ボランティア研修の実施	全 11 種類の研修を行った。久しぶりに制限のない形（複数校受入れ）での遺跡公園展示解説が再開されるため、ガイドポイントを再確認するための研修を年度初めに開催したり、秋口には小学 4 年生向け常設展示室吉田新田解説研修を行い、実践的な研修を通して学校対応に備えた。さらに企画展ごとにボランティア向け解説を聞く研修を必ず設け、学芸員らの専門に触れる機会を提供した。 4/11・6/28　遺跡公園ガイドポイント　講師：橋口豊　参加者 30 名 5/15　民俗講演会「横浜周辺の天然製氷」（横浜さいかちの会協働講演会） 講師：刈田均副館長　参加者:38 名 5/19　民俗学講演会「循環型社会と景観保全を考える―文化的景観と農業用水の民俗―」（相模民俗学会講演会） 講師：中山正典氏（静岡県立農林環境専門職大学客員教授・静岡県民俗学会会長）※相模民俗学会共催事業　参加者 12 名 7/15・18　企画展「サムライ Meets ペリーWith 黒船」展示解説を聞く 講師：仲泉剛学芸員　参加者 37 名

	9/5　講演会「南武蔵の古代役所」講師：佐藤信館長　参加者 52 名 9/10・13　小学 4 年生向け常設展示室吉田新田解説研修 講師；小林紀子学芸員、仲泉剛学芸員、エデュケーター先生　参加者:49 名 9/25・10/4　特別展「寶林寺 東輝庵展 横浜の禅ー近世禅林のルーツ」展示解説を聞く　講師：吉井大門学芸員　参加者:38 名 11/13　小学校 3 年生向け民家園解説 講師：大竹貴子先生（エデュケーター）参加者:16 名 12/1・8・14　企画展「丘のよこはま」展示解説を聞く 講師：阿諏訪青美学芸員　参加者:44 名 1/13・18・19・26　企画展「かながわの遺跡展・港北ニュータウン開発と発掘調査」展示解説を聞く　講師：神奈川県埋文センター渡辺千尋氏、橋口豊学芸員　参加者：31 名 2/27　企画展「仏像入門展・令和６年度横浜市指定・登録文化財展」展示解説を聞く 講師：花澤明優美学芸員　参加者：23 名

ガイドボランティア　ワンポイント解説

活動支援ボランティア　センター北まつり

展示解説ボランティア活動実績

項目		令和 6 年度		令和 5 年度		令和 4 年度	
		常設	遺跡	常設	遺跡	常設	遺跡
活動実績	ガイド実施日数（日）	304	252	183	146	305	305
	解説回数（回）	820	528	304	367	461	368
	１日平均解説回数（回）	2.7	2.1	1.1	1.9	1.5	1.2
	参加者数（人）	5,768	9,855	2,167	6,434	8,916	2,570
	団体対応（件）	131	167	40	213	211	24
	団体のうち学校数（校）	105	105	111	101	52	0

（９）学校連携事業の実施

今年度は、学校団体見学の受入れについては、5 月 8 日からの新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、学校数・展示室内人数・昼食場所利用人数の制限を解除し、学校からの見学希望にできる

だけ添えるよう対応した。小学校４年の「吉田新田」や小学校３年の「昔のくらし」の訪問授業、金沢区から委託を受けた訪問授業は引き続き実施した。小学校６年では、博物館見学事前訪問授業に加え、横浜市教育委員会生涯学習文化財課と連携した「埋蔵文化財訪問授業」を実施した。さらに、小学校３年の「昔のくらし」の授業の資料となる動画コンテンツの作成、配信を行った。

なお今年度は、工事休館のため中学校社会科研究会の展示及び発表会は見送った。

事業名／開催日	事　業　内　容　等
6 年生向け訪問授業 「博物館見学事前訪問授業」 36 校　2,975 人	高田東小 56 人、綱島東小 85 人、洋光台第三小 49 人、四季の森小 29 人、東品濃小 83 人、帷子小 46 人、鶴ヶ峯小 99 人、平安小 102 人、汲沢小 89 人、茅ヶ崎台小 121 人、川井小 66 人、南山田小 107 人、岸谷小 77 人、勝田小 136 人、本郷台小 86 人、港南台第二小 63 人、日吉南小 124 人、相武山小 90 人、元街小 78 人、永田小 100 人、美しが丘小 83 人、南小 89 人、奈良の丘小 61 人、南神大寺小 41 人、つづきの丘小 67 人、万騎が原小 71 人、西寺尾小 66 人、港南台第三小 44 人、芹が谷南小 47 人、黒須田小 93 人、駒林小 99 人、森の台小 115 人、あざみ野第二小 94 人、長津田小 145 人、恩田小 84 人、鴨居小 90 人
6 年生向け訪問授業 「埋蔵文財訪問授業」 28 校　2,074 人	永野小 93 人、上星川小 92 人、上寺尾小 94 人、釜利谷東小 63 人、六つ川小 57 人、大道小 53 人、十日市場小 101 人、牛久保小 84 人、川和東小 158 人、釜利谷南小 54 人、中尾小 41 人、港南台第三小 44 人、大曽根小 147 人、恩田小 84 人、上瀬谷小 62 人、飯島小 86 人、深谷小 38 人、平戸台小 43 人、大豆戸小 84 人、稲荷台小 67 人、平沼小 104 人、篠原西小 102 人、桜井小 50 人、元石川小 68 人、入船小 32 人、若葉台小 67 人、瀬谷小 37 人、荏田東第一小 69 人
6 年生向け訪問授業 「歴史学習」　2 校　236 人	新井小 49 人、子安小 187 人
6 年生向け訪問授業 「舞錐式火おこし体験」 2 校 138 人	下和泉小 71 人、稲荷台小 67 人
6 年生向け訪問授業 「横浜の開港について」 1 校　98 人	永野小 98 人　　※横浜開港資料館講堂で実施
「吉田新田の開発」 4 年生向け訪問授業 延べ 66 校　5,028 人 ※上瀬谷小は 3 回、山元小は 2 回実施 ※桜井小は学級閉鎖対応のため２日にわたって実施	山元小①49 人、瀬谷さくら小 66 人、さわの里小 49 人、港南台第一小 81 人、菊名小 146 人、洋光台第一小 91 人、四季の森小 14 人、洋光台第三小 43 人、さちが丘小 116 人、牛久保小 83 人、元石川小 68 人、奈良の丘小 57 人、新吉田第二小 101 人、倉田小 69 人、藤が丘小 88 人、大和市立引地台小 52 人、山元小②49 人、東山田小 75 人、緑園学園 146 人、川和東小 142 人、別所小 108 人、太田小 57 人、梅林小 74 人、西富岡小 60 人、不動丸小 122 人、さわの里

	小 49 人、鎌倉市立関谷小 62 人、丸山台小 46 人、西富岡小 30 人、保土ヶ谷小 42 人、浅間台小 45 人、港南台第三小 42 人、新井小 38 人、屏風浦小 115 人、竹山小 23 人、山田小 69 人、上瀬谷小①59 人、中和田南小 52 人、桜井小 35 人、茅ヶ崎小 165 人、荏田西小 164 人、並木中央小 59 人、下郷小 78 人、桜井小 35 人、六つ川小 63 人、上瀬谷小②59 人、上瀬谷小③59 人、一本松小 46 人、上菅田笹の丘小 156 人、中山小 108 人、希望ヶ丘小 87 人、城郷小 117 人、岸谷小 75 人、南本宿小 68 人、飯島小 71 人、藤塚小 43 人、上飯田小 72 人、都田西小 139 人、浜小 106 人、戸部小 67 人、篠原西小 97 人、境木小 76 人、いぶき野小 110 人、深谷小 34 人、笹野台小 83 人、舞岡小 78 人
「吉田新田の開発」 4 年生向け 現地解説 延べ４校　300 人 ※緑園学園は 2 日にわたって実施	緑園学園 89 人、緑園学園 58 人、保土ヶ谷小 47 人、浜小 106 人
「昔の暮らしと市の広がり」 3 年生向け訪問授業 延べ 18 校　1,379 人 ※末吉小は 2 日にわたって実施	大道小 23 人、平戸台小 39 人、日吉南小 110 人、篠原小 109 人、平安小 97 人、平沼小 106 人、二つ橋小 80 人、大豆戸小 104 人、平戸小 108 人、つづきの丘小 56 人、万騎が原小 67 人、末吉小 31 人、末吉小 62 人、洋光台第三小 35 人、あざみ野第二小 88 人、深谷小 31 人、森の台小 118 人、中和田小 115 人
「昔の暮らしと市の広がり ～七輪での炭の火おこし体験」 3 年生向け訪問授業 4 校　251 人	美しが丘小 71 人、奈良の丘小 57 人、西富岡小 84 人、平戸台小 39 人
開港記念日講話 3 校　1,480 人	いずみ野小 358 人、新吉田第二小　439 人、東本郷小　683 人
「廻り地蔵について」 年中行事 4 年生向け訪問授業 1 校　139 人	都田西小 139 人、
学校資料室への訪問授業等 延べ 2 校　112 人 ※2 日にわたって実施	市ヶ尾小 56 人、市ヶ尾小 56 人　（鉄小郷土資料室にて実施）
金沢区委託 「むかし体験」歴史授業（再掲） 資料館授業 5 校　266 人 訪問授業　8 校　602 人 合計 868 人	大道小での資料館授業 大道小　56 人、文庫小　65 人、高舟台小　56 人、六浦小 60 人、朝比奈小 29 人 訪問授業 西柴小 113 人、西金沢学園 70 人、並木中央小 42 人、小田小 104 人、金沢小 76 人、西富岡小 84 人、能見台小　65 人、並木第一小 48 人

港北区委託 小机城址の教育普及業務（再掲）	・城郷小学校３年生及び６年生への訪問授業 ３年生　5/28　小机城紹介・アニメ「小机の重政」上映・クイズ 5/30　小机城址市民の森での現地解説・紙芝居実演 ６年生　9/30　小机城紹介・「小机城どうかん歴史がたり」上映 10/2　小机城址市民の森での現地解説・紙芝居実演 ・小机小学校、城郷小学校の学習成果物の展示 令和７年２月８日～3 月 15 日　博物館エントランスホール
総合学習 「学校資料館を整理しよう」 ６年生向け訪問授業 延べ２校　64 名　※2 回実施	川上北小①32 人、川上北小②32 人
総合学習「伝統行事」 ５年生向け訪問授業１校 36 人	東品濃小 38 人
中学校「職業講話」 １校	中学校１年生を対象に学芸員の仕事について講演した。 11/29　中川西中
動画コンテンツの作成・配信	３年生「昔の暮らしと市の広がり」に関連した動画の作成 「昭和のくらしと道具」 「道具の紹介」 ・冷蔵庫（氷冷蔵庫）・ちゃぶだい・かや・テレビ（白黒テレビ） ・電話機（ダイヤル式黒電話） 12 月に横浜市立小学３年生、横浜国立大学付属横浜小学校全員に紹介リーフレット配付 ※神奈川県小学校社会科研究会会長校・部長校、横浜市内私立小学校、にも 10 部ずつ配布。 12 月中旬より動画配信開始、横浜市歴史博物館ホームページに動画のリンクを掲載した。３月末までの動画視聴回数　130,000 回以上
横浜市教育委員会博物館活用研修への協力	7 月 26 日に市立学校教職員を対象にした博物館活用研修を実施し、収蔵資料を活用した研修を行った。
教職員対象の研修 延べ「吉田新田」研修会 70 人、 区小学校社会科研究会 46 人、 ハマアップ研修会 57 人、 その他の研修 18 人	７月 31 日に「吉田新田の開発」研修会を実施した。午前・午後の部で計 70 名の参加があった。 横浜市教育委員会ハマアップからの要請により研修会を行った。 10 月 16 日　西部ハマアップ「吉田新田の開発」21 人 10 月 23 日　南部ハマアップ「吉田新田の開発」23 人 12 月 11 日　西部ハマアップ「昔のくらし」 13 人 区小学校社会科研究会からの要請により、「地域の史跡」の研修会を行った。 6 月 12 日　瀬谷区 15 人、　8 月 31 日　戸塚区 31 人 4 年「吉田新田の開発」の研修を行った。

	さちが丘小３人（学校訪問）、山元小２人（歴史博物館来館） 学校に訪問し、研修を行った。 「開港記念講話」東信濃小１人、東本郷小２人 「地域の遺跡」新井小７人 6 年「火おこし体験」3 人
横浜市立中学校社会科研究会	中学校社会科作品展を常設展示室内にて実施し、12 月 14 日には発表会を開催した。作品展会期：12 月 14 日～1 月 13 日。
神奈川県高等学校文化連盟	神奈川県高等学校文化連盟との共催で、神奈川県社会科研究発表大会を実施し、審査員を派遣した。 大会：11 月 10 日　会場：横浜市歴史博物館講堂
東海大学と博物館の協働による文化財資料の教育活用事業	博物館が整理を進めている伊藤宏見旧蔵資料群のうち掛軸を対象とし資料整理の実習を実施した。当該資料群の整理を通して、学生が通常の博物館実習では得られない現場での実務経験を積み、文化財資料の活用事業に関与することで、地域博物館の文化創造や地域社会における文化財資料の活用に係る新たな「学びの場」の創出をめざす活動を実施した。 実施日は 6/4(火)〔資料整理実習〕
東海大学地域史演習の受入	東海大学からの依頼を受け、地域史演習を当館で実施した。 2/14（金）
大学からの博物館見学の受入	学芸員課程等の大学専門科目の一環として博物館見学を受け入れた。 5/8 日本大学通信学部・松蔭大学、6/9 神奈川大学、6/22 國學院大學、6/23 成城大学、7/6 清泉女子大学、7/13 相模女子大学、8/2 玉川大学、8/3・8/10 日本女子大学、1/9 田園調布大学、2/14 東海大学
学校団体の博物館見学申込新システムの導入	学校からの見学申し込みの利便性を高め、保守費用の削減を図る学校見学予約システムに刷新し、2 月から令和 7 年度学校見学予約申込みについての運用を開始した。

高文連　社会科研究発表大会

東海大学連携　資料整理実習

学校団体利用の推移

項　　目	令和６年度	令和５年度	令和４年度
学　　校　　数（校）	171	142	159

うち小・中学校利用数

項　　目	令和６年度	令和５年度	令和４年度
学校数（校）	141	131	125
児童・生徒数（人）	12,927	10,132	10,175

(10) 関連団体との協働事業

市民と共に歩む博物館を目指して、当館主催の講座受講者ＯＢで組織した「横浜古文書を読む会」、「横浜縄文土器作りの会」、「横浜古代史料を読む会」、ガイドボランティアのＯＢ会である「横浜さいかちの会」の４団体、及び博物館への支援と協働を目的に結成された「横浜歴博もりあげ隊」との協働事業を実施した。

項　　目	事　業　内　容
「横浜古文書を読む会」との協働	・原則として毎月２回の講座の開催 ・有志による「下読み会」の実施。 緑区河原家文書の解読を行った。 ・特別講座の実施 8/2（金） 演題：「伊勢参宮道中日記にみえる庶民の旅」 講師：石山秀和氏（立正大が鵜文学部教授） 会場：講堂　参加料：会員無料、一般 500 円　参加者：86 人
「横浜古代史料を読む会」との協働	・横浜古代史料を読む会 20 周年記念講演会（共催） 7/7、8/18 ・『続日本紀』講読講座の開催　講師：平野卓治氏（日本大学教授） 7/23、8/27、9/10、11/19、2/11、3/18
「横浜縄文土器づくりの会」との協働	・2/2・16・17、3/15 実験講座土器づくり教室 ・3/9 ドッキーを作ろう！ ・土器づくりの会土器制作は年間３回 4/6・7、9/7・8、1/18・19 ・5/4、11/16、3/15 土器づくりの会制作土器の野焼き
「横浜さいかちの会」との協働	・さいかち古代史料講読講座（『日本書紀』購読） 4/16、8/20、10/22、、12/17、2/18、3/12 ・講演会「横浜周辺の天然製氷」 5/15（水）講師：刈田均（当館副館長）参加者 44 人 ※展示解説ボランティア研修を兼ねる ・中世史講座「中世経塚と信仰」 9/4（水）講師：青木豊氏（鎌倉歴史文化交流館館長）

	参加料：500 円　参加者：50 人
「横浜歴博もりあげ隊」との協働	・コンサート「バロック・コンサート in 歴博 2024」11/17（日） 演奏：湘南バロック・アンサンブル 会場：当館講堂　参加料：300 円　参加者：132 人 ・歴史講演会の実施　12/8（日） 演題:「一帝二后～平安朝のおキサキ事情？！」 講師: 仁藤智子氏（国士館大学教授） 会場：当館講堂　参加料：600 円　参加者 136 人 ・つづき人交流フェスタへの参加 2/27（木）～3/2（日）　都筑区役所 博物館の紹介展示、チラシ配布、缶バッジワークショップなど 二次元コードを利用した博物館アンケートの実施

(11) 実習・研修の受け入れ

博物館館務実習は、５Ｆ収蔵庫棚増設工事やチラー交換工事による休館のため実施を見送った。

項　　目	事　業　内　容
フェリス女学院大学インターンシップの受け入れ	フェリス女学院大学キャリア実習として学生を受け入れる予定であったが、都合により中止となった。
高校インターンシップの受入	・博物館に興味を持つ県立高校生徒のインターンシップを受け入れた。8/6～9　5 名 ・聖心女子大学付属高校　7/28　1 名 ・日々輝学園 2 年生　10/30・11/1　2 名
中学校職場体験の受入	南中学校　6/28　3 名 鶴ケ峰中学校　9/12　2 名 栗田谷中　10/31　3 名 あかね台中　11/28　2 名 鷗友学園中　12/17　1 名

(12) 広報広聴

項　　目	事　業　内　容
広報	展覧会や各種催し物についての広報を行った。 ・各種チケットサービスを利用しての前売券販売による PR ・当館ウェブサイト、ＳＮＳによる広報、情報発信 ・館外情報サイトへの情報提供 ・広報誌「博物館 NEWS」の発行 ・全国博物館施設、市内公共施設、学校、関係機関に向けた広報 ・マスコミ各社への情報提供

	・リリース配信サービス会社との年間契約による継続的発信 ・博物館近隣の広報案内看板への掲示 ・センター北駅１番出口広告掲示板（8ヶ所）への掲示 ・広報よこはま等の市広報誌への情報掲載 ・新聞・ラジオ・雑誌等マスコミやＳＮＳへの有料広告 ・ラジオ番組への番組コーナー提供 ・センター北まつりでのPR
市民ニーズの把握	企画展アンケートをウェブフォームで実施
催事申込システムの運用	ワークショップ「れきし工房」や各種講座・講演会、また財団他施設での講演会等の受講生募集にあたって、インターネットを利用した催事申込システムを運用した。
リーフレット類作成	歴史博物館催し物案内（年２回） 横浜市新規転入者向け案内チラシ

(13) 出版

博物館ニュースは 57 号を刊行した。資料目録、紀要については pdf により web 公開を行った。

項　　目	事　業　内　容
出版物発行	横浜市歴史博物館ニュース№57 号 横浜市歴史博物館資料目録　第 33 集　　PDF データ公開 横浜市歴史博物館紀要　第 29 号　　PDF データ公開

(14)　よこはま縁むすび講中（定款第４条第１項第１号②）

よこはま縁むすび講中は、かつて港北区だった横浜北部 4 区(港北・緑・青葉・都筑)の地域文化遺産をつなぐ取り組みとして、当館が中核館となり、(公財)大倉精神文化研究所、小机城のあるまちを愛する会、みどりアートパーク、横浜市民ギャラリーあざみ野の各団体が連携した。

項　　目	事　業　内　容
かやぶき屋根プロジェクト	横浜市歴史博物館が企画し、5/11(土)に企画展の関連事業として実施した。また横浜市のクラウドファンディング型ふるさと納税に関してかやぶき屋根プロジェクトで作成した絵本を返礼品として提供し協力した。
ポスター展の実施 3/14～4/30	ボッシュホールのこけら落としに合わせてホール内廊下にて、よこはま縁むすび講中の活動報告のためのポスター展を実施した。

６　開館 30 周年事業

当館は令和７年（2025）１月 31 日に開館 30 周年を迎え、同年を開館 30 周年イヤーと位置づけて、

記念事業を実施します。

今年度は、常設展示室では歴史劇場の新たな動画コンテンツを制作しました。企画展では、都筑・青葉区区制 30 周年の記念展を実施しました（４　企画展事業（定款第４条第１項第１号②）を参照）。また 2 階廊下にて、開館以来の企画展ポスターを一堂に会した「ポスター展」を開催しました。普及事業では特別講演会「横浜 3 万年の歴史の軌跡」を実施しました。また、新たな寄附会員制度「レキハクパートナーズ」を整えました。特別展など来年度以降の事業については、実施に向けて準備を進めました。

項　　目	内　容
歴史劇場の新コンテンツ制作	開館以来の調査研究・企画展などの成果を反映した、横浜の通史と常設展示室のガイドを兼ねた新動画コンテンツ「レックルとめぐるヨコハマ歴史旅行」を制作した。
ポスター展の実施	開館 30 年を記念し、開館時から現在までの企画展のポスターを展示した。会期は 1 月 31 日～9 月 7 日。
特別講演会「横浜3万年の歴史の軌跡」	博物館準備室時代・開館時のメンバーおよび元館長など OB を講師として招き、考古・古代・中世・近世・近現代各時代の開館来の研究成果について講演いただき、博物館のこれからについて語っていただいた。
30周年記念展示事業	令和 7 年 4～6 月実施予定の横浜の文化財をテーマとした記念展示 part1 について、展示内容を確定し、借用交渉や写真撮影、広報印刷物や図録制作、会場レイアウト検討など実施に向けた作業を進めた。6～7 月実施の part2 についても展示資料の確定作業などを進めた。
収蔵資料のデータベース公開	収蔵資料のデジタル化を進め､公開について助成金の申請を行った。
収益事業	新たなオリジナルグッズ「はらでぐちくんぬいぐるみ」を制作し、販売を開始した。
レキハクパートナーズ	これからの活動の充実化と財源の多様化、博物館のサポーターを増やす等の目的で、新たな寄附会員制度「レキハクパートナーズ」の制度を整え、募集を開始した。

30 周年特別講演会「横浜三万年の軌跡」

ポスター展

7　情報事業（定款第４条第１項第１号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。また事業に用いる PC 及びプロッターを更新しました。

項　　目	事　業　内　容
収蔵資料等データ入力	図書文献資料等のデータ入力及びインターネット公開を行った。 データ入力件数　　1,918 件
映像資料の公開	常設展示室内で利用者のモバイル端末を用いたクイズや、横浜の歴史や文化財に関するビデオを公開する「横浜市歴史博物館クイズ＆ムービー」をについて、利用の促進を図った。常設展示室内の展示解説映像を、公式解説アプリで利用者各自の端末から視聴できるようにした。 公式 YouTube チャンネルにおいて小学校 3 年生向けのむかしの道具をテーマとした動画を新たに 6 タイトル制作し、計 35 タイトルを公開した。再生回数 134,755 回（3 月まで）
文化財情報システムの運用・保守	インターネット等による文化財情報の管理・発信や、サーバーならびにグループウェアに関わる機器類の保守管理を行った。
ホームページを利用した博物館情報の発信と市民ニーズの把握	博物館のホームページにより、博物館の展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料・市内文化財等の紹介を行った。 アクセス（セッション）数　244,024 件
X（旧ツイッター）等SNSを利用した博物館の情報発信	X（旧ツイッター）を利用した博物館展示情報や解説、催し物など多岐にわたる活動情報を発信し、フォロワーが 1 万人を超えた。また NOTE による情報発信を試行した。 ツイート数 271　　フォロワー数 10,810（5 月 14 日現在）
デジタルアーカイブの公開	小宮山博史氏コレクションの「日本語活字見本帳」をデジタル化した「文字のかたちのデータベース　仮名字形一覧」は web 上で、横浜スカーフアーカイブは図書閲覧室での公開を継続した。

8　施設維持事業（定款第４条第１項第１号③）

歴史博物館及び野外施設の維持管理・運営を行いました。歴史博物館は竣工から 30 年余り、野外施設も開園から 29 年が経過し、施設の経年劣化が進む中、日常の点検監視と保全を行い、所管局への連絡と情報共有を徹底しました。本年度は、施設の長寿命化に向けた ITV（監視カメラ）更新工事の設計や泡消火設備の修繕、大塚遺跡の環濠柵列の交換等について、業者との工程確認・調整を進めて、完了しました。

（１）来館者対応業務

受託業者との連絡・情報共有を徹底し、一般利用者や学校団体等の来館者が安心して気持ちよく利用できる対応を進めた。

事業名／開催日	事　業　内　容　等
受付案内サービス	利用者の利便性向上を図り、引き続き観覧料金及びミュージアムショップの決済手段として現金のほか、クレジットカードや交通系 IC カードに対応している。

（２）歴史博物館等の維持管理

管理対象施設等	事業内容
歴史博物館	施設の保守管理、補修・修繕 〈主な修繕等〉 ・ITV 更新工事設計（建築局） ・泡消火設備修繕（市教委） ・加圧給水ポンプ電源ユニット交換 ・大塚・歳勝土遺跡公園　環濠柵列交換（市教委）

（３）講堂・研修室利用の推移

項　　目		令和６年度	令和５年度	令和４年度
講　堂	利用者数（人）	7,477	4,844	5,134
	利用件数（件）	86	61	58
	うち有料貸出件数（件）	42	20	22
研修室	利用者数（人）	3,229	3,092	2,239
	利用件数（件）	94	123	111
	うち有料貸出件数（件）	77	76	81

（４）歴史博物館野外施設入場者の推移

項　　目	令和６年度	令和５年度	令和４年度
歴史博物館野外施設（人）	39,997	37,973	40,966

内　　訳	大　塚　遺　跡（人）	34,127	32,054	39,142
	工　　房（人）	5,870	5,919	1,100

９　収益事業（定款第４条第１項第２号）

ミュージアムショップ、駐車場、館内の自動販売機設置による収益事業を行いました。

ミュージアムショップでは企画展ごとに関連書籍を揃えたほか、ライト層にも楽しめるようなグッズを充実させました。オリジナルクリアファイルやバッグを制作したほか、その他委託商品も多種取り揃えました。**また、オンラインショップでも、取扱商品を充実させました。**

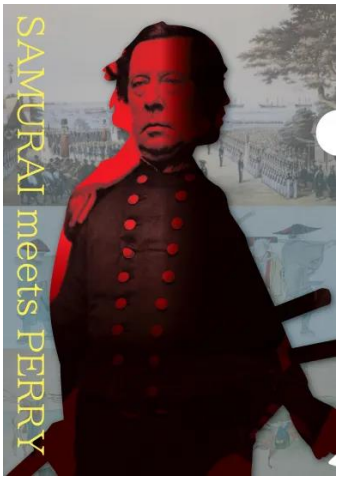
駐車場は遺跡公園利用者の利便性向上を図るため、博物館休館日も営業しました。

（１）　ミュージアムショップ

・企画展「サムライ meets ペリーwith 黒船」ではオリジナルクリアファイルを制作し、図録とのセット販売を行ったほか、横浜開港資料館刊行の関連書籍などを揃えた。会期中のショップ売上は 239 万円余りであった。

・特別展「寶林寺東輝庵展」ではオリジナルトートバック制作し、図録とのセット販売を行ったほか、禅関係のグッズ、宝林寺境内の土を使った陶器等委託販売商品を揃えた。会期中のショップ売上は 239 万円余りであった。

・仏像入門展では、ポケットサイズで持ち運びできる「仏像鑑賞ガイド」を制作した。



企画展「サムライ meets ペリーwith 黒船」
オリジナルクリアファイル

特別展「寶林寺東輝庵展」
図録とオリジナルトートバック

企画展「仏像入門展」
仏像鑑賞ガイド

（２）駐車場

来館者の利便性を図るべく、歴史博物館の来館者用駐車場を運営した。

駐車場管理会社に委託し、キャッシュレス決済が利用できるコインパーキングとした。大塚・歳勝土遺跡公園利用者の利便性向上のため、博物館休館日の営業を引き続き行った。

（３）自動販売機

施設利用者の利便を図り、交通系 IC カード等のキャッシュレス決済に対応した飲料の自動販売機の設置を継続した。

＜各事業の推移＞

項　　目	令和６年度	令和５年度	令和４年度
ミュージアムショップ売上（千円）	12,203	9,011	17,403
自動販売機手数料収入（千円）	117	110	114

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
１　資料収集保管事業	購入・寄贈・寄託により 1,449 点の資料を収集し、資料の整理・保管・データ入力を進めた。特別利用については、14 件 417 点の資料の貸出や熟覧等に対応した。資料の燻蒸や IPM など、適切に資料の保全を進めた。	A
２　調査研究事業	基礎資料研究５本、テーマ研究５本、市民共同研究３本、連携調査研究２本のほか、令和７年度実施予定企画展の調査や資料の基礎整理を予定通り進めた。成果は企画展(「仏像入門展」)や紀要の論文２本、所蔵資料目録などに反映した。	A
３　常設展事業	展示解説ボランティアによるワンポイント解説を午前午後１回ずつ実施し、来館者の常設展の理解を深める取り組みとなった。また多言語解説アプリに解説映像を格納し、利便性の向上を図った。またオリジナル歴史クイズや横浜の歴史や文化財についての映像を視聴できるアプリ「クイズ&ムービー」の利用を促した。	A
４　企画展事業	小学校６年生の歴史の学習に合わせ、考古学を身近に楽しみながら学べるアクティブラーニングの手法を取り入れた企画展「君も今日から考古学者　横浜発掘物語 2024」、海防にあたった武士の視点からペリー来航をとらえなおした企画展「サムライ Meets ペリーWith 黒船」、横浜・永田の地に華開いた禅文化および近世禅林の源流をたどる特別展「寶林寺　東輝庵展」、都筑・青葉両区の区政 30 周年を記念した企画展「丘のよこはま―近代の村の歴史とくらし」および企画展「港北ニュータウン開発と発掘調査」、仏像のみかたをわかりやすく伝える企画展	A

	「仏像入門展」と「令和6年度横浜市指定・登録文化財展」を開催した。考古、歴史、美術分野の多彩なテーマを取り上げ、関連事業でも、大学などとの連携事業や、展示の内容をより深く掘り下げる講演会など幅広く展開し、市民の多様な生涯学習のニーズに応えた。	
5　企画普及事業	**「歴史未来フェス」を始めとし、さまざまな団体や市民、ボランティアと連携・協力し、講座・講演会や子ども向けのワークショップ、また地域の賑わいの創出につながる多彩なイベントを展開した。本年度の古文書講座ではオンラインから対面に変更し、講義の内容をアーカイブ発信する取り組みを行った。**学校連携事業では事前訪問授業を拡充したほか、**小学校3年生向けの映像を追加制作し、公式youtubeチャンネルでは10万回以上再生された。**	S
6　開館30周年記念事業	常設展示室歴史劇場で上映する新コンテンツの制作、2月1日に開館30周年記念特別講演会「横浜3万年の歴史の軌跡」、また開館30周年記念特別展の準備などを予定通り実施した。	A
7　情報事業	リアルタイムな情報発信が行えるSNSの強みを活かし、X（旧ツイッター）を利用して博物館の展示や催しの情報ほか、博物館の活動をリアルタイムで紹介する情報発信を積極的に行った。フォロワーは1万人を超えた。HPについては随時情報の更新を行って運用した。	A
8　施設維持事業	**開館から30年が経過した博物館や、開園から29年となる野外施設など、経年劣化のみられる施設・設備に対し日常の監視保全を行い、不具合については所管局と協議と情報共有に努めた。長寿命化に向けた設計や修理に適切に対応し、安定的な運営を維持できるよう努めた。**	B
9　収益事業	ミュージアムショップ事業は、各企画展に応じた新商品の開発や魅力ある商品の取り揃えに注力した。またオンラインショップの取扱商品も拡充した。駐車場はキャッシュレス決済が利用できるコインパーキングとし、休館日にも営業して遺跡公園利用者への利便性を高めた。	B

３　開港資料館事業

令和６年度は、「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」の４年目にあたり、これまでの成果をさらに積み上げる１年となりました。

「横浜開港資料館デジタルアーカイブ」では、これまでOPACで公開していた図書・雑誌のデータを統合することで、約20万点の資料情報が一元的に閲覧できるようになりました。あわせて商標等の画像データを新規に追加し、資料画像の公開点数は約8800点となりました。また今後の利用促進に向けて、これまでの活用事例などを紹介する広報動画を作成・公開しました。

市指定文化財である旧館（旧英国総領事館）の整備工事では、外観部分の扉や窓回りをイギリス領事館時代の緑色に復元し、そして新館と旧館をつなぐバリアフリーの連絡通路付け替え工事を実施しました。ミュージアムショップ＆カフェ「PORTER’S LODGE」では、昨年度実施したミュージアムグッズ・デザインコンテストで大賞を受賞したスイーツの商品化や、タレント・企業とコラボしたオリジナル商品の開発などの成果を挙げ、昨年度から売り上げを大きく伸ばしました。

そして中庭の「たまくすの木」（市地域史跡）の維持管理では、「たまくすの木」をより身近に感じていただく環境づくりとして、昨年度協定を締結した一般社団法人日本樹木医会神奈川県支部（かながわ樹木医会）の協力を得て、たまくすの周囲へのバリアフリーデッキの整備を進めました。整備にあたっては、クラウドファンディングを実施して費用を募り、多くの地域企業からリターン企画や商品での協力をいただきながら、目標を上回る支援金を獲得しました。

また令和６年（2024年）は、ペリーが横浜に来航して日米和親条約が結ばれてから170周年ということで、常設展事業・企画展事業ともに記念の展示を実施しました。特別展「外国奉行と神奈川奉行」では、これまで研究の蓄積がほとんどなかったテーマに対して、新出資料を含む多くの資料を展示し、関連事業とあわせて多くの来場者を得ました。また「ペリー提督・横浜上陸図」の石版画を特別公開したほか、ペリー横浜来航170年をテーマにしたミニ展示を継続して開催しました。

資料収集保管事業では、貴重な商館時計コレクションの受領を記念して、寄贈者への感謝状の贈呈式をおこないました。調査研究事業では、外部研究者との連携研究（幕末維新史研究会）の成果を、民間出版社から論集『幕末の開港都市・横浜』として刊行し、その内容をふまえて記念シンポジウムを開催しました。

普及事業では、横浜郷土史団体連絡協議会の活動支援に継続して取り組みました。また今年度は地域企業との連携をこれまで以上に強化し、地域循環型のクラウドファンディングを通じて様々なコラボ企画を実施したほか、地域の大規模イベントにも積極的に参加しました。

１　資料収集保管事業（定款第４条第１項第１号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料を収集し、収集資料を良好な状態で保存するために資料の保管を行いました。また、閲覧室での資料公開・コピーサービスにより、資料や研究成果の普及を行いました。

（１）資料の収集・管理・公開

項　　目	点　　数	事　業　内　容
資料の寄贈・寄託	寄贈６件　６４５点	主な収集資料：イリス商会宛葉書、中沢磯一家文書、田

	寄託０件　０点	中三郎日記、捜真女学校関係資料、小川雄一コレクション（商館時計ほか時計関係資料）など
資料の購入	１０件　６４点	主な収集資料：ペリー提督日本遠征記　復刻版
資料の分類・整理		未整理の文書群の分類・整理をおこなった。 主な資料：中山恒三郎家資料
閲覧室における資料の公開とコピーサービス	閲覧室利用 １，０８２人 コピー枚数 ２３，７１１枚	日本語・外国語新聞複製、図書等の開架資料の公開と、文献・古文書等の閉架資料の出納・公開、コピーサービスを行った。
資料のデジタル化	古写真や古記録、絵巻など	企画展や閲覧公開に供する資料及び収蔵資料のデジタル化を行った。 主な資料：『ペリー艦隊日本遠征記』第１巻・第２巻の挿絵・地図
	商標・古写真 ３，０４８点	文化観光拠点計画事業の一環として、デジタルアーカイブの公開に向けて、収蔵資料から商標・古写真などの画像資料を選定してデジタル化をおこなった。
デジタルアーカイブの公開	公開点数 １９９，５０７点	文化観光拠点計画事業の一環として制作、一般公開した「横浜開港資料館デジタルアーカイブ」を改修し、古文書・写真・絵葉書・浮世絵・商標・図書・雑誌・新聞などの資料種別に、199,507 点の資料情報および 8,822 点の資料画像を公開した（令和 7 年 3 月 31 日公開時点）。
複製資料の提供	提供件数３８３件 １，２４９点	市民や企業、他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の提供を行った。
原資料の貸出	貸出件数４件２６点	他の博物館（群馬県立博物館、神奈川県立博物館、神奈川県金沢文庫、横浜美術館）の展覧会へ原資料の貸出を行った。

（２）資料収集内訳（R6.4～R7.3）

区　　分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
行政資料（点）	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	1,851 (1,851)
政府資料（点）	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	16,137 (16,137)
海外資料（点）	― (―)	― (―)	1 (―)	― (―)	1 (―)	15,237 (15,236)
文書・記録（点）	― (―)	― (―)	400 (517)	― (―)	400 (517)	86,806 (86,406)
新聞資料（点）	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	9,955 (9,955)
絵画・写真等	31	―	―	―	31	33,972

(点)	(3)	(—)	(222)	(32)	(257)	(33,941)
コレクション (点)	— (—)	— (—)	245 (—)	— (—)	245 (—)	51,653 (51,408)
文献資料（点）	33 (49)	— (—)	— (—)	— (—)	33 (49)	58,559 (58,526)
合　　計	64 (52)	— (—)	646 (739)	— (32)	710 (823)	274,170 (273,460)

※（　）内は、前年度点数。

（３）複製資料の提供実績

項　　目	令和６年度	令和５年度	令和４年度
出版社（一般書・教科書・雑誌）、放送・テレビ会社、官公庁、横浜市及び横浜市関連機関への提供	３８３件	４１８件	４４５件

（４）閲覧・資料相談・複写サービス利用状況

項　　目	令和６年度	令和５年度	令和４年度
閲覧室利用者数（人）	１，０８２	１，１８８	１，２４４
複写申込件数（件）	５３０	６３１	５９１
複写枚数（枚）	２３，７１１	２４，１２５	１９，４６３
レファレンス件数（件）	１，５３６	８９６	１，９６２

（５）資料の保管

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
環境調査	収蔵資料の汚損の予防のため、害虫の発生状況や館内環境の調査を実施した。５回／年
マイクロフィルムおよび図書資料の収蔵管理	マイクロフィルムおよび図書資料の収蔵管理を、外部倉庫会社に委託した。

（６）資料保管施設の管理

保管施設	保　管　資　料
開港資料館収蔵庫（310 ㎡）	文書記録、画像資料、個人文庫、文献等の収蔵と管理を行った。
大黒埠頭倉庫、シルクセンター他	器物資料、文献資料などの収蔵と管理を行った。

（７）感謝状贈呈式の開催

小川雄一コレクション（商館時計ほか時計関係資料 245 点）の受領を記念して、寄贈者である小川雄一氏を招いて、当館館長より感謝状を贈呈した。

（左）小川コレクションより商館時計　　（右）小川雄一氏への感謝状贈呈

２　調査研究事業（定款第４条第１項第１号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料について、各テーマに基づいた調査研究を実施しました。また財団諸施設との連携研究事業、外部研究者との共同研究事業も継続して実施しました。

（１）基礎的調査研究

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
近代横浜の建築･都市に関する調査研究（１／２年次）	・横浜開港資料館が所蔵する建築関係資料から、横浜市開港記念会館（国重要文化財）の建築図面調査をおこない、デジタルアーカイブでの公開に向けて目録データの作成を進めた。
近代横浜の戦争史研究（３／４年次）	・2025 年開催予定の戦後 80 年記念企画展示に向け、開港資料館が所蔵する今井清一文庫をはじめとする戦時資料の調査を行った。 ・市内の戦争体験者への聞き取り調査を行い、証言記録をビデオで撮影した。
横浜開港資料館のアーカイブ機能に関する研究（１／２年次）	・デジタルアーカイブにて館蔵資料の目録（約 19 万 9500 点）および画像（約 8800 点）を公開した。 ・古文書・図書・雑誌・新聞などの目録データを作成、公開した。 ・館蔵資料の保存・整理状況を体系的に把握し、効率的なアーカイブ機能の構築方法について検討した。 ・神奈川県博物館協会 第 2 回研修会（人文科学部会、会場：横浜開港資料館）にて「横浜開港資料館デジタルアーカイブの現状と課題」と題して整理・公開方法について報告した。 ・商標（生糸・茶）の目録データの作成を進めた。
幕末期対外関係史の研究（２／２年次）	・前年度に調査をおこなった外国奉行・神奈川奉行に関わる歴史資料を分析し、ふたつの組織の実態と活動内容を明らかにした。成果は2024年度特別展「外国奉行と神奈川奉行」、同展関連図書『外国奉行と神奈川奉行』、吉﨑雅規「外国奉行と神奈川奉行――その史料と研究」（前書籍）で報告した。 ・調査研究にあたっては、東京大学史料編纂所2024年度一般共同研究「幕末

	外交研究の高度化と関連史料の資源化および展示公開」に参加し、同所・国立歴史民俗博物館の研究者と連携して研究を進めた。
幕末～明治初期古写真の研究 （２／２年次）	・当館所蔵の木村芥舟関係資料に含まれる幕末明治期に撮影されたガラス板写真・鶏卵紙写真の高精細撮影と内容分析を東京大学史料編纂所画像史料解析センターと連携して実施し、成果を『木村喜毅関係古写真資料の調査と研究』として報告した。 ・館蔵のチャールズ・ウィードとフェリーチェ・ベアトの古写真について調査研究を進めた。
横浜近代欧米関係史 （３／３年次）	・ブルーム・コレクション内のペリー来航関係資料の調査を実施し、その成果は「ペリー横浜来航 170 年　特別公開 横浜とペリー提督とのつながり―「横浜上陸図」ほか関連資料展示」で示した。 ・商館時計とそれを取り扱った外国商社に関係する資料の調査研究を進めた。 ・根岸競馬場関係資料の調査研究を進めた。 ・ブルーム・コレクションの資料チェックを行い、資料状態の現状を維持するべく、薄葉紙で保護し、保存箱を導入した。

（２）財団諸施設との連携研究事業

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	横浜市史資料室所蔵戦時・戦後資料についての研究会を3回開催し、元市史資料室の羽田博昭氏のレクチャーを受けた。同時に2025年開催の戦後80年特別展の検討をメンバーと行った。 ＊都市発展記念館・市史資料室・埋蔵文化財センターとの連携研究事業
都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業	各時代（幕末期・明治期・昭和戦前期）に横浜中心部に存在した施設のリストアップ、関連画像の選定、施設の解説をおこない、歴史復原地図のWeb公開の準備を整えた。 ＊市史資料室・神奈川県立歴史博物館との連携事業

（３）外部研究者との共同研究

項　　目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜幕末維新史研究会	幕末維新期横浜の政治・外交・経済・社会等について、他機関所属の研究者とともに、原資料（古文書等）をもとに総合的な調査・研究をおこない、講座・展覧会などで成果を報告する。（３／４年次）	・外部の研究者とともに実施してきた幕末期横浜に関する調査研究成果を『幕末の開港都市・横浜』（論文集）にまとめ、5月に戎光祥出版より刊行した。 ・論集の内容をもとに、「ペリー横浜来航170周年記念シンポジウム　幕末の横浜を語る！　交差する海防と開港」を開催した（12/15）。

		・幕末維新期の横浜に関わる研究報告会を実施した。 5/15 田口由香（長崎大学） 「イギリスから見た幕末維新期の天皇・将軍・大名」 11/17 清水詩織（早稲田大学教育・総合科学学術院） 「開国と海防　―拙著『近世後期の海防と社会変容』の成果と課題―」 ・幕末期横浜の社会情勢・対外関係に関する館蔵史料の調査・撮影を実施した。
中山恒三郎研究会	都筑区川和・中山恒三郎家文書の活用に関する基礎的研究を、外部研究者と共同で実施する。 （２／３年次）	前年度に引き続き、文書の整理作業を実施し、第一期整理文書資料目録を作成した。また、2025（令和7）年3月7日に研究会を実施し、資料目録の共有、今後の事業展開等について検討を行った。

３　常設展事業（定款第４条第１項第１号②）

常設展示室の適切な維持管理をおこなうとともに、今年度はペリー横浜来航170周年をテーマとしたミニ展示を連続して開催しました。また旧館・中庭を活用したイベントを開催し、集客を図りました。毎月第二水曜日を「濱ともデー」として、市内在住65歳以上の来館者を入館無料としました。

（１）常設展示室観覧者の推移（基本観覧想定数 37,000 人）

	有料入館者(人)					無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	一般	小中	市内 65	閲覧室	計					
６年度	24,016	4,564	1,898	598	31,076	8,658	39,734	115.0%	307	129
５年度	19,609	3,439	1,869	759	25,676	8,866	34,542	105.5%	308	112
４年度	17,937	3,621	2,140	726	24,424	8,292	32,716	154.8%	307	107

＊上記の数字は、企画展を開催していない期間の常設展観覧者数と、企画展開催期間中の入館者数を加算したもの（建物の構造上、企画展開催中は常設展のみの見学を設定していないため）。

（２）常設展示室でのミニ展示

常設展示室内で、新収蔵資料や新発見資料を紹介するミニ展示を開催した。今年度はペリー横浜来航170 年をテーマとしたミニ展示（118 回～121 回）を連続して開催した。

項　　目	内容・成果
ミニ展示	第 118 回　2/16～5/16「ペリー横浜来航 170 周年記念ミニ展示・パート 1 描かれたペリー艦隊」 第 119 回　5/17～8/15「ペリー横浜来航 170 周年記念ミニ展示・パート 2

	ペリーから伝わったモノたち」 第 120 回　8/16～11/21「ペリー横浜来航 170 周年記念ミニ展示・パート 3 黒船接近！絵図にみる幕末の海防体制」 第 121 回　11/22～2025.2/20「ペリー横浜来航 170 周年記念ミニ展示・パート 4　ペリー艦隊の測量とモーリー大尉の日記」

（３）旧館の活用

文化財施設の活用のため、旧館（旧英国総領事館）1 階の記念ホールや記念室を公開する。

旧館来場者数：61,758 人（年間）

項　　目	内容・成果
開港（開館）記念日に関する事業	開港（開館）記念日の 6 月 2 日を無料開館した。来館者 919 人。 ※今年度は旧館整備中のため記念室は公開せず。
「PORTER’S LODGE でくつろぐアフタヌーンティー」 R6.11.16(土)・17(日)	ユーラシア文化館が実施したクラウドファンディング「横浜にペリー提督像を作りたい！ただしスタチュー（人間彫刻）で！」のリターン商品として、市指定文化財である旧門衛所（ミュージアムショップ＆カフェ「PORTER’S LODGE」）内でのアフタヌーンティーを提供した。
まちかどスタンプラリー「たまくすの木みーつけた！」 R6.11.26（火）～11.30（土）	株式会社ありあけとのコラボ企画として、「たまくすの木」およびありあけの関係スポット 3 か所を巡るスタンプラリーを実施した。3 か所のスタンプを集めると、当館のミュージアムショップ＆カフェ「PORTER’S LODGE」でありあけのムーンガレットをプレゼント。
ハイカラ袴での撮影体験 R6.12.7（土）	「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備のためのクラウドファンディングのリターン商品として、ハイカラ袴を着ての旧英国総領事館内でのプロカメラマンによる撮影体験を実施した。
レクチャーツアーの実施 R6.12.13（金）	近隣企業での企画に役立てもらうことを想定し、広報担当者を対象としたレクチャーツアーを実施した。 協力：横浜マリンタワー 参加社：横浜マリンタワー、横浜 DeNA ベイスターズ、株式会社ありあけ、アットヨコハマ
デジタルスタンプラリーへの参加	近隣のイベントで開催されるデジタルスタンプラリーに参加し、旧館ホールおよび「Porter’s Lodge」店内をラリーポイントとして活用した。 ・ザよこはまパレード　デジタルスタンプラリー ・ハマフェス Y165 デジタルスタンプラリー ・関内いいとこどり　異日常さんぽ　デジタルスタンプラリー ※DeNA 主催ボールパークファンタジア関連イベント ・横浜春節祭　デジタルクーポン

商業撮影の対応	旧館（旧イギリス総領事館）を利用しての商業撮影（結婚式の前撮り等）に対応した。

（４）中庭の活用

横浜市地域史跡である「たまくすの木」を中心に、ハイネ画《ペリー横浜上陸図》の陶板プレート、獅子頭共用栓・ブラフ溝・ガス灯（模型）などの都市インフラ資料、開港から昭和戦前期にいたる横浜の歴史を子ども向けに紹介した展示パネルなどで、敷地内を散策する人に横浜の歴史をわかりやすく紹介した。

中庭来場者数：92,802 人（年間）

（５）「たまくすの木」の維持管理

「たまくすの木」の樹勢を維持し、長寿命化を図るため、今年度も引き続き一般社団法人日本樹木医会神奈川県支部（一般社団法人かながわ樹木医会）にて土壌内のがれき類の除去、土壌改良、剪定及び外観点検等を実施し、次年度に向けた「たまくすの木」の維持管理計画の策定を行った。

また今年度は「たまくすの木」周囲のバリアフリーデッキを整備するため、クラウドファンディングを実施して費用を募り、同会と連携してウッドデッキの整備を進めた。

レクチャーツアー

「たまくすの木」周囲のバリアフリーデッキ整備

４　企画普及事業（定款第４条第１項第１号②）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料に関する研究成果を、企画展示等を通して公開しました。今年度は、日米和親条約締結 170 周年記念の特別展「外国奉行と神奈川奉行」を開催し、あわせて講座講演会・まち歩きなどの関連事業を実施しました。またペリー横浜来航 170 周年でもあることから、「ペリー提督・横浜上陸図」の特別公開や記念シンポジウムを開催しました。また地域企業との連携をこれまで以上に強化し、コラボ企画の実施や地域の大規模イベントへの参加も積極的におこないました。

（１）企画展の実施

事業名称	料金	参加者数	事業内容

特別展「外国奉行と神奈川奉行」 R6.9.21(土)～11.24（日） 開催日数52日	一般 500円 小・中 250円	7,955人	安政元年（1854）に締結された日米和親条約によって、日本は欧米諸国と恒常的に「外交」をおこなう必要に迫られ、幕府は安政５年（1858）外国奉行（外国方）を創設した。一方、開港された横浜には神奈川奉行が置かれ、外国貿易の管理と横浜周辺の行政を担当することになった。 外国奉行と神奈川奉行の研究・展示は、関連資料の乏しさもあってこれまでほとんどおこなわれてこなかった。本展では新出資料を含む多くの歴史資料を展観し、このふたつの組織の実態を探るとともに、近代の日本外交のルーツを探った。

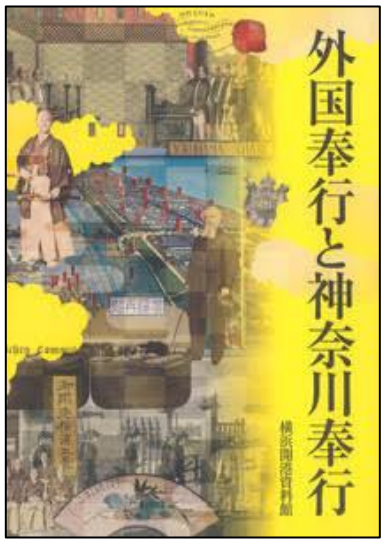
（２）企画展関連事業の開催

事業名称	参加者数	事　業　内　容
展示解説	56名/37名	展示担当者による展示内容の解説（全２回）。
展示関連トークライブ「幕末の外交官を深掘りする！」 R6.10/9（水）	41名	会場：横浜開港資料館講堂 講師： 小野将氏（東京大学史料編纂所准教授） 「幕末外交文書の紹介」 福岡万里子氏（国立歴史民俗博物館准教授） 「ハリスから見た幕府外国方」 各40分程度の講演のあと、講師と展示担当者が幕末の幕府外交官について壇上でトークをおこなった。
展示関連講座	33名/37名	10/20（日）「外国奉行―幕末の「外務省」」 11/16（土）「神奈川奉行―開港都市を治める」 講師：展示担当（吉﨑雅規）
町歩き「神奈川奉行所ゆかりの地を歩く」 R6.11/13（水）	18名	展示担当者のほか、当館の調査研究員、歴博の学芸員がガイド役となり、神奈川奉行所に関係する史跡（関内・野毛・戸部）をめぐった（歴博との連携事業）。
横浜シティガイド協会との共催ガイドツアー（ミニ講座つき）	23名/20名	当館講堂でのミニ講座ののち、横浜シティガイド協会によるガイドツアーを実施（全２回）。 ・10/2（水）外国奉行展ゆかりの地 ・11/8（金）神奈川奉行展ゆかりの地

（３）関連出版物の作成・編集

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事　業　内　容

展示関連図書『外国奉行と神奈川奉行』	1000 部	2,500 円（税込）	A4 判、190 頁。横浜開港資料館編。約 250 枚の資料画像を収載したほか、専門研究者による論考や各種資料も付した。 会期中売上：579 冊



展示関連出版物『外国奉行と神奈川奉行』

トークライブ「幕末の外交官を深掘りする！」

（４）資料の特別公開の実施

事業名称	料金	参加者数	事業内容
ペリー横浜来航 170 年特別公開「横浜とペリー提督とのつながり」 R6.7.13(土)～9.1（日） 開催日数45日	一般 400円 小・中 200円	4,966人	2024 年はペリー提督が横浜に上陸し、日米和親条約締結から 170 年の節目の年となる。当館所蔵のハイネ原画「ペリー提督・横浜上陸図」（石版画）の原物を展示することで、ペリー提督の横浜来航が日本史の転換点であり、現在の横浜へと発展する出発点となったことを伝えた。 【関連事業】 ・メディア向け内覧会　7/12（金） ・展示担当による展示解説（全 5 回） 7 月 20 日（土）33 名、27 日（土）37 名、 8 月 10 日（土）27 名、17 日（土）16 名、 8 月 24 日（土）18 名

「ペリー提督・横浜上陸図」原資料展示

展示解説（7/20）の様子

（4）ペリー横浜来航 170 年記念シンポジウムの開催

事業名称	参加者数	事　業　内　容
幕末の横浜を語る！ 交差する海防と開港 R6.12.15（日）	53 名	ペリー提督が横浜に来航・上陸し、日米和親条約が締結されてから 170 年を迎えるにあたり、当館講堂にて記念シンポジウムを開催し、横浜幕末維新史研究会が刊行した『幕末の開港都市・横浜』の内容に基づき、最新の研究成果を紹介した。 趣旨説明　吉崎 雅規（横浜開港資料館主任調査研究員） 第１部　特別講演 「ペリー来航とその後の日本」 西川 武臣（横浜開港資料館館長） 第２部　研究報告 「横浜開港前夜 武州金沢藩の海防」 小林 紀子（横浜市歴史博物館主任学芸員） 「山下居留地の形成過程」 中尾 俊介（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻助教） 「外国人からみた開港地問題と横浜居留地」 白井 拓朗（横浜開港資料館調査研究員） 第３部　討論　司会：神谷 大介（横浜開港資料館調査研究員）

論集『幕末の開港都市・横浜』

シンポジウム会場風景

討論

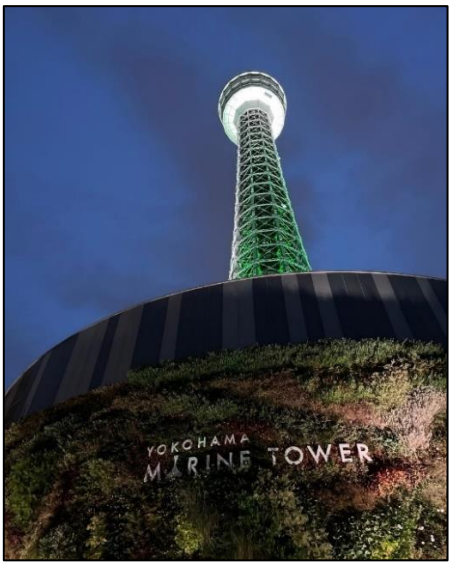
（５）地域・市民・学術団体との協働事業の実施

項　　目	事　業　内　容　等
「たまくすの木」周辺整備に向けたクラウドファンディングのリターン企画・商品の提供	「たまくすの木」周囲に設置するバリアフリーデッキの整備費を募るクラウドファンディングの実施にあたって、地域の企業から協賛およびリターン企画・商品の協力を受けた。 ・横浜マリンタワー CF スタート記念ライトアップ（5/19） ・株式会社ありあけ CF 期間中の「たまくす基金」の実施 ・株式会社三陽物産 ウッドデッキに設置するテーブルセットの寄附 ・その他提供企業 株式会社 AQUA、横浜マリン FM、崎陽軒、ホテルニューグランド、横浜エクセレンス、重慶飯店、霧笛楼、タカラダ、キャラバンコーヒー、タカナシ乳業、横浜ビール、HARE-TABI SAUNA & INN、横濱ハイカラきもの館、大川印刷
横浜郷土史団体連絡協議会との協働	横浜の郷土史に関心の深い市民団体相互の交流促進及び当財団と各団体との協働事業を推進することを目的に設立した横浜郷土史団体連絡協議会（令和 6 年度末現在、加盟 40 団体）との事業協働。事務局を歴史博物館と共同で担当。 ①総会・大会　R6.4.27(土)　於横浜市歴史博物館 講堂 会員団体紹介 記念講演会：「小倉藩医がみたペリーの横浜上陸―「横浜日記」を読む」（71 名） 講師：小林紀子（横浜市歴史博物館主任学芸員） ②役員会（12 回）実施 ③研修会（第 63 回～65 回）実施

	R6.7.23 第 63 回研修会「横浜とペリー提督関係の展示解説と見学」(69 名) 講師：白井　拓朗　(横浜開港資料館調査研究員)・仲泉剛(横浜市歴史博物館学芸員) 会場：横浜開港資料館 講堂 R6.10.29 第 64 回研修会「宝林寺展」展示見所解説（18 名） 講師：吉井 大門（横浜市歴史博物館学芸員） 会場：横浜市歴史博物館 R6.11.8 第 65 回研修会「外国奉行と神奈川奉行」展示見所解説＆見学（37 名） 講師：吉崎 雅規（横浜開港資料館主任調査研究員） 会場；横浜開港資料館 ④特別講演会・特別講座 R6.8.23 特別講演会「ペリー来航と横浜―戦争することなく結ばれた条約と庶民の対応」(125 名) 講師：西川 武臣（横浜開港資料館・横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館 館長） 会場：横浜市歴史博物館講堂 R7.3.21 特別講座「横浜の近代建築・近代遺跡と都市整備」(53 名) 講師：青木 祐介（横浜開港資料館・横浜都市発展記念館副館長） 会場：横浜市歴史博物館 講堂 ⑤会報 18 号刊行。 ⑥会報 19 号の編集。 ⑦横浜郷土史団体連絡協議会 News69 号～72 号発行。
ハマフェスY165への参加 R6.5.27（土）28（日）	地域の事業者（馬車道商店街、関内まちづくり振興会、山下公園通り会、横浜中華街発展会・元町 SS 会）と地元マスコミが主催して開催されるイベントに、山下公園通り会として都市発展記念館・ユーラシア文化館と共同で参加。横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム in ハマフェスを開催したほか、両日とも無料開館した。
「かながわMIRAIストリート」への参加 R6.5.27（土）28（日）	ハマフェス Y165 と同日に開催される「かながわ MIRAI ストリート」(TVK 主催）に参加し、日本大通りにブースを出展した。

神奈川県博物館協会の研修会の開催 R6.7.12（金）	当館講堂を会場として、神奈川県博物館協会の第2回研修会「デジタルアーカイブズの運用と課題」を開催した。また当館からも、事例発表として、運用を開始したデジタルアーカイブの現状と課題について報告した。
「ベトナムフェスタ in神奈川2024」への参加 R6.9.7（土）～9.8（日）	日本大通り・象の鼻パークで開催される「ベトナムフェスタ in 神奈川 2024」にあわせて、8月からのベトナム月間に参加し、ポーターズロッジでベトナムビールの販売をおこなったほか、フェスタ当日には敷地内に出店した。
「ピンクリボンライトアップ2024 in かながわ」への参加 R6.10.1（火）～10.6（日）	神奈川県・ピンクリボンかながわ等が主催する「ピンクリボンライトアップ 2024 in かながわ」に参加し、期間中、旧館（旧イギリス総領事館）のライトアップをおこなった。
「ワールドフェスタ・ヨコハマ2024」への参加 R6.10.12（土）～10.13（日）	「ワールドフェスタ・ヨコハマ 2024」に参加し、山下公園通りの歩行者天国にテントを出店した。山下公園の歴史や開催中のユーラシア文化館企画展「思い出のチマ・チョゴリ」を PR するパネルを掲示したほか、展示図録の物販をおこなった。
「日本大通りSDGsウィンターイルミネーション2024」への参加 R6.11.22（金）～12.25（水）	日本大通りエリアマネジメント協議会が実施する「日本大通り SDGs ウィンターイルミネーション 2024」に参加し、加盟会員として協賛金を支出した。
関東大震災パノラマ写真の彩色復元プロジェクトの共同実施	NHK エデュケーショナルとの共同作業として、関東大震災の被災状況をパノラマで撮影したガラス乾板（西野写真館撮影、開港資料館所蔵）の高精細デジタルデータをもとに、彩色復元（8K カラー）による写真分析を行った。
横浜市認定歴史的建造物「中山恒三郎家」の公開事業 R6.10.27（日）	中山恒三郎家（都筑区川和町）の敷地内に残る書院・店蔵などの歴史的建造物を公開したほか、諸味蔵では民俗資料と整理作業の様子を公開した。参加者：556人 ※横浜都市発展記念館、横浜市歴史博物館との連携事業 主催：（有）中山松林甫 後援：横浜市都市整備局・横浜市都筑区役所 協力：川和町内会・川和連合町内会・川和小学校ふれあい郷土館・都筑をガイドする会
研修・視察等の受け入れ	・神奈川近代文学館職員研修の受け入れ（4/5） ・ヨルダン国ペトラ市の視察対応（6/5） ・香港大学の視察対応（11/15）
講座・講演会への講師派遣	・関内まちづくり振興会の総会基調講演（5/23）

横浜商工会議所等の機関誌への原稿執筆	横浜商工会議所機関誌「Yokohama 商工季報」、横浜港振興協会機関誌「よこはま港」等への寄稿。



マリンタワーによる PR ライトアップ

ワールドフェスタ・ヨコハマ 2024

（６）行政との連携事業

項　　目	事　業　内　容　等
歴史的建造物整備に関する有識者懇談会への職員派遣	横浜市みどり環境局が進める「(仮称) 旧上瀬谷通信施設公園における歴史的建造物（旧太田家住宅）整備」において、有識者懇談会に当館副館長を派遣した。 令和6年4月12日(金)、6月19日(水)、9月18日(水)
	横浜市市民局が設置した「横浜市開港記念会館保存活用計画検討懇談会」の委員として、当館副館長を派遣した。 令和6年10月1日（火)、令和7年2月4日（火）
「広報よこはま」への執筆協力	・中区版の連載記事「なか区・歴史の散歩道」を都市発展記念館と共同で執筆。「ペリー来航 170 年　ペリー艦隊遠征の陰の功労者―測量とモーリー大尉の日記―」「横浜応接所探訪」等のテーマで連載した。 ・保土ケ谷区版の連載記事「保土ケ谷区のあゆみ」を歴史博物館、埋蔵文化財センターと共同で執筆。4 月号に「生麦事件と保土ヶ谷宿」12 月号に「錦絵から見た保土ヶ谷宿―文久 3 年（1863）の将軍上洛―」を掲載した。
横浜市広報誌・広報番組への協力	横浜市広報番組 TVK「ハマナビ」、FM ヨコハマ「YOKOHAMA My Choice!」等への出演。

（７）学校連携

項　　目	事　業　内　容
アーカイブズ実習の受け入れ R6.9.11（水）13（金）27（金）	昭和女子大学が主宰するアーカイブズ実習を受け入れた。
神奈川県高等学校文化連盟との共催事業 令和6年11月10日（日）	神奈川県高等学校文化連盟との共催で、神奈川県高等学校総合文化祭・第30回神奈川県高等学校社会科研究大会を開催し、審査員として財団職員を派遣した。 会場：横浜市歴史博物館講堂

（８）広報

項　　目	事　業　内　容
クラウドファンディング「横浜開港の歴史「たまくすの木」に憩うバリアフリーデッキを作りたい！」の実施	文化観光拠点計画事業の進展にともない、「たまくすの木」周辺の整備資金獲得のため、地域循環型でのクラウドファンディングを実施した。多くの地域企業からリターン企画や商品で協力を得たうえ、目標を上回る支援金を獲得した。 期　間：2024年5月21日～7月19日 プラットフォーム：READYFOR　支援者数：227名　支援総額：6,699,000円　達成率：133%
みなとみらい線1日乗車券の発行	横浜高速鉄道との広報連携事業として実施。特別展「外国奉行と神奈川奉行」の開催にあわせて、「ペリー提督・横浜上陸図」を券面に使用したオリジナルデザインの一日乗車券を限定販売した。
館報「開港のひろば」	館報「開港のひろば」第157号、158号を発行
リーフレット類作成	日本語版施設案内の発行 PORTER′S LODGE案内改訂版の発行
その他広報	①　横浜観光情報、インターネットミュージアム等の情報サイトへの情報掲出 ②　当館ＨＰやメールニュース、SNSによる催し物等の情報発信 ③　みなとみらい線各駅へのポスター掲示 ④　市内公共施設、博物館、図書館、観光施設、ホテル、駅観光案内所等への広報印刷物の配布 ⑤　新聞、タウン情報誌等への情報発信、記事掲載 ⑥　ＴＶ、ラジオ、新聞、ＣＡＴＶ等のメディアからの取材対応 ⑦　市広報誌への記事掲載依頼 ⑧　みなとみらい線一日乗車券の作製（特別展広報） ⑨　美術雑誌への広告掲載（特別展広報）

５　情報事業（定款第４条第１項第１号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために

データの入力等を行い文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項　　目	事　業　内　容
インターネットによる情報公開	ホームページを通じて、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料の紹介を随時行った。館報「開港のひろば」は、発行に合わせて、テキスト情報を持った（文字検索や読みあげが可能な）PDF 画面で掲載した。今年度は新規コンテンツとして、文化観光拠点計画事業として制作を進めてきた「こい旅横浜～山下町編～」を公開した。また公式 YouTube チャンネルでは、施設紹介動画 1 本および文化観光拠点計画事業で製作したデジタルアーカイブ活用紹介動画 1 本を公開した。 ・ＨＰアクセス件数　合計 135,514 件 XやYouTubeなどのオンラインツールを通じて、展示や館蔵資料に関する情報を定期的に発信した。 【X】 ・ツイート数　499　　・エンゲージメント率　4.2% ・リツイート 4,986　　・いいね数 18,650 ・ツイートインプレッション　949,528 【YouTube】 ・再生回数 83,799　　・総再生時間数 6559 ・チャンネル登録者数 441　　・公開動画本数 3
メールニュースの配信	「横浜開港資料館メールニュース」第 224 号～第 236 号(号外含計 17 回)をのべ 27,088 名の登録者に配信した。

６　旧館活性化事業（定款第４条第１項第１号②）

開港資料館の旧館（旧英国総領事館）および付属棟（旧門番所）の建物を、関内エリアのあらたな観光拠点として幅広く活用していくための再整備事業「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」（後掲）と連動して、旧館（旧イギリス総領事館、市指定文化財）の改修工事を進めました。外観復元工事およびバリアフリー連絡通路の設置工事を実施したほか、県庁東庁舎側についても植栽計画をまとめました。また市地域史跡「たまくすの木」については、一般社団法人日本樹木医会神奈川県支部による土壌改良工事等を実施したほか、クラウドファンディングで集まった支援金をもとに、バリアフリーデッキの整備を進めました。

（１）施設整備

項　　目	内容・成果
旧館（旧イギリス総領事館）の改修工事	文化観光拠点計画にもとづき、旧館（旧イギリス総領事館）の改修工事を実施した。外観復元工事では、塗装調査によって判明したかつての建具の彩色を復原（青色から緑色へ）したほか、新館と旧館をつなぐバリアフリー連絡通路の付け替え工事を実施した。また次年度実施予定の内装工事について、実施設計

	を進めた。
外構の植栽計画	敷地南側（県庁東庁舎側）外構部分の植栽整備について、市のみどりアップ事業にもとづき、市担当部局（教育委員会、みどり環境局）との協議をもとに、植栽計画をまとめた。
地域史跡「たまくすの木」の維持管理	「たまくすの木」の中長期的な維持管理を目的として協定を締結した（一社）日本樹木医会神奈川県支部（かながわ樹木医会）に委託して、土壌改良および剪定作業を行った。
「たまくすの木」周辺のバリアフリーデッキ整備	クラウドファンディング（広報事業で記載）で集まった支援金をもとに、「たまくすの木」の周囲に神奈川県産のヒノキを使用したバリアフリーデッキの整備を行った。

（２）旧館・中庭を活用したイベントの実施【再掲】

項　　目	内容・成果
「PORTER’S LODGE でくつろぐアフタヌーンティー」 R6.11.16(土)・17(日)	ユーラシア文化館が実施したクラウドファンディング「横浜にペリー提督像を作りたい！ただしスタチュー（人間彫刻）で！」のリターン商品として、市指定文化財である旧門衛所（ミュージアムショップ＆カフェ「PORTER’S LODGE」）内でのアフタヌーンティーを提供した。
まちかどスタンプラリー「たまくすの木みーつけた！」 R6.11.26（火）～11.30（土）	株式会社ありあけとのコラボ企画として、「たまくすの木」およびありあけの関係スポット３か所を巡るスタンプラリーを実施した。3か所のスタンプを集めると、当館のミュージアムショップ＆カフェ「PORTER’S LODGE」でありあけのムーンガレットをプレゼント。
ハイカラ袴での撮影体験 R6.12.7（土）	「たまくすの木」バリアフリーデッキ整備のためのクラウドファンディングのリターン商品として、ハイカラ袴を着ての旧英国総領事館内でのプロカメラマンによる撮影体験を実施した。
レクチャーツアーの実施 R6.12.13（金）	近隣企業での企画に役立てもらうことを想定し、広報担当者を対象としたレクチャーツアーを実施した。 協力：横浜マリンタワー 参加社：横浜マリンタワー、横浜DeNAベイスターズ、株式会社ありあけ、アットヨコハマ

７　開港資料館施設維持事業（定款第４条第１項第１号③）

施設の維持・管理を行いました。今年度も空調、給水設備において、経年劣化が主因となる突発的な故障・不具合が発生しており、安定的・継続的な施設運営に支障をきたしている状況です。こうした課

題を克服する上でも、これまでの事後保全の考え方から、計画的な予防保全へシフトし、また直ぐに更新・取替できない設備については、メーカー、点検業者からのアドバイスを受けるなど、引き続き、安定的・継続的な施設運営の確保を図っていきます。

管理対象施設	事業内容・所在地など
開港資料館	資料の保管・管理、資料館の施設維持・管理。 主な不具合：新館・旧館の空調システムの経年劣化。**キュービクル、高圧受電盤の経年劣化。**主な修繕：放送設備、加圧給水ポンプ部品交換、旧館２階空調機ドレン配管漏水修理、排水マス陥没復旧工事、東側タイル隆起に伴う復旧工事。

８　開港資料館収益事業（定款第４条第１項第２号）

（１）　ミュージアムショップの経営

旧門番所（市指定文化財）の建物を活用して、ミュージアムショップ・カフェ・コンシェルジュの機能を兼ね備えた店舗「PORTER’S LODGE」を運営しました。令和６年度は、第１回ミュージアムグッズデザインコンテストでミュージアムスイーツ部門大賞を受賞した「たまくすの木 ロイヤルミルクティーのミルフィーユ」を商品化して、発売を開始したほか、タレント・企業とコラボした「横浜浮世絵クライネトレー3 種セット」などオリジナル商品の新規開発・販売をおこないました。

①　委託業者との連絡調整
②　新店舗コンセプトに合わせた商品の選定・仕入
③　『横浜もののはじめ考』ほか売れ筋商品の増刷
④　「横浜浮世絵クライネトレー3 種セット」などオリジナル商品の新規開発
⑤　ミュージアムグッズ・デザインコンテスト受賞作品の「たまくすの木ミルフィーユ」発売
⑥　特別展「外国奉行と神奈川奉行」期間中、関連書籍コーナーの設置
⑦　期間限定セールなどキャンペーンの実施
⑧　オンラインショップの運営

ミュージアムショップ＆カフェ「PORTER’S LODGE」

（２）自動販売機（１台）の設置

施設利用者の利便を図るため、新館脇に自動販売機を設置している。

＜各事業の推移＞ （千円）

項　　目	令和６年度	令和５年度	令和４年度
ミュージアムショップ売上	１０，７８１	６，４５４	３，２８２
自動販売機手数料収入	９５	１０２	９７

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	質量ともに充実した商館時計コレクションが寄贈されたほか、デジタルアーカイブ事業では、着実に拡充を進めて、資料公開点数が約 20 万点に達した。	S
調査研究事業	各調査研究・連携研究とも予定通りに進捗した。外部研究者との連携研究（幕末維新史研究会）では、成果として民間出版社から論集を発行し、記念シンポジウムを開催した。	A
常設展事業	年間を通じてペリー横浜上陸 170 周年記念のミニ展示を開催して、ペリー関連の館蔵資料を公開し、入館者増（前年度比 108%）につなげた。また地域企業と連携して、旧館の建物を活用したイベントを積極的に開催した。	A
企画普及事業	特別展「外国奉行と神奈川奉行」を開催し、講座講演会・まち歩きなどの関連事業とあわせて多くの来場者を得た。またペリー横浜来航 170 年の事業でも、「ペリー提督・横浜上陸図」の特別公開や記念シンポジウムを開催した。今年度は地域企業との連携をこれまで以上に強化し、コラボ企画の実施や地域の大規模イベントへの参加も積極的におこなった。	S
情報事業	積極的な SNS での情報発信に加えて、今年度は HP での新規コンテンツとして「こい旅横浜～山下町編～」を公開した。またデジタルアーカイブの利用促進のための広報番組を制作し、公式 YouTube で公開した。	A
旧館活性化事業	文化観光拠点計画と連動した旧館（市指定文化財）の改修工事を進め、外観復元工事およびバ	S

	リアフリー連絡通路の設置工事を実施した。また地域企業の協力を得てクラウドファンディングを実施し（達成率 133%）、「たまくすの木」周囲のバリアフリーデッキの整備を進めた。	
施設維持事業	経年劣化が原因とされる設備の故障・不具合が発生しており、資料の保管・管理および来館者への影響が極力発生しないよう、市の所管課と協議のうえで対応に努めた。	A
収益事業	ミュージアムショップ＆カフェ「PORTER'S LODGE」での新規商品化事業で成果を挙げ、ショップの販売収入は前年度から大きく伸びて 167%増となり、1 千万円を超えた。	S

９　拠点計画推進事業

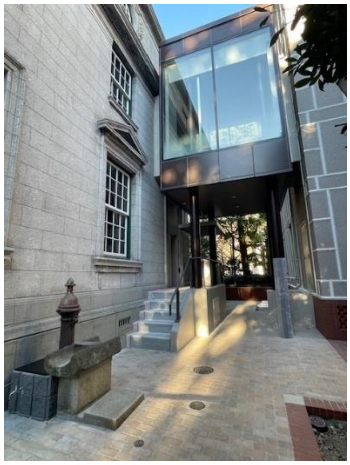
令和３年度に文化庁より認定を受けた「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」に基づき、４年目の今年度は、下記７項目の事業についての取り組みを進めました。

項　　目	内容・成果
「横浜開港」資料のデジタルアーカイブ整備公開推進事業	文化観光での活用を前提としたデジタルアーカイブのシステムを構築し、写真・絵葉書・絵地図・浮世絵・古文書・図書・雑誌・新聞など 199,507 点の資料情報を公開した。あわせてデジタルアーカイブに登載可能な高精細のデジタル撮影を実施し、商標 722 点、古写真 2300 点、その他石板画等 26 点の画像を得た。またデジタルアーカイブの広報動画を作成して、資料の利用促進に向けた PR を行った。
旧英国総領事館レクチャーツアー事業	横浜マリンタワーの協力を得て、近隣企業の広報担当者を対象に、各企業での企画に役立てもらうことを想定したレクチャーツアーを実施した。
多言語アプリケーションの整備事業	「伝統的観光地エリア内ガイドツアー事業」と連携して、昨年度に山下公園通り会の協力を得て制作した、第二弾「こい旅横浜－山下町－」を公開した。
「横浜開港」資料の商品化事業	『横浜もののはじめ考』ほか売れ筋商品の増刷、「横浜浮世絵クライネトレー3 種セット」などタレントコラボによるオリジナル商品の新規開発、ミュージアムグッズ・デザインコンテスト大賞受賞作品の「たまくすの木ミルフィーユ」発売等をおこなった。

「食べて楽しむ・買って楽しむ」施設機能拡充事業	特別展「外国奉行と神奈川奉行」期間中、関連書籍コーナーの設置、期間限定の書籍セールやオンラインショップの送料無料キャンペーン等を実施した。また、近隣イベントに合わせて実施される各種のデジタルスタンプラリーへのスポット参加（（３）旧館の活用参照）や、クーポンでの割引販売等にも積極的に進めた。
「横浜開港」プロモーション戦略事業	地域ラジオ局であるマリン FM（中区）との協働で、財団の諸事業を中心に横浜の歴史に関するタイムリーな話題を紹介する番組「横濱 歴史のタイムマシーン」（毎週金曜日 19：30～20：00）を、制作・放送した。
旧英国総領事館等再整備事業	令和 5 年度に第 1 期工事を完了した、新館旧館をつなぐバリアフリー連絡通路に続いて、第 2 期工事が竣工した。旧館 1 F に上がるための車いすの昇降機の設置、周辺の外構部分の整備もあわせて完了した。

デジタルアーカイブ広報動画

「たまくすの木」ミルフィーユ



連絡通路の付け替え

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
拠点計画推進事業	デジタルアーカイブ事業では、公開以来着実に拡充を進めて、公開点数は 20 万点近くに達した。市指定文化財である旧館の整備工事では、外観復元工事と連絡通路付け替え工事を着実に進めた。ミュージアムショップ＆カフェ「PORTER’S LODGE」では、昨年度のコンテスト大賞作品の商品化や、タレント・企業とコラボした新商品の開発など、商品化事業で大きな成果を挙げた。	S

4　都市発展記念館事業

令和 6 年度は、空調設備更新工事による長期休館を経て、7 月 20 日から再開館しました。再開館にあわせて、1 階ギャラリーと旧第一玄関、常設展示室を会場として、パネル展「能登半島と横浜―銭湯がつなぐ人びとの交流―」を開催し、これまでの外部研究者との連携研究事業（京浜移住者研究会）の成果を広く発表しました。

企画展事業では、企画展「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”～」を実施しました。開港後、横浜が都市として成長していくなかで整備・開削された“河川運河”は、横浜の経済を支える動脈でした。企画展では、横浜の市街地を流れる“河川運河”の形成、成長、衰退から復活に至る景観の変化と、そこで生きた人びとの歴史を紹介しました。展示では、京浜間の運河の輸送で活躍した艀の模型や、艀で生活していた児童の作文集などを出陳し、観覧者数・事業収入とも見込みを上回る結果となりました。

資料収集保管事業では、上記企画展に関連して河川運河の関係資料を中心に収集したほか、令和 7 年の戦後 80 年に向けた館蔵資料のデジタル化も進めました。また館蔵の戦後写真コレクションを紹介する「戦後横浜写真アーカイブズ」を立ち上げ、3 人のカメラマン（五十嵐英壽・奥村泰弘・常盤とよ子）の代表作を公開しました。

調査研究事業では、各テーマにもとづく基礎的調査研究を着実に進めました。また令和 6 年元旦の能登半島地震を受けて、現地に残る横浜の銭湯経営者による寄進物の被災調査を実施したほか、次年度開催の戦後 80 年特別展にむけた研究会の開催や、軍事関連遺跡・モニュメント（記念碑等）の調査を実施しました。

普及事業では、休館中の 5 月に地域事業者によるイベント「ハマフェス Y165」に参加したほか、展示と連動した能登半島文化財復興支援の講演会や横浜市役所でのアウトリーチ展などを開催しました。また地域での文化財活用として、今年度も開港資料館・歴史博物館と連携して「中山恒三郎家」（都筑区）の公開事業を実施しました。

学校連携事業については、再開館にあわせて、エデュケーターと連携して小学校団体の吉田新田学習の受け入れを再開しました。

1　資料収集保管事業（定款第４条第１項第１号①）

横浜の都市形成、生活文化の歴史に関する資料を、寄贈・寄託、購入等により収集し、分類・整理するとともに、資料を良好な状態で保管するため、定期的な環境調査を行いました。また絵葉書・地図・写真などの画像資料を、ホームページ上で公開しました。今年度は新規に「戦後横浜写真アーカイブズ」を公開しました。

（１）資料収集

項　　目	点　　数	事　業　内　容
資料の寄贈・寄託	寄贈0件 寄託0件	
資料の購入	5件 12点	主な資料：『オフネノコドモタチ』、『だるま船』、横浜市防空関係資料

資料修繕	0件	主な資料：なし
資料の複製収集	1件 3点	主な資料：東京都教職員センター所蔵マイクロフィルム「中央区立月島第二小学校所蔵東京水上小学校資料」よりデジタルデータ作成
資料のデジタル化	4件 7点	主な資料：「少年少女譚海第18巻第13号付録　支那事変資源地図」、「少女倶楽部新年号付録　皇軍萬歳双六」
複製資料の提供	43件 112点	他の博物館や公共機関、出版社、個人などへ当館所蔵資料のデジタルデータ（画像および映像）を提供した。
資料の特別利用	1件 79点	調査研究目的による、当館所蔵資料の原資料での特別利用に対応した。
資料の貸出	1件 28点	横浜美術館の「おかえり、ヨコハマ」展に常盤とよ子・奥村泰宏撮影写真を貸し出した。

（２）資料収集実績（R6.4～R7.3）

区　　分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
遺物	－ (－)	－ (－)	－ (1)	－ (－)	－ (1)	1,682 (1,682)
図書	1 (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	1 (－)	2,425 (2,424)
新聞雑誌	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	2,180 (2,180)
文書	11 (－)	－ (－)	－ (214)	－ (－)	11 (214)	4,721 (4,710)
紙票類	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	5,683 (5,683)
写真	－ (2)	－ (－)	－ (68)	－ (－)	－ (70)	25,817 (25,817)
絵葉書	－ (－)	－ (－)	－ (29)	－ (－)	－ (29)	2,554 (2,554)
地図	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	740 (740)
図面	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	951 (951)
絵画	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	2 (2)
映像	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	66 (66)
録音資料	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	171 (171)
電子資料	－ (－)	3 (－)	－ (－)	－ (－)	3 (－)	15 (12)
合　　計	12 (2)	3 (－)	－ (312)	－ (－)	15 (314)	47,007 (46,992)

※（　）内は、前年度点数。

（３）資料の保存・管理

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果

保存燻蒸処理	外部倉庫での未燻蒸資料の燻蒸。今年度は実施なし。前年度に燻蒸処理を済ませた資料を、横浜市歴史博物館から当館収蔵庫に戻した。
環境調査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるための環境調査をユーラシア文化館と共同で実施した。

（４）資料保管施設

保管施設	保　管　資　料
都市発展記念館・ユーラシア文化館収蔵庫（200㎡）	図書、文書、紙票類、地図、図面、出土遺物などを収蔵
外部倉庫（子安台）	大型資料（昭和初期の置時計・大テーブル他）などを収蔵
外部倉庫（大黒ふ頭）	大型資料、映像フィルム、未整理資料などを収蔵

（５）館蔵資料の公開

ホームページ上の「横浜絵葉書データベース」「横浜地図データベース」で、館蔵資料から絵葉書資料および地図資料のデジタルデータを公開するほか、「映像でたどる戦後の横浜」で戦後のニュース映像を公開。**今年度は、館蔵の戦後写真コレクションを紹介する「戦後横浜写真アーカイブズ」が完成し、3人のカメラマン（五十嵐英壽・奥村泰弘・常盤とよ子）の代表作である写真159点を公開した。**

映像でたどる戦後の横浜

戦後横浜写真アーカイブズ

２　調査研究事業（定款第４条第１項第１号①）

「都市形成」「市民のくらし」「ヨコハマ文化」の３つのテーマに即して、資料調査・研究を行いました。また財団諸施設や外部研究者との連携研究事業を進めました。

（１）基礎的調査研究

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
震災復興と「大横浜」の形成に関する調査研究 （２／２年次）	関東大震災前後から第 2 次世界大戦に至る時期の横浜の都市形成史を政治社会史の視点から明らかにする。本年度は関東大震災関連資料の調査・発掘を行ったほか、2027年の中区政100年等にむけて「大横浜」関連の調査を実施した。特に昭和戦前期の横浜を記録した写真家・前川謙三に関する予備調査を福井市において行った。
横浜近郊農村の都市化に関する調査研究 （２／４年次）	高度経済成長期までを視野に入れつつ、横浜近郊農村の都市化の過程を政治社会史の視点から明らかにする。都筑区川和町の中山恒三郎家資料の整理・調査を進めると同時に、東横線沿線の地域（旧橘樹郡の村々）について基礎的な調査を進めた。特に綱島の池谷家を中心に、綱島温泉関係の史料調査を実施した。
京浜工業地帯の形成史に関する調査研究 （３／４年次）	京浜工業地帯の形成とその後の展開について、政治・経済・文化の視点から多角的に明らかにする。2027（令和 9）年の神奈川区・鶴見区の区制 100 年を見据え、京浜工業地帯に関する資料の基礎調査、巡検調査を進めた。京浜運河をはじめとする河川運河や貨物鉄道に関する調査を行い、企画展「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”」を開催した。
横浜の近代遺跡に関する調査研究 （３／４年次）	市域での近代建築の遺構および出土遺物の調査を通じて、近代遺跡の視点から横浜の特性を明らかにする。市域での出土遺物のうち、地蔵王廟（中区）保管煉瓦の記録化作業を進めた。
横浜地図データベースの構築 （３／３年次）	過年度の開港資料館・市史資料室との連携事業の成果をもとに、横浜とその周辺の地図について調査と分析を進める。今年度は、港湾・河川・運河に関する地図資料の確認・分析を進め、企画展「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”」に反映させた。
昭和期「ヨコハマ」の観光とイメージに関する調査研究 （３／４年次）	昭和期を中心に⑴横浜の都市観光およびその宣伝、⑵都市イメージの形成に関する資料の収集・整理・分析を進め、その特質を考察する。今年度は、戦後の横浜市制作広報映画「ヨコハマ・ポートサイド」のデジタル公開に向けたフィルムの選定作業を進めた。

（２）財団諸施設との連携研究事業

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	・横浜市史資料室所蔵戦時・戦後資料についての研究会を3回開催し、元市史資料室の羽田博昭氏のレクチャーを受けた。同時に2025年度開催の戦後80年特別展の検討をメンバーと行った。 ・2025年度開催の戦後80年特別展にむけて軍事関連遺跡やモニュメント（記念碑等）の調査を行った。 ＊都市発展記念館・市史資料室・埋蔵文化財センターとの連携研究事業

（３）外部研究者との連携研究事業

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
中山恒三郎研究会 （２／３年次）	前年度に引き続き、文書の整理作業を実施し、第一期整理文書資料目録を作成した。また、2025（令和7）年3月7日に研究会を実施し、資料目録の共有、今後の事業展開等について検討を行った。
建築家中村順平に関する基礎的研究 （２／２年次）	横浜高等工業学校建築科（現・横浜国立大学都市科学部建築学科）の主任教授を務め、独自の建築教育で多くの建築家たちを育てた建築家中村順平に関する資料の収集・整理を、外部研究者と連携して実施する。横浜国立大学図書館での資料調査を実施したほか、建築科100周年に向けた記念連携事業および中村の郷里である東大阪市での資料調査について、大阪歴史博物館等と検討をおこなった。
中能登町教育員会との共同調査	令和6年能登半島地震の発生を受けて、能登半島に現存する銭湯経営者寄進物の被害状況の共同調査を行った。成果は、パネル展「能登半島と横浜」で公表した。

３　常設展事業（定款第４条第１項第１号②）

今年度は空調設備更新工事が完了し、2024年７月から2025年３月までの期間で、常設展示室の維持管理を行いました。再開館後は、1階ギャラリーおよび旧第一玄関を活用したパネル展「能登半島と横浜―銭湯がつなぐ人びとの交流―」と連動してコーナー展示を開催したほか、企画展示「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”～」では、常設展示室の一部を企画展示室として活用し、常設展示室との回遊性を高めました。毎月第二水曜日は「濱ともデー」として、市内在住65歳以上の来館者を入館無料としました。

（１）常設展示に関する実施事業

項　　目	事　業　内　容
展示資料の更新	・「ヨコハマ風景今昔」コーナーの天井部モニター撤去 ・導入部の映像プロジェクターについて、機器更新の検討
コーナー展の開催	1 階ギャラリーおよび旧第一玄関を活用した下記パネル展と連動したコーナー展の開催。 ・パネル展「能登半島と横浜―銭湯がつなぐ人びとの交流―」 令和 6 年 7 月 20 日 ～9 月 29 日 ・パネル展「続・能登半島と横浜―銭湯経営者の系譜―」 令和 7 年 2 月 22 日～4 月 13 日

	・ミニ展示「カメラマンがとらえた昭和30年代の銭湯―広瀬始親写真の世界―」 令和6年10月1日 ～令和7年1月13日 横浜開港資料館所蔵の広瀬始親撮影写真から、藤棚の県営住宅にみる昭和30年代の銭湯の様子を紹介した。
	・ミニ展示「お風呂屋さんの戦中日記」 令和7年2月22日 ～7月6日 能登半島出身の銭湯経営者の日記から、横須賀市船越町で「白川温泉」を営んだ小林桝太郎の日常を紹介した。
	・ミニ展示「広瀬写真に見る1950年代の河川運河」 令和7年3月26日（水）～4月13日（日） 戦後復興から高度経済成長期へと横浜の経済・社会が大きく動いていく1950年代の横浜の河川運河の様子を、横浜開港資料館所蔵の広瀬始親氏撮影写真から紹介した。
学校向け展示	・「関外と伊勢佐木町の発展～吉田新田その後～」 学校教員や小学校団体向けに、吉田新田エリアの近代以降の発展に関するパネル展示を常設。

（２）常設展示観覧者の推移（想定観覧数17,500人）

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	一般	小中	計					
Ｒ６年度	1,929	824	2,753	10,818	13,571	343.7%	212	64
Ｒ５年度	600	105	705	3,243	3,948	17.3%	50	79
Ｒ４年度	1,250	696	1,946	20,804	22,750	141.8%	279日	82

４　企画普及事業（定款第４条第１項第１号②）

今年度は、横浜の都市形成のなかで整備された“河川運河”について、通時的に概観する企画展「運河で生きる」を開催したほか、1階ギャラリーおよび旧第一玄関を活用して、銭湯を通じて能登半島と横浜とのつながりを紹介するパネル展「能登半島と横浜」等を開催しました。企画展に関連して、横浜市庁舎でのアウトリーチ展や神奈川大学非文字資料研究センターとの連携展示を開催し、積極的にSNSを活用した資料紹介や広報を展開しました。また昨年度は工事による休館で休止していた小学校団体の学習受け入れを、再開しました。

（１）企画展の実施

展示名／開催期間	観覧料	入館者数	目的・内容
企画展「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運	一般 800円	5,771人 （年度内	横浜が都市として成長していくなかで整備・開削された“河川運河”は、横浜の経済を支える動脈だった。

河”～」令和 7 年 1 月 18 日(土)～4 月 13 日（日） 開催日数74日 （年度内日数：62日）	市内 65 歳以上・小中学生 400円	4,413人） うち有料 3,207人 （年度内 2,175人）	企画展では、横浜の市街地を流れる“河川運河”の形成、成長、衰退から復活に至る景観の変化と、そこで生きた人びとの歴史を紹介した。 **【主な関連事業】** **(1)展示関連出版物** 『運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”～』（公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団、2025 年） 企画展示に合わせて刊行。巻末に史料編として「東京・横浜に通った水上学校児童の作文」を掲載した。 A4 判 76 頁、定価：2,000 円（税込）、売上：360 冊 **(2)展示解説（全 8 回）** 1 月 25 日（金）参加者 23 人、2 月 1 日（土）15 人、2 月 15 日（日）28 人、3 月 1 日（土）37 人、3 月 15 日（土）（午前・午後 2 回開催）99 人、4 月 12 日（土）101 人、4 月 13 日（日）114 人 合計 417 人 **(3)連続講座（全 4 回）** 2 月 2 日（日）37 人、2 月 16 日（日）31 人、3 月 2 日（日）41 人、3 月 16 日（日）26 人 合計 135 人 **(4)区民デー（全 4 回）** 運河にゆかりのある西区、磯子区、中区、南区在住の市民の企画展観覧料を無料にした。 2 月 26 日（西区デー）46 人、3 月 5 日（磯子区デー）7 人、3 月 19 日（中区デー）45 人、3 月 26 日（南区デー）33 人 合計 131 人 **(5)ボートでゆく運河散策** 帷子川水系と横浜港河口部をボートで散策した。 3 月 8 日（土）、参加者 28 人 **(6)その他** ・横浜高速鉄道との広報連携で、みなとみらい線限定 1 日乗車券を制作した。 ・SNS を利用して河川運河の歴史に関する情報を発信した。 ・予告動画を作成して事前の周知につとめた。
次年度企画展準備			次年度の戦後 80 年特別展「「横浜と戦争の記憶（仮）」

			に向けて準備を実施した。

（２）企画展示室観覧者の推移　（人）

	有料入館者	無料入館者	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者
Ｒ６年度	2,175	2,238	4,413	―	62	71
Ｒ５年度	0	0	0	0	0	0
Ｒ４年度	7,667	4,573	12,240	542.8%	161	76

（３）普及啓発事業・集客イベント

事業名称	参加者数	事　業　内　容
パネル展「能登半島と横浜―銭湯がつなぐ人びとの交流―」 令和6年7月20日 ～9月29日		横浜から能登半島は遠く離れた場所にあるが、横浜市内で銭湯を営む人びとの中には能登半島にルーツを持つ人が多く、深いつながりがある。本展示では、令和6年元旦に発生した能登半島地震での文化財被害の調査成果もまじえて、写真資料を中心に銭湯を通じた能登半島と横浜のつながりを紹介した。 会場：1階ギャラリー、旧第一玄関、常設展示室
パネル展「続・能登半島と横浜―銭湯経営者の系譜―」 令和7年2月22日～4月13日		パネル展「能登半島と横浜―」では、能登と横浜の双方に残る銭湯経営者の痕跡を紹介したが、見学者や現在の銭湯経営者の方々からさまざまな新しい情報が寄せられた。本展示では、追加調査で明らかになった銭湯経営者の系譜を中心に、改めて能登と横浜とのつながりを紹介した。 会場：1階ギャラリー、旧第一玄関、常設展示室
アウトリーチ展示「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”～ in 横浜市役所　開港～戦後占領期の大岡川河口部」 令和7年3月26日（水）～ 4月1日（火）		現在横浜市役所が建つ大岡川下流域の景観の変化を、企画展「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”」の展示資料からパネルで紹介した。 会場：横浜市役所1階アトリウム展示スペースB
「非文字資料から見る横浜の河川運河」 ①令和7年2月12日（水）～22日（土）、② 2025年3月3日（月）～4月12日（土）		横浜の関内・関外地区を流れる運河の役割や景観の変化について、神奈川大学非文字資料研究センターが所蔵する地図資料や写真資料から紹介した。横浜都市発展記念館との連動企画として開催。 会場：①神奈川大学みなとみらいキャンパス1階展示エリア、②神奈川大学横浜キャンパス3号館1階

能登半島文化財復興支援講演会「能登半島と京浜地域の銭湯経営者―石造物に刻まれた人びと―」 令和6年9月21日（土）	28人	パネル展「能登半島と横浜―銭湯がつなぐ人びとの交流―」の関連事業として、能登半島の文化財復興を支援する講演会を開催した。参加費の半額を能登半島の文化財復興支援のための寄附金とした。 会場：横浜開港資料館　講堂
第４回横浜ユーラシア・スタチューミュージアム 令和6年11月16日(土)・17日(日)		２年ぶりに開催。16 日は 7 組のパフォーマーを日本大通りに加えてみなとみらい会場と中華街会場に設置した。17 日は、日本大通り沿いの 8 カ所に 12 組を設置した。昨年度ユーラシア文化館が実施したクラウドファンディングで制作したペリー提督像のお披露目も行った。 ※ユーラシア文化館・開港資料館との共催
開館祭 令和7年3月15日（土）	441人	当館とユーラシア文化館の開館記念日にあたる 3 月 15 日（土）に開館祭を開催した。当日は無料開館し、衣装試着体験や建物ツアーなどを実施した。 ※ユーラシア文化館との共催

企画展「運河で生きる」展示解説

企画展関連続講座

（４）地域・行政・学術団体との連携事業

項　　目	事　業　内　容
ハマフェスY165への参加 令和6年5月25日（土）・26日（日）	地域の事業者（馬車道商店街、関内まちづくり振興会、山下公園通り会、横浜中華街発展会・元町 SS 会）と地元マスコミが主催して開催されるイベントに、山下公園通り会として開港資料館・ユーラシア文化館と共同で参加。横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム in ハマフェスを開催した。

関東大震災パノラマ写真の彩色復元プロジェクトの共同実施	NHKエデュケーショナルとの共同作業として、関東大震災の被災状況をパノラマで撮影したガラス乾板（西野写真館撮影、開港資料館所蔵）の高精細デジタルデータをもとに、彩色復元（8Kカラー）による写真分析を行った。
神奈川大学非文字資料研究センターとの連携展示	神奈川大学非文字資料研究センターと協力関係を締結し、横浜都市発展記念館で企画展「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”」、神奈川大学非文字資料研究センターで「非文字資料から見る横浜の運河」を開催した。
中能登町教育員会との共同調査	令和6年能登半島地震に関する銭湯経営者寄進物の被害状況の共同調査を行い、パネル展「能登半島と横浜」で成果を公表した。
首都圏形成史研究会 令和７年４月５日（土）	首都圏形成史研究会第132回例会で「河川運河がつないだ横浜の舟運網」を報告し、開催中の企画展「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”～」の見学会を実施した。
横浜市認定歴史的建造物「中山恒三郎家」の公開事業 令和６年 10 月 27 日（日）	中山恒三郎家（都筑区川和町）の敷地内に残る書院・店蔵などの歴史的建造物を公開したほか、諸味蔵では民俗資料と整理作業の様子を公開した。参加者：556人 ※横浜開港資料館、横浜市歴史博物館との連携事業 主催：（有）中山松林甫 後援：横浜市都市整備局・横浜市都筑区役所 協力：川和町内会・川和連合町内会・川和小学校ふれあい郷土館・都筑をガイドする会
歴史的建造物整備に関する有識者懇談会への職員派遣	横浜市みどり環境局が進める「（仮称）旧上瀬谷通信施設公園における歴史的建造物（旧太田家住宅）整備」において、有識者懇談会に当館副館長を派遣した。 令和6年4月12日（金）、6月19日（水）、9月18日（水）
	横浜市市民局が設置した「横浜市開港記念会館保存活用計画検討懇談会」の委員として、当館副館長を派遣した。 令和6年10月1日（火）、令和7年2月4日（火）
「広報よこはま」への執筆協力	・全市版の連載コラム「よこはま彩発見」2月号に「写真で見る都市横浜の河川運河」を掲載した。 ・中区版に連載記事「なか区・歴史の散歩道」を開港資料館と共同で執筆。「横浜の赤線地帯を撮影した写真家・常盤とよ子」「戦後社会事業に尽力した写真家、奥村泰宏」等のテーマで連載した。 ・保土ケ谷区版に連載記事「保土ケ谷区のあゆみ」を歴史博物館、開港資料館、埋蔵文化財センターと共同で執筆。8月号に「保土ケ谷の関東大震災 ―佐藤謙三の日記より―」を掲載した。

「中山恒三郎家」公開事業

（５）学校連携事業

項　　目	事　業　内　容
市内小学校団体見学の受入	小学校4年生で学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」（関外地区の発展）をテーマに、エデュケーターと職員による解説を実施。 参加人数：35校（92クラス、2,934人）
教員向け研修の実施	財団エデュケーターと連携して、小学校4年生向けの解説・体験メニュー「吉田新田の開発とその後」について、夏休みに小学校教員向けの研修を実施。 ※今年度は実施なし。
神奈川県高等学校文化連盟との共催事業 令和6年11月10日（日）	神奈川県高等学校文化連盟との共催で、神奈川県高等学校総合文化祭・第30回神奈川県高等学校社会科研究大会を開催し、審査員として財団職員を派遣した。 会場：横浜市歴史博物館講堂
学芸員実習の受け入れ	※今年度は実施なし。
学外見学の受け入れ	・青山学院大学（10月） 　企画展および施設見学

（６）広報

項　　目	事　業　内　容
印刷物作成	展示関連広報印刷物、館報の発行を行った。 ・合同特別展ポスター・チラシ ・館報『ハマ発Newsletter』第40号（10,000部）、第41号（10,000部）
優待カードの発行	今年度は休館につき、年間パス「ＥＡハマ発カード」の販売は一時休止した。 年会費　１，５００円
その他広報	横浜市・PRTimesを通じての記者発表 横浜市文化観光局の媒体を通じての広報活動

	市内学校・公共施設へのチラシ配布 みなとみらい線各駅へのポスター掲出 ホームページ・X（旧Twitter）・YouTubeチャンネルによるインターネットでの情報配信 テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入 新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入 市内観光案内所へのチラシ訪問配布 市外都市旅行代理店への施設説明 フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのＰＲ

５　情報事業（定款第４条第１項第１号②）

インターネット等を利用して、歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項　　目	事　業　内　容
ホームページ運営	新着情報の発信 企画展示案内の更新 館報『ハマ発Newsletter』の全文掲載 ミュージアムショップの案内（刊行物・グッズ） 「戦後横浜写真アーカイブズ」の新規公開
メールニュース配信	企画展の情報を中心に、関連イベントや月イチ講座、ショップの新商品などの内容を盛り込んだメールニュースを配信した。（不定期）
オンラインツールによる情報発信	X（旧Twitter）やYouTubeなどのオンラインツールを通じて、展示や館蔵資料に関する情報を定期的に発信した。 【X（旧Twitter）】 ・ツイート数 361　・エンゲージメント率 2.3% ・リツイート数 2,496　・いいね数 6,797 ・ツイートインプレッション 618,597 【YouTube】 ・企画展「運河で生きる～都市を支えた横浜の“河川運河”～」の予告動画を公開した。 ・再生回数 9,995　・総再生時間数 152.9　・チャンネル登録者 87 ・公開動画本数 7

６　都市発展記念館施設維持事業（定款第４条第１項第１号③）

都市発展記念館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容など
都市発展記念館	・３階展示室クロス貼り替え ・収蔵庫空調機ヒーター故障修理 ・地下機械室空調ダクト断熱材張り付け工事 ・雨漏り箇所現地調査（建築保全公社・市教委） ・１階多目的トイレ修理 ・地下通路カビ殺菌 ・空調機点検・ファン類精密点検 ・電気設備年次点検 ・消防設備点検（年２回） ・エレベータ点検 ・自動ドア点検 ・雑廃水槽清掃 ・日常設備点検 ・日常清掃・ガラス清掃・カーペット清掃 ・防虫防除 ・植栽管理 ・ガス燈点検

７　都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第４条第１項第２号）

（１）ミュージアムショップの経営

ミュージアムショップでは企画展に対応した商品の仕入れ、独自の魅力ある商品開発を行った。また図録等オンラインショップでの PR に努めた。今年度は、横浜 DeNA ベイスターズの日本一を記念して、優勝パレードにあわせて当館の展覧会図録『ベースボールシティ横浜』と『スポーツの祭典と横浜』の割引セールを実施した。

（２）自動販売機（１台）の設置

＜各事業の推移＞　（千円）

項　　目	令和６年度	令和５年度	令和４年度
ミュージアムショップ売上	４，１７９	１，４１５	７，１６９
自動販売機手数料収入	４２	２８	７９

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	今年度は「戦後横浜写真アーカイブズ」を新規に公	A

	開し、館蔵資料の核である戦後写真コレクションから、五十嵐英壽・奥村泰弘・常盤とよ子各氏の代表作を公開した。	
調査研究事業	各テーマの調査研究を順調に進めたほか、次年度の戦後 80 年に向けて開港・埋文と連携して研究会を開催し、展示内容等を検討した。また能登半島地震を受けて現地での文化財調査を実施し、その成果をパネル展に反映させた。	A
常設展事業	パネル展と連動したコーナー展やミニ展示の開催、また企画展の一部を常設展示室で展開するなど、積極的に常設展示室への誘客に努めた。1 日あたりの入館者数は前年度の 81%にとどまったが、年度末まで連続して 5 本の展示を開催して、これまで取り組んできた調査研究の公開につなげた。	B
企画普及事業	当館の特色を活かした企画展「運河で生きる」を開催し、関連事業とあわせて見込みを上回る成果を得た（入館者数 101%、有料入館者数 145%）。その他 1 階ギャラリーや旧第一玄関を活用したパネル展や関連講演会、館外でのアウトリーチ展、歴史的建造物公開事業などを着実に実施した。	S
情報事業	ホームページでは新規に「戦後横浜写真アーカイブズ」を公開して、「戦後の横浜」コーナーを充実させた。また X や YouTube を積極的に活用し、展示関連情報や調査研究成果の情報発信を行った。	A
施設維持事業	不具合が発生した箇所や、老朽化が進んだ設備の修理・対応について、着実に進めることができた。各種設備の点検についても適切に実施した。	A
収益事業	今年度は 7 月下旬からの店舗再開となり、企画展関連の出版物を中心に、オンラインショップも含めて PR に努めた。販売実績は休館前の 85%にとどまった。	C

5　ユーラシア文化館事業

ユーラシア文化館は、**「横浜で世界とつながる」をコンセプトに**、国際文化都市横浜の多文化共生社会の進展と、市民のユーラシア文化への理解促進に寄与するため、調査研究、展示、出版、講演会、イベントなどを実施しています。

４月から 7 月下旬までの全館空調設備更新工事にともなう休館期間を利用し、企画展示室及び

常設展示室の修繕を行いました。**企画展示は、横浜市・仁川市パートナー都市協定１５周年を記念し、外部資金を導入して、仁川広域市立博物館など国内外の機関・個人から資料提供を受け、韓国服飾関係の特別展「思い出のチマ・チョゴリ」を実施しました。**特別展にあわせて、講演会などを開催し、市民の方が親しみながらユーラシア文化の理解を深める活動を実施しました。

調査研究では、ユーラシア地域における東西文化交流や多文化共生都市としての横浜の歴史や文化に関わる調査研究を進め、その成果を再開館した常設展示に加えるとともに、紀要や広報誌などで発信しました。

４回目となる**「横浜ユーラシア　スタチュー・ミュージアム」**は、横浜の秋の風物詩として年々期待が高まっています。今年は日本開国・ペリー横浜上陸１７０周年となることから、クラウドファンディングで募った資金を活用し、**オリジナルスタチュー「ペリー提督像」を製作しました。**

令和６年度も様々な取組を通じて、街を舞台とする「街に出ていく博物館」として、地元諸団体や企業などと連携し、地域社会の文化創造に貢献しました。

１　資料収集保管事業（定款第４条第１項第１号①）

ユーラシアの考古・美術・民族・歴史資料および文献等を分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、収蔵庫や展示室を常に適切な状態に保つよう環境検査を行いました。

（１）資料収集・保存

項　　目	点　　数	事　業　内　容
資料の寄贈・寄託	寄贈0点 寄託0点	
資料の購入	0点	
資料熟覧	4件	研究者による調査研究に対応した。
文献資料熟覧	１件	研究者による調査研究に対応した。
資料の貸出	0件	
収蔵資料の画像利用	1件	千葉市科学館企画展への画像提供

（２）文献資料の整理

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
和図書・洋図書	書誌データの入力を行った。入力件数 1,142 件
洋雑誌	書誌データの入力を行った。17 件
和雑誌	書誌データの入力を行った。入力件数 515 件

（３）資料収集実績

区　　分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
考古・美術・民族・歴史資料	0 (0)	0 (0)	0 (156)	0 (0)	0 (156)	9,372 (9,372)
図書	2 (19)	0 (0)	22 (12)	0 (0)	24 (31)	22,701 (22,679)
雑誌	0	0	31	0	31	8,532

	(0)	(0)	(41)	(0)	(41)	(8,501)
電子資料	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (20)
合　　計	2 (19)	0 (0)	53 (209)	0 (0)	55 (228)	40,627 (40,572)
累計	973	2	39,470	182		

※（　）内は、前年度点数。

（４）資料の保管

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
保存燻蒸処理	2024 年度は実施せず。前年度に燻蒸処理を済ませた資料を、横浜市歴史博物館から横浜ユーラシア文化館収蔵庫に戻した。
環境検査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年６回の環境検査を実施した。

（５）資料保管施設

保管施設	保　管　資　料
都市発展記念館・ユーラシア文化館収蔵庫（200 ㎡）	考古・美術・民族・歴史・文献資料を収蔵。
外部倉庫（大黒ふ頭）	図書（江上文庫の重複本など）、販売用出版物などを収蔵

２　調査研究事業（定款第４条第１項第１号）

収集資料の整理、企画展や講演会の基礎的資料収集・調査研究を行い、十分な成果を上げ、企画展などで成果を公表しました。

（１）基礎的調査研究

項　　目	目的・意図　及び　内容・成果
ユーラシアにおける 工芸品の研究 （２／５年）	ウズベキスタンの博物館や遺跡で中世イスラーム時代のガラス器の調査と陶器工房での聞き取り調査を行った。
スタチュー芸と見世物の研究 （１／３年）	大道芸・サーカス研究の動向について、情報収集を行った。
ユーラシアにおける人形製品の研究（４／５）	日本列島・アフリカにおける人形土製品について、類例の収集と検討を行った。
ユーラシア概念をめぐる研究（４／５年）	個々の調査研究に即してユーラシア概念についての検討を行った。
北方ユーラシア文化 の研究（２／５年）	オホーツク文化の骨角器について資料調査と学会発表を行った。
横浜市内の外国系市民の歴史文化に関する研究（３／５年）	横浜在住のコリアン女性への服飾資料調査やインタビューなどを実施し、その成果を特別展「思い出のチマ・チョゴリ」やニュースターなどで公開した。

ユーラシアにおける古代・中世日本の研究（２／５）	昨年のシンポジウム「東アジアの帯金具と古代の日本」を通じて知遇を得た研究者と交流し、再来年度の企画展に向けた情報の収集をおこなった。
令和７年度以降開催予定の企画展調査	令和７年度以降の企画展に関し、基礎的な調査や資料所蔵先との交渉などを行った。

（２）研究紀要の発行

本年度は紀要の新刊発行はみあわせたが、これまでのバックナンバーのPDF化と横浜ユーラシア文化館ホームページでの公開（2020年第8号以降）を実施した。

３　常設展事業（定款第４条第１項第１号②）

再開館にあたり、常設展示室に新たな資料や解説パネルを追加し、来館者へのサービスの向上を図りました。さらにトルコ細密画展に合わせての展示入れ替えをおこない、新年の企画として干支展示を実施しました。

（１）常設展示室での実施事業

項　　目	事　業　内　容
展示更新	**・横浜華僑の婚礼衣装を展示し、横浜に関わる要素を加えた。** **・展示室入り口の世界地図パネルに常設展示品の出土地を表示した。** **・トルコ細密展にあわせて、所蔵するトルコ関係絵画を展示した。** ・干支コレクションアワード（ネット投票）に参加し、新年の干支「ヘビ」に関する資料「蛇の骨のネックレス」などを紹介した。

（２）常設展示観覧者の推移（目標数 19,000 人）

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	小中	計					
Ｒ６年度	1,278	418	1,696	10,911	12,607	233.9%	212 日	59.5
Ｒ５年度	2,076	76	2,152	3,236	5,388	56.6%	50 日	107.7
Ｒ４年度	3,011	561	3,572	20,708	24,280	155.3%	277 日	87.7

左：入り口地図パネル、中央：トルコ風景画（小間嘉幸氏作品）、右：横浜華僑の婚礼衣装

4　企画普及事業（定款第４条第１項第１号②）

今年度は、国内外の様々な団体・個人と協働し、2本の企画展を実施するとともに、各種の普及活動を実施しました。また活動の様子をSNSで積極的に配信しました。

（１）企画展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	入館者数	目的・意図　及び　内容・成果
トルコ現代細密画展 R6.7.20（土）～8.4（日）	300円	1,024人	日本とトルコ共和国の外交関係樹立百周年を記念して、トルコの現代細密画の展示を駐日トルコ大使館・トルコ伝統芸術協会と共に開催した。トルコ各地の都市を描いた細密画 41 点を展示するとともに、細密画の画材なども展示した。
横浜市・仁川広域市パートナー都市提携 15 周年記念「思い出のチマ・チョゴリ」 R6.10.4（土）～ R7.1.5（日）	800円	4,900人	朝鮮半島の女性の伝統衣装であるチマ・チョゴリの歴史と文化、また横浜と仁川で暮らす市民の思い出のチマ・チョゴリについて、着用した人びとのライフストーリーとともに紹介した。
企画展基礎調査			来年度開催予定企画展の基礎調査を行った。

トルコ現代細密画展テープカット

思い出のチマ・チョゴリ展ギャラリートーク

（２）企画展示室観覧者の推移　　（人）

	有料入館者	無料入館者	合計	前年比	開館日数	1 日平均入館者
Ｒ６年度	3,240	2,684	5,924	―	89	66
Ｒ５年度	0	0	0	0	0	0
Ｒ４年度	2,964	4,592	7,556	65.4	70	108

（３）講座・講演会

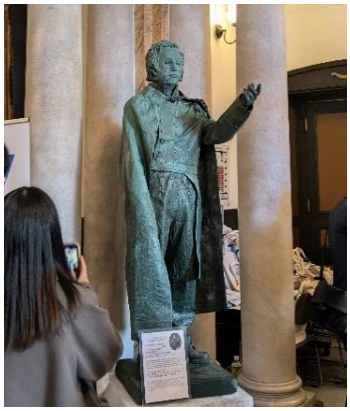
項　　目	参加者数	内　　容
細密画ワークショップ	19人	7 月 21 日（日）トルコのマルマラ大学美術学部のシェフナズ・ビチェル准教授の指導による細密画ワークショップを開催した。
「思い出のチマ・チョゴリ」記念講演会の実施 R6.12.21（土）	103人	韓服研究家の張裕幸氏による講演会「チマ・チョゴリの世界～歴史装束から現代婚礼衣装まで」を開催し、韓服の歴史への理解を深めた。

左：トルコ現代細密画展ワークショップ　中央：チマ・チョゴリ展関連講演会　右：韓服衣装体験

（４）普及啓発

項　　目	参加者数	事　業　内　容
「なか区ブックフェスタ」への参加 R6.10.1～11.30		「思い出のチマ・チョゴリ」展にあわせて「韓国の伝統衣装を知ろう！」を開催、韓服関係資料コーナーを設けた。
チマ・チョゴリ衣装体験の実施。全16回	573 人	「思い出のチマ・チョゴリ」展にあわせて、日本大韓民国婦人会、駐横浜大韓民国神奈川教育院および協力をえて、衣装体験を実施し、大変好評を博した。
ワールドフェスタに参加 R6.10.12		山下公園一帯で開催されたワールドフェスタに参加し、館の活動や企画展の宣伝につとめた。
私が撮ったスタチュー・ミュージアム2023 R6.11.7～11.20		過去に開催されたスタチュー関連イベントの写真を一般公募した。日本大通り 10 カ所・中華街 1 カ所の計 11 カ所の会場で、21 点の作品を 11 月 7 日～20 日にわたって展示した。
第４回横浜ユーラシア・スタチューミュージアム R5.11.16(土)・17(日)		11 月 16 日・17 日に２年ぶりに開催した。16 日は 7 組のパフォーマーを日本大通りに加えてみなとみらい会場と中華街会場に設置した。17 日は、日本大通り沿いの 8 カ所に 12 組を設置した。ペリー提督像の一般公開も行った。今年は Live @横浜に参加した。
ペリー提督像の製作とお	68人	ペリー横浜上陸１７０周年にあわせて、ペリー提督のスタチ

披露目会の実施。		ュー（人間彫刻）を制作した。昨年度実施したクラウドファンディングによるものである。 　10 月 18 日に支援者とメディアを対象としたお披露目会を実施し、11 月 16・17 日に第４回横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムで一般公開した。また、クラウドファンディングのリターンとして、11 月 23 日に開港 5 都市会議の開催された横浜市開港記念会館にも設置した。
開館祭		無料開館や衣装体験などを実施した。



左：スタチュー・ミュージアム　中央：開港５都市会議の会場に設置　右：開港資料館とワールド・フェスタに参加（運河パークにて）

（５）学校連携事業

項　　目	事　業　内　容
市内学校団体見学の受入	・横浜都市発展記念館とともに、吉田新田学習プログラムを実施した。 　受入れ実績　35校　92クラス　2,934人 ・国語学習（「スーホの白い馬」）の充実を図るために、市内外の小学校にモンゴル体験キット（モンゴル民族衣装、馬頭琴）を用意した。
教員向け研修の実施	休館中につき休止
学芸員実習の受け入れ	11月14日（木）～11月20日（水）のうち休館日を除く6日間、6名の実習生を受け入れた。

（６）市民協働事業

項　　目	事　業　内　容
市民ボランティアによるワークショップの実施	開館祭および韓服衣装体験で着付けの補助として実施。

（７）広報

項　　目	事　業　内　容
印刷物作成	館報『横浜ユーラシア文化館ニュース*News From EurAsia*』第40号を刊行した。
優待カードの発行	年間パス「ＥＡハマ発カード」の販売を休止した。 年会費　1,500円
その他広報	・横浜市・PRTimesを通じての記者発表。 ・市内学校・公共施設へのチラシ配布。 ・みなとみらい線各駅へのポスター掲出。 ・ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信。 ・テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入。 ・新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入。 ・市内観光案内所へのチラシ訪問配布。 ・市外都市旅行代理店への施設説明。 ・フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのＰＲ。 ・近隣へのダイレクトメール発送。

５　情報事業（定款第４条第１項第１号②）

インターネット等を利用して、調査研究・展示・出版・講演会・ミュージアムショップなどに関する情報を提供するために、データの更新等を行い、情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項　　目	事　業　内　容
簡易検索端末・文献検索端末	資料：常設展示室における主な展示資料を検索できる端末の設置を継続した。
	文献：館蔵文献の OPAC 公開を継続・拡充した。
メールニュースの配信	希望者に対するメールニュースの配信を行った。
インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物・休館や再開館についての広報や、収蔵資料・図書文献資料等の紹介を行った。 　アクセス件数　合計 158,130 件（前年度の 151 %）
SNSによる情報発信	X（旧 Twitter）はツィート数 65、フォロワー2,330 人、インプレッション 133,507。大道芸用アカウントはツイート数 22、フォロワー 463 人、インプレッション計 160,123。YouTube は新規動画を上げていないが、登録者は 268 人、過去動画 70 本が閲覧可能。Facebook はフォロアー130 人で随時更新中である。

６　ユーラシア文化館施設維持事業（定款第４条第１項第１号③）

ユーラシア文化館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
ユーラシア文化館	・３階展示室クロス貼り替え ・収蔵庫空調機ヒーター故障修理 ・地下機械室空調ダクト断熱材張り付け工事 ・雨漏り箇所現地調査（建築保全公社・市教委） ・１階多目的トイレ修理 ・地下通路カビ殺菌 ・空調機点検・ファン類精密点検 ・電気設備年次点検 ・消防設備点検（年２回） ・エレベータ点検 ・自動ドア点検 ・雑廃水槽清掃 ・日常設備点検 ・日常清掃・ガラス清掃・カーペット清掃 ・防虫防除 ・植栽管理

7　都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第４条第１項第２号）

（１）ミュージアムショップの経営

ミュージアムショップでは企画展に対応した商品の仕入れ、独自の魅力ある商品開発（企画展「思い出のチマチョゴリ」に関連して、オリジナル「はまチョゴリ」の製作・販売）を行った。また図録等オンラインショップでの PR に努めた。

（２）自動販売機（１台）の設置

＜各事業の推移：再掲＞　（千円）

項　　目	令和６年度	令和５年度	令和４年度
ミュージアムショップ売上	４，１７９	１，４１５	７，１６９
自動販売機手数料収入	４２	２８	７９

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料整理を着実に実施し、資料の熟覧や他館への貸出など外部利用者へのサービスにも対応した。	A

調査研究事業	計画していた調査研究については、概ね予定どおり進捗し、企画展等で成果を公表した。	A
常設展事業	７月２０日の再開館にあたり新たな資料や解説パネルを追加して展示の充実に努めた。	A
企画普及事業	オープニングイベントとして「トルコ現代細密画展」を開催し、１０月２０日から令和７年１月５日まで「思い出のチマ・チョゴリ展」を開催した。	A
情報事業	ＨＰを利用した情報発信に加えて、新聞等のマスコミを活用し、広報強化に努めた。また、Twitter や YouTube などインターネットを通じての情報発信も積極的に行った。	A
施設維持事業	不具合が発生した箇所や、老朽化が進んだ設備の修理・対応について、着実に進めることができた。各種設備の点検についても適切に実施した。	A
収益事業	7月下旬まで休館のため収益事業は振るわなかったが、オンラインショップのＰＲに努め、企画展図録などは HP の企画展ページや YouTube チャンネルと連動させて、より内容が伝わりやすいように工夫した。	B

６　三殿台考古館事業

資料収集保管事業・調査研究事業は、発掘調査後 60 余年を経過した三殿台遺跡の出土資料について、再確認・再整理や資料の修復作業、保管していた土壌の精査をおこない新たな資料の抽出作業を継続しました。また、フィルム・紙ベース等の記録資料については経年劣化による毀滅が危惧されており、保存および活用を図るためデジタル化を進めました。図書管理については、新規寄贈図書の台帳作成および管理ソフトによる収蔵図書のデータ化をおこないました。

常設展事業では、展示資料について理解が深まるよう新たにキャプションを追加しました。土日祝日の来館者に対して、遺跡や展示室の解説をガイドボランティアの協力を得て実施しました。また復元住居の入口部分を補修して雨水が屋内に浸入しないようにしました。住居跡保護棟内では専門の業者に亀裂の補修や蘚苔類等の防除を定期的に実施しました。

学校連携では小学校の学校見学を中心に対応しています。担任の先生方には下見の際に**一部の体験学習プログラムを習得し当日担当していただくなど、学校と協働して授業づくりをおこなっています。**隣接する岡村小学校では複数学年にわたって学習の支援をおこないました。また、中学校の職業体験や高等学校の見学も受け入れました。

企画普及事業は、弓矢うち大会や体験学習などのほか屋外で楽しめるイベントを開催して、当館の魅力をアピールしました。なお、当館では体験学習をはじめとするイベントは屋外で実施しているため、夏季の熱中症対策として、年間行事のうち盛夏の７・８月にはイベントを開催しないこと

を方針としています。

広報ではこれらのイベント情報を当館ホームページ・財団メルマガ・Ｘ・Instagram などの web 媒体や各種広報紙で広く市民に発信しました。

また賑わいの創出として、夏にはミストシャワーなどを配置し、秋には期間限定のどんぐり拾いに近隣保育園・幼稚園へ誘致の手紙を送り来館を促しました。冬季には高台という立地を生かした「夜景」の鑑賞会などを開催しました。春秋２回のダイヤモンド富士鑑賞会は毎回楽しみにしている方々もいらっしゃいます。

施設維持事業としては、西側外縁付近の樹木が巨木化し、隣接する民家への倒木が危惧されたため、優先的に剪定しました。日常管理では出勤スタッフによる施設内の清掃、草刈り、小規模な樹木剪定をはじめ建物屋根の補修、雨樋の清掃など、管理や点検・補修をおこない、老朽化する施設の安全管理に努めました。

１　資料収集保管事業・調査研究事業（定款第４条第１項第１号①）

保管資料について整理・分類・デジタル化等を行い、資料の保全を図りました。

（１）保管資料再整備事業

項　　目	事　業　内　容
出土品保管再整備事業	整理ボランティアの協力を得ながら、資料の洗浄や復元・実測等をすすめた。保管土壌の精査で微小巻貝や小骨片などの新たな資料を抽出した。
記録資料のデジタルデータ化事業	測量図面や写真フィルム等アナログデータのデジタル化を継続しておこなった。すでにスキャン済みのデータについて、該当する遺構の特定作業をすすめた。
図書資料の受入れと整理	寄贈された 249 冊の図書を整理分類し収蔵した。データ管理ソフトを変更するとともに過去データの確認作業をおこなった。

（２）調査研究事業

項　　目	事　業　内　容
三殿台遺跡の再評価	市民ボランティアの協力を得て、出土品の再整理作業（分類・接合・復元・実測）を行い、再評価のための基礎データを集積した。
三殿台考古館収蔵資料の活用	小学６年生の社会科見学に際して、三殿台遺跡発掘調査の映像資料（web）を事前学習に活用してもらうよう推奨した。また、土器片や石器等の収蔵物を手にとって観察できるようにし、小学生の歴史学習の補助として活用した。

２　常設展事業（定款第４条第１項第１号②）　令和６年度来館者数　11,425 人

遺跡・常設展示室・竪穴住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚の維持管理を行うとともに、団体及び一般来館者の見学時に、遺跡や展示品についての解説を丁寧に行いました。

（１）常設展示の維持管理と展示内容の充実

項　　目	事　業　内　容
遺跡案内・展示解説の実施	職員が団体及び一般来館者の見学時に、遺跡・住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚に及び展示資料について、1,848 人に案内・解説を行った。
解説ｷｬﾌﾟｼｮﾝの追加	展示品への理解が深まるよう、解説キャプションを追加した。
住居跡表示の補修	色分けされている住居跡表示擬木の一部が退色したため彩色した。

（２）住居跡保護棟の適切な保全

項　　目	事　業　内　容
住居跡保護棟のメンテナンス等	竪穴住居跡保護棟のメンテナンスを専門業者に委託した。（隔月実施）

３　企画普及・広報事業（定款第４条第１項第１号②）

市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるよう、体験学習や鑑賞会など多種のイベントを開催しました。またこれらを広く周知するため web 媒体を積極的に活用しました。

（１）企画普及事業

項　　目	参加人数	事　業　内　容
「いそっぴゴールデンウィーク 2024」スタンプラリーへの参加	64 人	４月21日から５月6日の期間で磯子区区民利用施設館長連宅会主催の「いそっぴゴールデンウィーク2024」スタンプラリーに参加した。
三殿台遺跡整理ボランティア	383 人	三殿台遺跡の再評価を目標にして活動している。弥生時代中期の遺構を中心に、土器片の分類・接合・復元・実測及び石器の実測作業を行った。 記録資料整理に際しては、写真資料整理・デジタル化作業を行った。
遺跡ガイドボランティア	延べ 107 人	土日祝日を中心に、ボランティア 6 人が来館者へ遺跡解説をおこない、延べ 1,730 人をガイドした。
講師派遣	計 30 人	地区センター等での勾玉作り体験学習に講師を派遣した。 8/1　上中里地区センター 8/6　大岡地区センター 8/17　睦コミュニケーションハウス
ホームページ等の運営		ホームページ・X（旧ツイッター）及び Instagram で催事・近況等を広報した。 ホームページに年間催事案内を常時掲載し、体験教室等のイベント情報を発信した。
その他広報		・広報よこはま磯子区版および区民活動支援センター発行の情報紙に体験教室等の情報を提供した。 ・横浜市のイベント情報に体験教室等の情報を提供した。

		・地域情報誌に広告を掲載した。 ・web 媒体にイベント情報を提供した。

（２）体験学習事業

項　　目	参加人数	事　業　内　容
体験学習の実施		・ゴールデンウィーク体験教室
	①8 人	①5/3（祝）　古代人体験教室
	②8 人	②5/4（祝）　勾玉作り体験教室
	③6 人	③5/5（祝）　石器作り体験教室
	5 人	・春の弓矢うち大会（5/18）
	9 人	・開港記念日イベント「火起こし体験」（6/2）
	22 人	・キャンプ in 三殿台（7/20・21）（6 家族）
	15 人	・秋の勾玉作り体験教室（9/7）
	6 人	・秋の弓矢うち大会（9/14）
	8 人	・土器作り体験教室（10/5）
	9 人	・土偶作り体験教室（10/6）
	10 人	・土器作り教室（10/12・13）
	6 人	・石器作り体験教室（10/19）
	25 人	・野焼き(11/23)
	9 人	・冬の弓矢うち大会（1/11）
	22 人	・勾玉作り体験を実施した。(4/12・8/15・12/7)

古代人体験教室（くるみ割り）

キャンプ in 三殿台

土器・土偶作り体験教室　野焼き

（３）グッズ製作・販売事業

項　　目	事　業　内　容
缶バッジの製作・販売	売上げ　90 個×@100　9,000 円
土器片ペンダントの製作・販売	売上げ　39 個×@550　21,450 円
ミニチュア土器の製作・販売	売上げ　4 個×@900　3,600 円

勾玉づくりキットの製作・販売 （青田石・滑石）	売上げ　57 個×@450　25,650 円（青田石） 売上げ　109 個×@350　38,150 円（滑石）
「三殿台遺跡北側貝塚調査」の販売	売上げ　12 冊×@1,000　12,000 円

（4）学校連携事業

項　　目	人　数	事　業　内　容
学校団体の受入れ	1,667 人	・学校６年生の社会科見学は、引率教諭との事前打合せを経て、三殿台遺跡の解説及び４種類の体験プログラムを組み入れ実施。16校1,197人が来館した。 ・根岸中学校(7人) ・県立横浜総合高校(13人)、県立磯子工業高校(21人) ・鶴見大学(8人)　ほか
クラブ活動・授業づくり支援	各回 20 人 65 人 25 人 各回 62 人 各回 21 人 70 人 8 人	・岡村小学校の地域交流クラブに講師２名を派遣し、勾玉作り・弓矢づくり等の指導を行った。（全８回） ・同１年生の生活の時間に対応した。 ・同３年生の総合学習に対応した。 ・同６年生の土器作り指導に職員２名及び外部講師を派遣した。（全３回） ・同支援学級の見学に対応した。（全３回） ・蒔田小学校３年の地形調べに対応した。 ・横浜国立大特別支援学級を受け入れた。
職業体験	11 人	・中学校４校（藤の木・汐見台・岡村・大道）の職業体験を受け入れた。

（5）施設連携事業

項　　目	事　業　内　容
歴博企画展	出土遺物を歴博企画展「君も今日から考古学者！」に貸し出した。

（6）その他利用促進事業

項　　目	参加人数	事　業　内　容
弓矢うち体験	3,232 人	弓矢うちの無料体験を実施した（通年）。
ダイヤモンド富士観賞会	秋　4 人 春　19 人	秋・春の「ダイヤモンド富士」の期間に閉館時間を延長して鑑賞会を実施した。悪天候のため春季１日のみ可視。
夜景観賞会	6 人	12/14　**竪穴住居跡や通路をライトアップ**し、高台にある遺跡から日没やヨコハマの夜景を鑑賞した。
ゆずファンの対応	220 人	フォークデュオ・ゆずのファン（ゆずっこ）が聖地巡礼で訪れた際に解説やマップ配布などのサービスを提供した。

どんぐり銀行		近隣の保育園・幼稚園等を誘致してどんぐりを拾い集めてもらい、「どんぐり銀行」に預け入れた。参加した園児には枯木の絵に葉っぱシールを貼ってもらった。
ミスト噴霧 タープテントの設置		・来館者が夏季の暑さを凌げるようミストを噴霧した。 ・日差しの強い時期に日除けのテントを設置した。
岡村公園でのパネル展示		岡村公園と連携して三殿台遺跡の紹介パネル展を開催した。
貫頭衣の貸し出し		新規に記念写真用に貫頭衣を貸し出した。
樹木名札の掲示		新規に樹木名を記載した木札を主な樹木に掲げた。
三殿台クイズの開始		新規に遺跡を巡ってクイズに回答し正解者には景品を差し上げた。
眺望パネルの設置		新規に遺跡から眺望できる場所の名入りの写真パネルを設置した。

4　三殿台考古館施設維持事業（定款第４条第１項第１号③）

三殿台考古館の諸施設を日々管理し、適切に維持するとともに来館者に安心感と満足感を与えるよう運営しました。

（１）三殿台考古館の管理

管理対象施設等	事業内容
三殿台考古館	施設の保守管理、補修・修繕 ・職員による遺跡内及び周辺の清掃作業・施設内巡回などの日常管理、業者委託による年末年始の巡回警備 ・遺跡内草刈り、植栽剪定 ・復元住居入口補修 ・保護棟、旧事務棟屋根の仮補修 ・保護棟、旧事務棟、パーゴラ雨樋の清掃

（２）三殿台考古館施設自動販売機売り上げの推移

項　　目	令和６年度	令和５年度	令和４年度	令和３年度
自動販売機売り上げ（千円）	21	23	23	27

（３）三殿台考古館施設入場者の推移

項　　目	令和６年度	令和５年度	令和４年度	令和３年度
三殿台考古館施設入場者（人）	11,425	12,902	13,838	15,780

学校見学

岡村小６年　土器作り体験

ダイヤモンド富士（3/14）

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	整理ボランティアと協働して、出土資料（自然遺物）の洗浄・選別などの基礎整理や実測・拓本採取などの資料整理、写真フィルム・測量図面等記録資料のデジタルデータ化作業を継続した。	B
常設展事業	学校・一般団体、その他来館者へ職員及びガイドボランティアが展示解説を実施した。展示室の解説キャプションを追加した。小学６年生の社会見学をはじめ小学校～大学の学校利用は約 40 校　約 2,300 人を数えた。	B
企画普及事業	無料の弓矢うちは 3,200 人余りが体験した。ダイヤモンド富士・夜景観賞会では、来館者に景観を楽しんでいただくため開館時間を延長した。ボランティアガイドは延べ 107 人の協力により 1,730 人の来館者に解説を行った。 **貫頭衣の貸し出し、樹木名札の掲示、三殿台クイズの実施、眺望パネルの設置など、新規の来館者サービスを開始した。**	A
施設維持事業	**出勤者全員での開館前の清掃**など、毎日の環境整備を実施した。**倒木の恐れがある民家に面した老木を優先的に剪定する**など、安全面を重視した維持管理をおこなった。	A

Ⅲ　文化財業務委託事業

１　埋蔵文化財センター事業

令和６年度も前年度に引き続き、各事業を滞りなく進めました。

発掘調査事業では、瀬谷区の上瀬谷通信隊跡地の調査において、本調査（３年目）・試掘調査（５年目）を実施しました。同地で行われる GREEN×EXPO2027 に関連する調査もあとわずかとなり、令和７年度も引き続き調査を行う予定です。また昭和 61～62 年に調査された、県内唯一の古代製鉄遺跡栄区上郷深田遺跡の整理作業を完了し、重要遺跡の発掘調査報告書を無事に刊行しました。

1970～80 年代に発掘調査された港北ニュータウンの遺跡群については、縄文時代の環状集落として著名な神隠丸山遺跡の整理作業を継続し、貝塚編・自然科学分析編の報告書（『神隠丸山遺跡Ⅲ』）を刊行しました。

収蔵物については、収蔵スペースの飽和状態を緩和するために、港北ニュータウン遺跡群の報告書刊行済みの資料について、補助金を利用した保管再整備事業を引き続き行いました。

企画展・普及事業としては、昨年度試掘調査報告書を刊行した港北区小机城跡について、港北図書館・城郷小机地区センターと連携して展示を行い、また港北公会堂にて成果報告会を行い、地域の歴史研究の普及に努めました。さらに栄区地域振興課との継続的な普及事業として、宮ノ前横穴墓見学会（大人向け）、勾玉づくり教室（子供向け）の２事業を令和５年度に引き続き協働で開催しました。

普及事業に関連した刊行物として、「シリーズ横浜の遺跡」の３冊目となる「北川谷遺跡群」を刊行し、また広報紙「埋文よこはま」も発行して横浜の遺跡の魅力を市民に向けて発信しました。

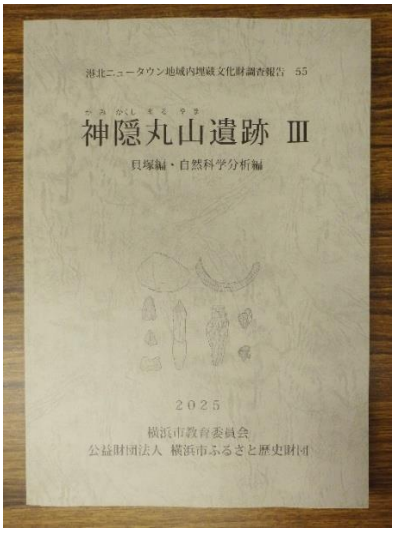
令和６年度は、引き続き感染症の対策を取りつつ、小学校の歴史学習の支援や中学生の職場体験の受け入れを行いました。また勾玉の説明動画等に加え、新たに小机城を紹介する動画を作成し Youtube にて公開しました。X（旧ツイッター）では引き続き最新情報の配信や考古学に関したクイズを出題するなどし、ネットを介した利用者増に貢献しています。

１　埋蔵文化財整備事業（定款第４条第１項第１号①）

港北ニュータウン地域内の遺跡群の資料整理を継続しました。また、保管整備事業に関連して、収蔵状況の圧縮・改善作業を実施しました。さらに、他施設から寄贈される報告書等の図書の受け入れを行いました。

（１）遺物整理・調査研究

項　　目	事　業　内　容
神隠丸山（かみかくしまるやま）遺跡の整理（６／８年次）	神隠丸山遺跡（都筑区早渕一丁目所在）は、縄文時代中・後期の良好な環状集落であり、港北ニュータウン遺跡群を代表する集落遺跡である。令和６年度は「貝塚編・自然科学分析編」を刊行した。



神隠丸山遺跡発掘調査報告書

神隠丸山遺跡整理作業（デジタルトレース）

（２）資料保存・整理

項　　目	事　業　内　容
出土品等保管再整備	港北ニュータウン遺跡群の報告書刊行済み遺跡の資料について、保管再整備を実施。再収納・圧縮作業、台帳作成作業、ラベル張り替え作業等。１遺跡 524 箱に対して実施。
図書等の受入れ・整備	受贈図書のほか蔵書の管理について、データベース化を図り、市民の利用に供した。 受入れ点数　合計　973 冊
収蔵資料の受入れ・収納	令和６年度に新たに受け入れた発掘調査資料は無かった。

出土品保管再整備事業

２　普及・広報・企画展事業（定款第４条第１項第１号②）

港北ニュータウン開発や公共事業等に伴う発掘調査の成果を市民へ還元し、埋蔵文化財保護への関

心を高めるため、広報紙やホームページ等で情報を発信し、埋蔵文化財出土地域での展示・講演会などを開催しました。

（１）広報・刊行物

項　　目	事　業　内　容
ブックレットの刊行・販売	遺跡の内容を市民に分かりやすく伝えるためのブックレットをシリーズ「横浜の遺跡」として販売した。令和６年度は新たに「北川谷遺跡群」を刊行した。 ・vol.1「横浜市戸塚区舞岡熊之堂の戦争遺跡」 ・vol.2「横浜市金沢区野島貝塚」　・vol.３「横浜市都筑区北川谷遺跡群」
広報紙の刊行（年２回）	市内の埋蔵文化財情報を市民へわかりやすく発信した。 ・「埋文よこはま」48　「発掘された仏教施設」　10,000 部 ・「埋文よこはま」49　「縄文時代のアクセサリー①」　10,000 部
ＷＥＢによる情報公開	財団開設のホームページ上で、イベントの案内や刊行物紹介等を行い、Ｑ＆Ａで市内の埋蔵文化財情報を掲載した。本年度は 20 回の更新。
X（旧 Twitter）による情報発信	Ｘを利用した情報発信を行い、埋蔵文化財に関するクイズや日々の活動報告、展示室内の資料紹介など、より親しみやすい内容でフォロワー及びインプレッションの増加を目指した。 本年度更新：27 回　フォロワー数：1,770　インプレッション：55,530（R7 年度）
動画配信（YouTube）	YouTube を利用し、動画の配信を行った。令和６年度は小机城を紹介する動画を作成し、新規配信した。
その他広報	広報よこはまへのイベント情報掲載、県埋蔵文化財センターHP への情報掲載

広報紙「埋文よこはま」

（２）講座・講演会等の開催・講師派遣・

名称／開催期間	事　業　内　容
講話「発掘された小机城」 令和６年11月16日(土)	令和３・４年度に行った試掘調査の成果を市民に分かりやすく説明。港北区地域振興課・港北図書館と連携して実施。応募者多数のため午前・午後の２回行った。 参加者：午前 32 人・午後 27 人（応募定員：各回 40 人） 会場：港北図書館　会議室
歴史散策「発掘された小机城を歩く」 令和６年 12 月 14 日（土）、15 日（日）	令和３・４年度に行った試掘調査成果を発掘担当者が現地で分かりやすく解説した。応募者多数のため２日間行った。 参加者：14 日 28 人・15 日 25 人（応募定員：20 人） 会場：小机城跡（現地）
講演会「小机城から中世の横浜を探る」（令和６年度講座　横浜の考古学）	小机城の試掘調査実施を記念して小机城をめぐる横浜の中世史をテーマに講演会を行った。 参加者：222 人（応募定員：300 人） 会場：港北公会堂
栄区子ども向け歴史講座「親子で勾玉づくり」（栄区協働事業） 令和６年８月３日（土）	子供向けのイベントとして親子で参加できる勾玉づくり教室を栄区地域振興課と協働で行った。勾玉づくりの前に栄区の考古学に関するミニ講座も実施。応募数超過のため、午前・午後の２回行った。 参加者：午前 34 人・午後 31 人（応募定員：各回 30 人） 会場：栄区役所　新館４階　８・９号会議室
「第２回宮ノ前横穴墓群見学会」（栄区協働事業） 令和７年２月２日（日）※雨のため２月 11 日に順延して実施	栄区鍛冶ヶ谷市民の森内に所在する「宮ノ前横穴墓群」を見学する講座を栄区地域振興課と協働で実施。昨年度に引き続き２回目。普段は中に入れない横穴墓群について、南部公園事務所に許可を取り、特別に内部を見学できるようにした。また、現地見学前に横穴墓に関する座学を実施。 参加者：22 人（応募定員：20 人） 会場：栄区役所（座学）・鍛冶ヶ谷市民の森（現地見学）

横浜の遺跡展講和（港北図書館）

小机城跡講演会（港北公会堂）

横穴墓見学会（栄区鍛冶ヶ谷市民の森）

勾玉づくり教室（栄区役所）

（３）展示等の開催

企画展名/開催期間	事　業　内　容
令和６年度横浜の遺跡展「発掘された小机城―令和３・４年度小机城跡埋蔵文化財試掘調査成果報告展―」 第１期：令和６年 11 月１日（金）～29 日（金） 第２期：令和６年 12 月１日（日）～令和７年１月 31 日（金）	令和３・４年に実施された試掘調査の成果報告をいち早く市民に公開するため、地元の港北区の施設にて解説パネル・調査写真パネル・出土遺物等を使った分かりやすい展示を行った。 第１期会場：港北図書館　１階　港北まちの情報コーナー 第２期会場：城郷小机地区センター　２階　展示スペース
エントランス展示	・「舞岡熊之堂遺跡とは」令和６年１月４日～令和６年５月 31 日 舞岡熊之堂遺跡の全体像を紹介するとともに、縄文土器を展示。 ・「真紅で彩る時代―舞岡熊之堂遺跡の弥生時代」令和６年６月１日～令和７年３月 31 日　舞岡熊之堂遺跡の弥生土器を紹介した。

横浜の遺跡展（港北図書館）

エントランス展示（埋文センター）

（４）学校対応・見学者対応

名称／開催期間	事　業　内　容
学校対応	・小学校への訪問授業　４校 　土器等の発掘調査の出土遺物を教室へ持ち込み、本物の遺物に触れながら地元の遺跡から原子古代の暮らしを学ぶ授業を行った。 ※秋季に施設改修工事期間があったため、小学校見学１件、中学校職場体験１件の受け入れができなかった。

小学校訪問授業

（５）講師派遣・その他外部機関協力

名称／開催期間	事　業　内　容
講師派遣	・神奈川大学エクステンション講座　列島東部の考古学Ⅳ　7/13　21 人 ・(公財)かながわ考古学財団講座『元町貝塚』について　9/29　25 人 ・綾瀬市歴史講演会　綾瀬市域周辺の縄文時代について　10/12　57 人 ・横浜さいかちの会　七石山・宮ノ前横穴墓群見学　11/6　14 人

	・横浜国立大学シンポジウム　常盤台遺跡とはどのような遺跡だったのか 11/30　120 人 ・青葉区制 30 周年青葉の歴史外歩き講座　12/4　20 人 ・神奈川県考古学会跡調査・研究発表会（舞岡熊之堂遺跡）1/19　95 人 ・保土ケ谷区公園愛護のつどい　講演「保土ケ谷区の弥生時代」　2/6　164 人
その他外部機関協力	・日本大学　「横浜市内の遺跡出土動物遺体の古 DNA 分析」の共同研究 ・山形大学　「神奈川県横浜市神隠丸山遺跡の食性分析」の共同研究 ・かながわ考古学財団　「上粕屋・秋山遺跡」「上粕屋・秋山上遺跡第２次調査」動物遺体の鑑定・執筆

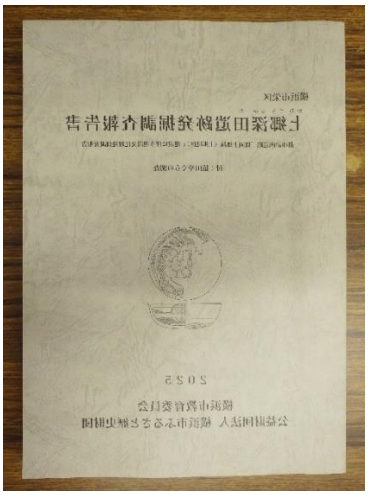
（６）資料利用対応

項　　目	事　業　内　容	
発掘資料・写真資料の貸出・展示・熟覧等	遺物貸出：市内小学校で常設展示	６件
	コミュニティハウス等で展示	０件
	博物館等の施設	３件
	その他	０件
	写真利用：博物館等の施設	４件
	横浜市ほか公共機関等	３件
	出版社	７件
	テレビ番組	１件
	新聞・広報誌等	１件
	その他	８件
	研究者等の資料利用（熟覧・実測等）	14 件

３　発掘調査事業（定款第４条第１項第１号①）

文化財保護法に基づく埋蔵文化財の発掘調査業務を受託しました。

事業略名称	遺　跡　名	所　在　地	委　託　者	備　考
旧上瀬谷通信施設地区遺跡 試掘調査・本発掘調査支援	旧上瀬谷通信施設地区遺跡	横浜市瀬谷区	横浜市教育委員会	縄文時代　狩場 古代　集落跡 近代　軍事施設
上郷深田遺跡整理・報告業務	上郷深田遺跡	横浜市栄区	横浜市教育委員会	古代　製鉄遺跡



上郷深田遺跡発掘調査報告書

上郷深田遺跡発掘調査報告書作成のための検討会

4　施設連携事業（定款第４条第１項第１号②）

事業の共催や展示協力など財団他施設との連携を行ないました。

項　　目	事業内容
中世城郭の研究	小机城の発掘調査を契機に、横浜市歴史博物館と連携して市内中世城郭（主に小机城）の研究を進めた。
戦争遺跡に関する研究	令和７年度に実施する戦後 80 年をテーマとした連携展示の準備のため、横浜都市発展記念館と連携して市内の戦争遺跡に関連する研究を進めた。
お城 EXPO2024 12/20（土）・21（日）	お城エキスポ実行委員会が主催した「お城 EXPO2024」で横浜市歴史博物館と協力し、小机城の発掘調査成果のパネルを中心に展示した。また、ブースで関連刊行物を販売した。

5　埋蔵文化財センター施設維持事業（定款第４条第１項第１号③）

埋蔵文化財センターの施設維持管理及び運営を行いました。**今年度は 8/25(日)に発生した体育館水道周りの雨樋落下による負傷事故のため、翌 8/26(月)～1/29(水)（※地域利用は～1/10(金)）まで施設利用停止措置をとり、雨樋修繕で樋支柱の補強工事を行った他、緊急施設点検を行い対処が必要とされた中庭倉庫の補修、外壁補修工事等を行いました。**なお、安全性が確保できない体育館に関しては引続き利用停止措置をとり、立入りを防止するためのフェンスを設置しています。**※上記教育委員会文化財課実施・対応**

また、遺物の収蔵状況が建物の耐久性に影響を及ぼしており、床面の歪みや柱・梁等建築部材のたわみを引き起こしている状況があることから、遺物の収蔵状況及び重量をとりまとめ今後の遺物収蔵や受入の検討材料として活用している他、教育委員会文化財課と連絡をとり、収蔵過多による建物の歪み・たわみの状況を共有・把握しています。現状でできる対策として、団体利用に開放していた研

修室を遺物の収蔵場所及び整理作業の場として利用することを、協議のうえ決定しました。今後内部検討により、遺物や図書類の移動及び整理作業場所としての環境整備を行い活用します。

日常的には、中庭樹木の害虫駆除や小学校時代より残置されていた液体廃棄物（体育館ワックス剤等）の処分を行い、収蔵室内のガラス破損や扉の修繕など小破修繕に対応し、施設の適切な管理・維持を行いました。

見学者対応としては、個人・団体の受入れ・案内を継続し、展示室内の清掃及び湿度管理を行いました。また刊行物の通販も引続き受け付け、販路拡大に向けて通販サイトの導入を開始しました。

管理対象施設	内　　容
埋蔵文化財センター主な工事及び修繕	雨樋補修：体育館及びB・C棟周囲（文化財課対応）、ガードフェンス設置：体育館・プール周囲（文化財課対応）、外壁・小庇爆裂部補修：A～C棟及び給食棟（文化財課対応）、中庭倉庫軒樋撤去（文化財課対応）、プール鋼材腐食部ネット設置（文化財課対応）、エキスパンション修理：B・C棟渡り廊下の下（文化財課対応）、電線保護管塗装：A・B棟渡り廊下の下（文化財課対応）、スズメバチ駆除、ガラス修繕（A2-4収蔵室）、B棟屋上扉鍵修繕
見学者対応	個人・団体の受入れを継続。また希望者に展示室の解説やＤＶＤの視聴に対応した。　見学者：223名（前年度363名）※施設利用停止8/29～1/29
研修室利用 **※R7年度より中止**	団体を対象に研修室の貸出・利用対応を行った。 利用者：395名（前年度961名）※施設利用停止8/29～1/29
刊行物販売	試掘調査報告書『小机城跡』、発掘調査報告書『舞岡熊之堂遺跡』、 ブックレット『舞岡熊之堂遺跡の戦争遺跡』・『野島貝塚』、『横浜城郭図』他 売上：674,689円

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
埋蔵文化財整備事業	港北ニュータウン地域内遺跡群の整理作業を継続し、**神隠丸山遺跡の貝塚編については学術水準の高い報告書を刊行した。**また、昨年から開始した出土遺物保管再整備事業を継続し、引き続き収納スペースの整理、台帳の整備を行った。	A
普及啓発事業	**小机城跡の試掘調査成果の公開を期して展示・講座・講演会を行い、また引き続き遺跡の動画作成・公開を行った。いずれも市民から高評価を得た。**さらにシリーズ「横浜の遺跡」ブックレットの３冊目「北川谷遺跡群」を作成、頒布を行った。昨年度より開始した栄区地域振興課と協働で行う普及啓発事	S

	業（横穴墓見学会・勾玉づくり教室）を予定通り開催した。	
発掘調査事業	文化財業務委託事業外の業務委託による発掘調査・整理作業２件（本調査・試掘支援１件、整理・刊行１件）を受託した。いずれも関係部局との調整を密にして、事業を行った。**県内唯一の古代製鉄遺跡である上郷深田遺跡の報告書を予定通り刊行した。**	S
施設連携事業	小机城跡試掘調査報告書作成事業や「お城EXPO2024」ブース出展について横浜市歴史博物館とともに協力した。	B
施設維持事業	近年増加している施設修繕について、市の関係部局と連携して、適切に進めた。とくに**令和６年度は事故の発生を受けて市による全施設点検・補修が行われ、施設の一般利用や地域利用が一定期間停止したが、関係部署と連絡を密にし、適切に対応した。**	S

２　史跡等管理事業

横浜市の歴史・文化財関連施設の維持管理・運営を行いました。

１　八聖殿郷土資料館事業（定款第４条第１項第１号）

本牧に関する歴史をより広く知って楽しみながら関心をもっていただくことで、地域のことを好きになってもらえるような取り組みをしています。また、当館には空調機器類が設営されていないため夏季・冬季通じて当館内での通年の歴史講座を開催することが困難なことから、地域の施設と連携して本牧の歴史に関する講座を実施しています。

１　本牧地域への貢献

項　目	事 業 内 容
本牧に関する歴史講座等の開催	（１）本牧中学校コミュニティハウス定例歴史講座 本牧の歴史　入門編　２４回開催　参加者７３３人 （２）本牧地区センター定例歴史講座 よもやま夜咄　１２回開催　参加者２５４人 （３）町内会および近隣施設での講演等 講座・散策・体験学習　１９回開催　参加者５４６人
本牧の歴史に関する配信	（１）タウンニュース　中区・西区版　コラム

等	「本牧きまぐれ歴史散策」　２０１７年から月１回連載 今年度は第７９回から第８９回および番外編１回を執筆 （２）横浜市中区老人クラブ連合会　コラム 「横浜もののはじまり」　2024 年７月号・2025 年１月号に連載 （３）YouTube チャンネル ９２番組を配信中　　再生回数９１，５２５回 （４）Facebook ブログ 令和６年度は１９回配信
学校授業支援	（１）本牧地区その他小学校での授業依頼 ２８回　出席者数１，４１６人 （２）教職員研修 本牧や横浜の歴史についての研修　　７校のべ１３人 （３）中学生職業体験 大鳥中学校２年生３名を２日間
歴史講座	本牧地域にお住いの方々を中心に、横浜市域に関する歴史を紹介。 （１）歴史講座 歴史に詳しくない方でも、横浜の歴史を理解し、興味をもっていただくことを目的とした講座を開催。 １６回開催　参加者４８７人 （２）ゼミ 古文書原本なども読み進めながら解説するなど、専門的な内容も楽しく学んでいただくことを目的とした講座。中世・近世・民俗の３コースを開催。 ２２回開催　参加者５４１人 （３）歴史散歩 １７回開催　参加者３６６人
地域との連携	（１）本牧・根岸地区まちづくりの会活動の支援 （２）大鳥中学校ＰＴＡ活動への参加 （３）本牧地域の町内会や活動団体と協力した講座・体験イベントの開催 （４）本牧の歴史に関する調査研究、調査研究支援・協力

２　本牧外地域からの依頼・支援

項　目	事 業 内 容
博物館実習	これまでの実績から、毎年、博物館実習の受け入れ依頼がある。 令和６年度は実習生１２人を受け入れた
講座・散策・体験学習	地区センター、老人福祉施設、各区ボランティアガイド等から講座や散策・体験学習などで講師依頼があり、受託している。 ４１回開催　参加者数１，３００人

３　資料および施設の維持管理

項　目	事 業 内 容
資料収集保管	（１）ご提供いただいた写真資料などはデジタルデータとして受け入れ、整理・保管している。 （２）歴史博物館の協力を得て、館蔵資料の整理を進めている。
施設維持管理	（１）常設展示の修繕、リニューアル （２）施設・設備の維持管理 （３）清掃および植栽等の管理

４　八聖殿郷土資料館利用者の推移

項　　目	令和６年度	令和５年度	令和４年度
八聖殿郷土資料館利用者数（人）	１３，００６	１２，８１８	１１，３３１

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
八聖殿事業	当館が本牧の地域博物館として果たしてきた役割が他地域でも求められ、関心を示していただけていることと受け止めている。	A

２　史跡管理事業（定款第４条第１項第１号③）

横浜市の文化財である、国指定史跡称名寺境内等の維持管理を適切に行いました。

管理対象施設等	事業内容・所在地など
国指定史跡称名寺境内	史跡の維持管理 所在地：金沢区金沢町
県指定史跡稲荷前古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区大場町
県指定史跡市ヶ尾横穴古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区市ヶ尾町
上行寺東遺跡復元整備地	史跡の維持管理 所在地：金沢区六浦二丁目

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
史跡管理事業	委託業者による通常の維持管理に加え、総務課職員によるこまめな見回りや修繕を行いました。所管課への報告・連絡を密にし、所管課で対応すべき修繕等についても積極的に働きかけを行うことで、史跡の適切な維持管理につなげることができました。	A

Ⅳ　市史資料委託事業

横浜市総務局行政マネジメント課の委託を受け、総務局が所管する横浜市史資料室所蔵資料の公開・閲覧を行い、あわせて所蔵資料の保存・管理を行いました。昭和期の横浜に関する資料の収集に努め、令和 6 年度は 813 点の資料を受け入れました。また所蔵資料を中心に調査研究を進め、その成果を『市史通信』『横浜市史資料室紀要』等の刊行物として公開しました。普及事業では年 3 回の室内展示を開催して、所蔵資料の紹介に努めたほか、令和 6 年度は屋外彫刻をテーマにした講演会を開催しました。その他、横浜開港資料館や横浜都市発展記念館など財団運営施設での企画展や、市民利用施設における展示会等に協力し、写真・資料の貸し出しを通じて所蔵資料の公開、普及に努めました。

1　資料収集保管事業（定款第４条第１項第１号①）

（１）資料の収集・管理・公開

項　　目	点　　数	事　業　内　容
資料の寄贈	15 件 263 点	資料の寄贈を受け、整理・目録化を行った。 【主な収集資料】小山芳美家資料（追加）、陸軍脛当て、横浜市銃後奉公会顕彰旗、富浜利郎家資料（追加）、（空襲時の）表彰状、池田家資料、ボングー洋装店資料（追加）、永田家資料、松澤家資料（写真アルバム）、株式会社石橋資料（商店関係）他
図書・刊行物	546 点	図書（131 冊）、行政刊行物（415 冊）の収集・整理を行った。
資料の移管	0 件	移管された文書および行政刊行物の整理・目録化を行う（今年度はなし）。
資料の購入	4 件 4 点	以下の資料を購入した。 横浜市川崎市連合防護団資料、（鶴見）商店繁栄双六、『令女界』（第 15 巻 1 号）他
複製資料の選定	ﾏｲｸﾛﾌｨﾙﾑ：40,754 ｺﾏ ﾌｨﾙﾑｽｷｬﾝ：6,828 ｺﾏ ﾌﾟﾘﾝﾄ：6,828 枚	マイクロフィルム撮影による複製資料作製のための資料選定をおこなった。 【主な選定資料】内田民蔵資料、横山純也家資料、団

		地通信社『The KEY』 他
資料整理・保存		収集資料の整理、目録の作成、および一部資料について、公開に向け再整理を行った。また、中性紙封筒への封入、および再整理資料の中性紙封筒への入れ替えの作業を行った。さらに資料保管先の変更に伴う資料の確認、および保存箱への入れ替え作業を行った。
資料公開	入室者数：414 人	資料閲覧、複写、レファレンス対応等を行った。
資料特別利用	提供件数：162 件	出版物掲載（48 件）、放映等利用（26 件）、展示出陳（25 件）、HP 掲載その他（63 件）のために、写真および資料の提供を行った。

2　調査研究事業（定款第４条第１項第１号①）

（１）調査研究

項　　目	事　業　内　容
所蔵資料等についての調査研究	火災保険地図の調査・研究の成果を活かして、室内展示「中区火災保険図」を実施した。また、横浜の洋装関係資料に関する調査・整理の成果を、今年度の報告書に反映させた。
戦前・戦後期の横浜に関する調査研究	昭和期の都市化や教育および市民生活などのテーマに即した調査研究を行う。今年度は、震災復興期の土地区画整理、戦前期の女性たちの活動、昭和期の地図資料に関する調査研究を行い、その成果を『市史通信』や『横浜市史資料室紀要』に反映させた。
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業	令和 7 年度の戦後 80 年に向けて、横浜の空襲と戦災関連資料の調査を開港資料館・都市発展記念館・埋蔵文化財センターと連携して進めた。また、開港資料館・都市発展記念館・神奈川県立歴史博物館と連携して「都市横浜『歴史空間』復原への調査研究事業」を進めた。

3　企画普及事業（定款第４条第１項第１号②）

（１）閲覧室運営

項　　目	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度
展示見学者（人）（注 1）目標数 5,000 人	6,498	3,793	4,225
入室者数（人）目標数 600 人	414	559	496
資料閲覧室利用者数（人）（注 2）	44	55	50
複写申込件数（件）	184	218	236
レファレンス件数（注 3）目標数 200 件	202	186	155
電話レファレンス件数（注 4）目標数 200 件	252	285	378

（注 1）市史資料室内展示コーナーの見学者数

（注 2）資料閲覧室は、一次資料専用の閲覧室であり、開架資料の閲覧室とは別室

（注 3）レファレンス件数は、来室者からレファレンスを受け付けた件数

（注 4）メールレファレンス含む。

（２）展示会・講演会・講座の開催

項目	事業内容
室内展示の開催	以下の室内展示を開催した。 ・「遊覧バスでめぐるヨコハマ観光と野毛山」 会期：令和 6 年 4 月 27 日～7 月 13 日 入場者数：873 人 ・「雑誌にみる女性たちの集い」 会期：令和 6 年 7 月 27 日～11 月 9 日 入場者数：1,265 人 ・「中区火災保険図～「野毛山周辺」を中心に～」 会期：令和 6 年 11 月 23 日～令和 7 年 3 月 22 日 入場者数：4,360 人
講演会の開催	講演会「野毛界隈彫刻巡礼－清正公と井伊直弼と美空ひばり－」 日時：令和 6 年 9 月 28 日（土）14 時～16 時 会場：横浜市中央図書館地下 1 階ホール 講師：木下直之（東京大学名誉教授、静岡県立美術館館長） 参加者：79人

（３）情報発信・普及広報

項目	事業内容
『市史通信』の刊行	情報誌として『市史通信』（No.50～No.52）を刊行した（各 3,200 部）。資料提供者（機関）、および関係者（機関）へ発送するとともに、市民に配布した。また、同一内容の PDF ファイルをホームページ上で公開した。
『紀要』の刊行	所蔵資料の調査を中心とした、横浜の昭和史に関する研究成果を発表するため、『横浜市史資料室紀要』第 15 号を刊行した（600 部）。所蔵資料に関する研究論文や紹介文を掲載した。
報告書の刊行	令和 5 年度のシリーズ展示「横浜の女性と洋装」の内容とその後の調査結果をまとめ、『横浜市史資料室報告書 令和 6 年度 横浜の女性と洋装』として刊行した（600 部）。
ホームページの公開	ホームページに、目録情報や所蔵資料概要を掲載し、刊行物の案内、展示会等の案内、『市史通信』の掲載など情報発信を行った（横浜市総務局行政マネジメント課で作成。随時更新）。 アクセス件数：137,902 件
広報宣伝活動	・以下の媒体に展示会や講演会の記事が掲載された。

	『神奈川新聞』（10 月 12 日）　室内展示「雑誌にみる女性たちの集い」 『タウンニュース』中・西・南区版（9 月 5 日）　講演会「野毛界隈彫刻巡礼」 ・室内展示のポスター、案内チラシを作成し、掲示・配布した。 ・財団メールマガジンによる情報発信を行った。
その他	講師派遣 ・神奈川大学　共通教養科目【横浜まち歩き】「横浜駅の変遷」について（令和 6 年 5 月 24 日） ・横浜市山内図書館　有隣新書で知る講座「横浜・鉄道と都市の 150 年」（令和 6 年 6 月 30 日） ・保土ケ谷区東部連合自治会　保土ケ谷の歴史探訪「保土ケ谷と鉄道の歴史」（令和 6 年 9 月 21 日） ・片倉三枚地域ケアプラザ「横浜・鉄道と都市の 150 年」（令和 7 年 1 月 25 日）

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
市史資料室事業	資料収集保管事業では、昭和期の貴重な地域資料が収集でき、市史資料の一層の充実につなげた。調査研究事業・企画普及事業では、これまで取り上げることがなかった女性史・美術史の分野に取り組んだ。また開港資料館・都市発展記念館の事業への資料提供など、指定管理施設との連携もこれまで通りに進めた。	A

【参考:評価の基準】

評価基準については、平成 21 年 6 月の理事会・評議員会で決定されたものです。

S	目標を大きく上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より大幅に進めた。 定量評価:目標値 120%以上達成
A	目標を上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より進めた。 定量評価:目標値 105%以上 120%未満達成
B	目標通りの成果が上がった。予定通り進めた。 定量評価:目標値 95%以上 105%未満達成
C	目標を下回る成果にとどまった。予定通り進めることができなかった。 定量評価:目標値 80%以上 95%未満達成
D	目標を大きく下回る成果にとどまった。予定より大幅に遅れた。 定量評価:目標値 80%未満